

**厚生労働科学研究費補助金**

**難治性疾患政策研究事業**

**脊柱靱帯骨化症に関する調査研究**

**平成 29 年度～令和 1 年度 総合研究報告書**

**研究代表者 大川 淳**

**令和 2 年 (2020) 年 7 月**

## 目 次

総合研究報告

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究

大川 淳

研究成果の刊行に関する一覧表

別紙 4 . 書籍 (英文)(H.29~R.2 年度)

書籍 (邦文)(H.29~R.2 年度)

雑誌 (英文)(H.29~R.2 年度)

雑誌 (邦文)(H.29~R.2 年度)

学会発表 (国際学会・国内学会)

班会議プログラム (H.29~R.2 年度)

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業  
総合研究報告書

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究

研究代表者 大川 淳 東京医科歯科大学大学院整形外科学 教授

研究要旨 本研究班は 3 年間で多数の多施設前向き臨床研究を遂行し、全国の参加施設からこれまでにないサンプル数のデータを収集し、解析を進めてきた。また集積されたデータに基づき多数の研究発表が行われ、権威ある専門雑誌に数多くの論文が掲載されるなど、研究成果を国際社会に発信した。頚椎 OPLL、胸椎 OPLL、OYL を含んだ新しい‘脊柱靱帯骨化症ガイドライン’を発刊した。

A . 研究目的

脊柱に靱帯骨化をおこし、神経障害や ADL 障害を引き起こす後縦靱帯骨化症 (OPLL)、黄色靱帯骨化症 (OLF)、びまん性特発性骨増殖症 (DISH) (= 強直性脊椎骨増殖症 (ASH))、進行性骨化性線維異形成症 (FOP) の診断基準、重症度分類の作成、診療ガイドライン (GL) の作成、改訂を目標として、各疾患に対する多施設研究を中心とした臨床研究を行う。診断、画像、治療、予後に関して、研究の結果得られる質の高い科学的根拠を蓄積し、診療 GL に反映させていく。

B . 研究方法

ここでは研究計画に基づいて、多施設共同で研究を行った臨床研究プロジェクトについて報告する。多施設研究は全て各施設の倫理委員会の承認のもとに行っている。

C . 研究結果

1) 難症例における術中脊髄モニタリングの前向き調査

浜松医科大学、松山幸弘を Project leader とし、日本脊椎脊髄病学会脊髄モニ

タリングワ-キンググループと共同で、16 施設を対象として、2010 年 4 月から 2017 年 3 月までにハイリスク脊椎手術症例 (脊柱後縦靱帯骨化症、脊髄腫瘍、側弯症手術) を 2867 例蓄積し、手術中モニタリングに関して調査を行った。対象疾患は 2867 例中、頚椎 OPLL 622 例、胸椎 OPLL 249 例、髄外腫瘍 771 例、髄内腫瘍 216 例と側弯症 1009 例であった。疾患ごとの神経合併症率は、頚椎 OPLL は 1.1%、胸椎 OPLL は 12.0%、髄内腫瘍の頻度が高く 18.1%であった。疾患ごとの神経合併症率は、頚椎 OPLL は 1.1%、胸椎 OPLL は 12.0%、髄内腫瘍は 18.1%であった。先行研究から振幅の 70% 低下を Br (E) -MsEP のアラームポイントとした。モニタリングの精度は感度 94%、特異度 92%、陽性的中率 36%、陰性的中率 99.6%、偽陽性率 8%、偽陰性率 6%であった。振幅の 70% 低下をアラームポイントとした場合、約 12% に神経障害が術中に予見できた。そのうちの 6 割の症例で術後麻痺を回避できた。術後麻痺を回避できた割合が高かった疾患は頚椎 OPLL と側弯症で、回避できなかった割合が高かったのは胸椎 OPLL と髄内腫瘍例であった。アラームを生

じうるタイミングは頸椎 OPLL では後方手術時の椎弓拡大、前方手術時の椎体亜全摘であった。また胸椎 OPLL では最狭窄部位の除圧が最も高頻度であり注意が必要である。(研究成果: Yoshida et al., Spine (Phila Pa 1976). 2019 Apr 15;44(8):E470-E479. Yoshida et al., Spine (Phila Pa 1976). 2019 Oct 15;44(20):1435-1440.)

## 2) CT を用いた脊椎靭帯骨化症患者における全脊椎骨化巣の評価 -前向き研究-

頸椎 OPLL の骨化巣に対する CT を用いた新分類を提唱した富山大学、川口善治を Project leader として 16 施設が参加し、前向き調査が行われた。頸椎 OPLL 患者の JOA スコアを含む基礎データ、JOABPEQ、JOACMEQ と全脊柱 CT データを渉猟できた 239 例を対象とした。骨化の重篤度を測る指数として椎体および椎間レベルに存在する OPLL の総和を OP index と定義し、頸椎 OP index5 以下を Grade 1,6-9 を Grade 2、10 以上を Grade 3 に分け(頸椎 OP 分類)神経症状と痛み、生活動作などとの関連を詳細に解析した。

男性 163 例女性 76 例で、平均年齢は 63.9 歳、平均 JOA スコアは 12.3 点であった。頸椎 OP 分類と頸部痛、上肢しびれ、腰痛の VAS との有意な相関は見られなかった。JOACMEQ で下肢機能、BPEQ では社会生活が頸椎 OP 分類と相関した。JOA スコア各項目でも下肢運動機能のみ頸椎 OP 分類と相関していたが、その他の項目は有意な関連はなかった。一方で頸椎 OP 分類が上がるほど OPLL による骨化脊柱管占拠率、びまん性特発性骨増殖症の程度、他の脊柱靭帯骨化の存在数などが有意に増加する傾向が分かっ

た。

本研究では頸椎 OPLL の骨化巣が多く存在する場合胸腰椎にも脊柱靭帯骨化が予測されることが分かった。OPLL の画像重症度は必ずしも痛みや神経機能を直接反映するものではなかったが、頸椎 OP 分類 grade 3 (最も重症骨化)の場合は神経障害をきたしていることも多く精査が推奨される。

(研究成果: Hirai et al., Sci Rep. 2020 Mar 26;10(1):5532. Mori et al., J Orthop Sci. 2019.)

## 3) びまん性特発性骨増殖症(DISH)における脊椎損傷

慶應義塾大学、松本守雄を Project leader とし、以前に後ろ向きに症例収集を行っている。今回、全国 18 施設にて DISH 脊椎損傷患者の臨床データおよび治療成績を前向きに集積した。

平成 27 年 12 月以降、参加施設を受診した 69 例(男性 44 例、女性 25 例、平均年齢 75.2±11.4 歳)を対象とした。診断の遅れ、医療機関受診までの日数、正しい診断までの日数、診断名、受傷時の神経症状(Frankel 分類)と一段階以上神経症状の悪化例について検討した。

55.1%で診断の遅れがあり、その理由は doctor's delay が 55.3%、patient's delay が 44.7%であった。遅れがなかった症例では全例が受傷当日に 1 次医療機関で正しい診断がされていたが、遅れのあった症例では医療機関の受診までに 11.3 日(0-180 日)かかり、骨粗鬆症性椎体骨折の初期診断(57.9%)が多かった。受傷時の神経症状は Frankel B 2.9%、C 7.2%、D 15.9%、E 73.9%であったが、17.2%に遅発性麻痺を認

め、受傷から14日以内に診断不能だった場合に神経症状の悪化例を多く認めた( $p=.049$ )。本損傷は非典型的な脊椎損傷であるために不適切な初期診断がされることが多い。今後さらに一般診療医への啓蒙などにより、初期診断の精度を改善させていくことが重要である。(研究成果: Okada et al. J Orthop Sci. 2019 Jul;24(4):601-606. Katoh et al. J Clin Med. 2020 Jan 12;9(1). pii: E208.)

#### 4) 転倒による症状悪化に対する手術の影響

圧迫性頸髄症患者では、歩行バランスの低下による転倒の危険性が増大しており、転倒時の比較的軽微な外力による神経症状悪化が問題となる。自治医科大学、竹下克志をProject leaderとして、これまでに手術治療を受けた圧迫性頸髄症患者を対象として以前に後ろ向きに調査を行い、全国11施設から350例の症例集積を行った。今回は前向きに症例収集を行い検討を行った。研究参加時に転倒に関する記録帳(転倒手帳)を配布し、転倒があった場合には発生の日時や状況などを記録するように依頼した。転倒時の自覚症状悪化は、上下肢の「しびれのみ悪化」と「動きが悪化」の2段階に分類した。

159名が術後1年の経過観察を終了し、132名の転倒手帳が回収できた。この132名(男83名、女49名、平均年齢69歳)を分析の対象とした。平均観察期間は術前1.8カ月、術後12.1カ月であった。術前96回、術後119回の転倒が観察され、観察人年当たりの転倒発生は術前5.0回から術後0.9回と5分の1に以下に減少していた。転倒

1回当たりの運動悪化の発生頻度は、術前34%が術後8%と有意に減少していた( $P<0.001$ )。術前に転倒時の「動き悪化」が発生した17症例では、悪化がなかった症例に比較して術後1年時のJOAスコアが有意に低値であった( $P=0.02$ )。

圧迫性頸髄症に対する手術治療が、転倒とこれに伴う神経症状悪化を有意に減少させることが前向きの検討によって示された。術前の転倒による自覚症状悪化が術後1年時の有意な機能低下につながっていたことから、術前の転倒に対する予防策の重要性が示唆された。(研究成果: Kimura et al., Spine (Phila Pa 1976). 2020 Jun 1;45(11):E631-E638. Inose et al, Spine (Phila Pa 1976) 2020 April.)

#### 5) 胸椎後縦靭帯骨化症の手術成績

胸椎OPLLは頻度が低いものの、手術後の麻痺など問題があり未だ術式の確立が成されていない。名古屋大学、今釜史郎をProject leaderとし、2011年12月以降に胸椎OPLL手術115例(男性53例、女性62例、手術時平均年齢53歳)が前向きに登録され、その手術成績を調査した。

術式は前方除圧固定8例(7%)、後方手術は後方固定術4例(3.5%)、椎弓切除術6例(5.2%)、後方進入前方除圧固定術12例(10%)、後方除圧固定術(矯正固定術含む)85例(74%)であった。JOAスコア改善率は術後徐々に改善し術後1年では平均55%であった。術式別JOA改善率(1年)は有意差がなかった。術後半年のJOAスコア改善率は術中エコーでの脊髄浮上した症例で有意に51例(44%)で、一過性を含む術後麻痺発生は40例(35%)であった。

また 2014～2017 年に参加 16 施設で胸椎黄色靭帯骨化症(T-OLF)に対して手術治療が行われた 223 例も調査した。

全体の JOA スコアは術前 6.2、術後半 7.9(改善率 35%)、1 年 8.2(40.9%)、2 年 8.2(41.4%) で あ っ た 。 術 式 は instrumentation 併用後方固定術 109 例、除圧術 114 例で、1999～2007 年多施設研究：除圧術 86 例、後方除圧固定術 8 例と比べ有意に固定術症例が増加していた。術中硬膜骨化もしくは癒着は 34 例に認め、そのうち 25 例に硬膜損傷が生じた。周術期合併症は術後運動麻痺悪化 9 例(4.0%)、髄液漏 5 例、深部感染 3 例であった。術後 1 年時 JOA 改善率が除圧術 37.1%、後方除圧固定術 44.9%と有意差を認めた( $p<0.05$ )。インストゥルメンテーション技術、使用材料の発達に加え、強い脊髄障害、つまり骨化形態が重度な症例に対してインストゥルメンテーション併用固定術が選択されたと考えられた。(研究成果：Ando et al., Spine (Phila Pa 1976). 2019 Aug 13. Imagama et al., Spine (Phila Pa 1976). 2018 Apr 23.)

## 6) 進行性骨化性線維異形成症患者 (FOP) の患者レジストリ構築

進行性骨化性線維異形成 (FOP) は、進行性の異所性骨化により四肢関節拘縮、脊柱変形、開口障害を生じ ADL や QOL が低下する疾患である。研究班が収集する FOP 患者 50 名の情報を解析した。FOP 患者 50 名の性別の内訳は男性 28 名、女性 22 名であった。50 名中 47 名が遺伝子検査を受けており、うち 44 名は 617G>A (R206H) の common mutation を示した。その他の 3 名はそれぞれ 774G>T (2015 に研究班が報告)、587T>C (2014 に研究班が報告)

982G>A、であった。生年による診断時年齢の違いを調査すると、2007 年までに出生した患者では、30 名中 26 名が 2 歳以降に診断を受けていた (R206H 以外の遺伝子変異の 3 名を含む) のに対し、2008 年 (研究班設置の翌年) 以降に出生した患者では、9 名中 7 名が 1 歳までに診断を受けていた。

今後の FOP 臨床研究、さらには候補治療薬の治験等を進めるためには、日本人患者の情報収集が重要な役割を果たす。そこで難病プラットフォーム (Rare Disease Data Registry of Japan: RADDAR-J) と連携し、患者レジストリ構築の準備を開始し、関係する京都大学での倫理審査が終了し、事務局を置く東京大学の体制を整備した。(研究成果：Nakahara et al., Disabil Rehabil 41(6): 699-704, 2019. Haga et al., Pediatr Int 62: 3-13, 2020)

## 7) 新診療ガイドライン策定

診療 GL 策定委員会(委員長：川口、委員：國府田、筑田、森、今釜、吉井、海渡、長谷川)を立ち上げ、Minds の指針にのっとったガイドライン作成を行った。本ガイドラインは、従来の頸椎 OPLL ガイドラインを改定し、胸椎 OPLL, OYL を含んだもので、'脊柱靭帯骨化症ガイドライン'として、新しく頸胸椎 OPLL の CQ を改定した。H30 に系統的文献 Review を行い、H31 にガイドラインの原稿作成、関係学会、患者会からのパブコメ募集を行い、H31.10 月に発刊された(研究成果：Yoshii et al., J Orthop Sci. 2020 Jan 30. pii: S0949-2658(20)30001-4. 脊柱靭帯骨化症診療ガイドライン 2019: 南江堂)。

#### D. 考察、

脊柱靱帯骨化症研究班として前体制の3年間で、多くのデータを全国の施設から集積する研究方法を確立し、本体制の3年間で立ち上げた研究結果をまとめ、多くの報告を国際誌に行った。特にこの3年間で多くの多施設前向き研究を行い、質の高いエビデンスの集積を行った。

また診療GL策定委員会を立ち上げ、従来の頸椎OPLL診療ガイドラインを改定し、胸椎OPLL,OYLを含んだ‘脊柱靱帯骨化症診療ガイドライン’として、新しいガイドラインを作成した。本ガイドラインはMindsの指針に沿ってCQを作成し、系統的レビューを行っている。また本ガイドラインには、研究班で集積した臨床エビデンスも数多く採用されている。

今後は、手術治療だけでなく、自然経過や保存治療、手術後にも遺残する痛みにも着目して臨床研究を行い、更なるエビデンスの集積を行っていく。また研究班で得た成果を診療ガイドラインに反映させていく。

#### E. 結論

靱帯骨化症調査研究班として多数の多施設臨床研究を立ち上げ、重要な研究結果が多数得られている。これらの成果を社会に発信していくとともに、診療ガイドラインに反映させ、‘脊柱靱帯骨化症診療ガイドライン’を発刊した。

#### F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

書籍・雑誌一覧表の通り。

##### 2. 学会発表

別紙 学会発表の通り。

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし

## 別紙 4

研究成果の刊行に関する一覧表  
書籍（英文）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Matsumoto M	Overview of Recent Basic Researches on OPLL and OLF	Okawa A Matsumoto M Iwasaki M Kawaguchi Y	OPLL Third Edition	Springer	Singapore	2020	35-37
Yamazaki M Abe T Funayama T Takahashi H Maki S Furuya T Koda M	Diagnosis of OPLL and OLF; Overview	Okawa A Matsumoto M Iwasaki M Kawaguchi Y	OPLL Third Edition	Springer	Singapore	2020	101-112
Ozawa H	Clinical Manifestation of Cervical OPLL	Okawa A Matsumoto M Iwasaki M Kawaguchi Y	OPLL Third Edition	Springer	Singapore	2020	113-118
Matsuyama Y Yoshida G Banno T	Clinical Manifestations of Thoracic Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament(OPLL)and Ossification of the Ligament Flavum(OLF)	Okawa A Matsumoto M Iwasaki M Kawaguchi Y	OPLL Third Edition	Springer	Singapore	2020	129-134
Mori K	Diagnostic Imaging of Thoracic OPLL and OLF	Okawa A Matsumoto M Iwasaki M Kawaguchi Y	OPLL Third Edition	Springer	Singapore	2020	145-151



## 別紙 4

Kawaguchi Y	Open-Door Laminoplasty for Cervical OPLL: Technique, Long-Term Results, and Complications	Okawa A Matsumoto M Iwasaki M Kawaguchi Y	OPLL Third Edition	Springer	Singapore	2020	181-185
Takeshita K	Double-Door Laminoplasty for Cervical OPLL: Technique, Complications, and Long-Term Results	Okawa A Matsumoto M Iwasaki M Kawaguchi Y	OPLL Third Edition	Springer	Singapore	2020	187-192
Yoshii T	Anterior Cervical Decompression for Cervical OPLL: Technique, Complications, and Long-Term Results	Okawa A Matsumoto M Iwasaki M Kawaguchi Y	OPLL Third Edition	Springer	Singapore	2020	201-206
Imagawa S Ando K Kobayashi K Nakashima H Ishiguro N	Posterior Decompression and Fusion for Thoracic OPLL: Surgical Techniques, Outcomes, Timing, and Complications	Okawa A Matsumoto M Iwasaki M Kawaguchi Y	OPLL Third Edition	Springer	Singapore	2020	213-224
Kaito T	Surgery for Ossification of the Ligamentum Flavum: Posterior Decompression with or Without Fusion	Okawa A Matsumoto M Iwasaki M Kawaguchi Y	OPLL Third Edition	Springer	Singapore	2020	243-248

## 別紙 4

Hirai T Yoshii T Okawa A Kwaguchi Y	Evaluation of Distribution Patterns of Spinal Ligament Ossification Using Whole-Spine Computed Tomography in Patients with Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament	Okawa A Matsumoto M Iwasaki M Kawaguchi Y	OPLL Third Edition	Springer	Singapore	2020	135-143
Nagamoto Y Iwasaki M	Surgical Indications and Choice of Surgical Procedure for Cervical Ossification of the Longitudinal Ligament	Okawa A Matsumoto M Iwasaki M Kawaguchi Y	OPLL Third Edition	Springer	Singapore	2020	167-174
Koda M Abe T Furuya T Funayama T Takahashi H Noguchi H Miura K Nagashima K Shibao Y Yamazaki M	Posterior Decompression and Fusion for Cervical OPLL: Indication and Technique	Okawa A Matsumoto M Iwasaki M Kawaguchi Y	OPLL Third Edition	Springer	Singapore	2020	193-199
Yoshida G Banno T Matsuyama Y	Surgical Treatment of Thoracic Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament: Intraoperative Spinal Cord Monitoring	Okawa A Matsumoto M Iwasaki M Kawaguchi Y	OPLL Third Edition	Springer	Singapore	2020	257-263
Banno T Matsuyama Y	Intraoperative Ultrasonography for Patients with Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament	Okawa A Matsumoto M Iwasaki M Kawaguchi Y	OPLL Third Edition	Springer	Singapore	2020	265-278

別紙 4

Sakai K	Computer-Aided Surgery for Ossification of the Spinal Ligaments	Okawa A Matsumoto M Iwasaki M Kawaguchi Y	OPLL Third Edition	Springer	Singapore	2020	249-256
Tanaka M Takigawa T	Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament in the Cervical Spine	M.Tariq Sohal, Lawrence G. Lenke, Kuniyoshi A Amer F. Samdani	The Spine Principles and Practice	Update Book Company	Pakistan	2018	941-946
Ishii K, Shiraishi T.	Introduction	Heiko Koller and Yohan Robinson	CSRS-Europe Cervical Spine Book	Springer	Europe	2018	
Ishii K, Shiraishi T	Introduction “Posterior decompressive surgery: The concept”		Cervical Spine Surgery: Standard & Advanced Techniques	Springer	Europe	2017	

## 書籍（和文）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版 年	ページ
山崎正志	脊柱靱帯骨化症	大鳥精司 高相晶士 出家正隆 吉矢晋一	TEXT 整形 外科 5 版	南山堂	東京	2019	81-86
牧 聡 山崎正志	頸椎椎弓形成術 （片開き）	山崎正志	脊椎手術 合併症回 避のポイント	メジカル ビュー社	東京	2019	2-18
安部哲哉 山崎正志	頸椎後方除圧固 定術	山崎正志	脊椎手術 合併症回 避のポイント	メジカル ビュー社	東京	2019	19-31
岡田英次朗 渡邊航太 松本守雄	びまん性特発性 骨増殖症を伴っ た脊椎損傷:MIS- long fixation	西 良 浩 一 石井 賢	匠が伝え る低侵襲 脊椎外科 の奥義	メジカル ビュー社	東京	2019	279-285
前野考史 岩崎幹季	【高齢者に対す る整形外科分野 における手術の 実際と適応】頸 椎症に対する手 術の実際と適応	大内慰義 井藤英喜 岩本俊彦 鳥羽研二	Geriatric Medicine	ライフサ イエンス	東京	2015	1285-88
中嶋秀明 高橋 藍 渡邊修司 本定和也 北出 誠	【脊椎・脊髄疾 患のニューロサ イエンス 神経 所見の診かたか ら再生医療ま で】脊髄再生医 療の最前線 間 葉系幹細胞移植 による脊髄再生	田口敏彦、 山下敏彦	整形・災 害外科	金原出版	東京	2017	721-726
清水如代 門根秀樹 久保田茂希 安部哲哉 上野友之 羽田康司 山崎正志	脊椎脊髄疾患に 対するロボット スーツ HAL を用 いた機能回復治 療	山崎正志	関節外科	メジカル ビュー社	東京	2017	36:89- 98

## 別紙 4

安部哲哉 久保田茂希 門根秀樹 山崎正志	術後慢性憎悪に 対するロボット リハビリテーシ ョン	田中 栄	Loco Cure	先端医学 社	東京	2017	3:46-49
山内駿介 清水如代 門根秀樹 久保田茂希 羽田康司 山崎正志	脊髄硬膜動静脈 瘻を発症した慢 性期脊髄損傷患 者に対する HAL による機能回復 治療	日本脊髄障 害医学会	日本脊髄 障害医学 会誌	日本脊髄 障害医学 会	東京	2017	30:89- 98
藤井賢吾 安部哲哉 久保田茂希 船山 徹 山崎正志	胸椎後縦靭帯骨 化症に伴う重度 脊髄障害に対す る後方除圧固定 術+ロボット治 療	日本脊髄障 害医学会	日本脊髄 障害医学 会誌	日本脊髄 障害医学 会	東京	2017	30:136- 138
今釜史郎	胸椎 OPLL の手術 治療～より安全 にそして確実に 目指して～	長谷川素美	整形外科 surgical technique	メディカ 出版	大阪市	2017	64-72
今釜史郎	胸椎後縦靭帯骨 化症（胸椎 OPLL）に対す る後方除圧矯正固 定術	高橋敏行	脊椎脊髄 ジャーナ ル	三輪書店	東京都	2017	5-12
加藤仁志 村上英樹 出村論 吉岡克人 土屋弘行	胸椎 OPLL に対す る後側方進入前 方除圧術 - 手術 手技と適応	吉川秀樹	臨床整形 外科	医学書院	東京	2017	27 - 32
加藤仁志 村上英樹 土屋弘行	イラストレイテ ッド・サージェ リー 手術編 - 93 胸椎 OPLL に 対する後側方ア プローチによる 脊髄全周除圧術	徳橋泰明	脊椎脊髄 ジャーナ ル	三輪書店	東京	2017	523 - 529

雑誌（英文）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Hirai T, Yoshii T, Ushio S, Mori K, Maki S, Katsumi K, Nagoshi N, Takeuchi K,	Clinical characteristics in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament: A prospective multi-institutional cross-sectional study.	Sci Rep	10(1)	5532	2020
Yoshii T, Morishita S, Inose H, Yuasa M, Hirai T, Okawa A, Fushimi K, Fujiwara T.	Comparison of Perioperative Complications in Anterior Decompression with Fusion and Posterior Decompression with Fusion for Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament: Propensity Score Matching Analysis Using a Nation-Wide Inpatient Database.	Spine			2020
Oshima Y, Doi T, Kato S, Taniguchi Y, Matsubayashi Y, Nakajima K, Oguchi F, Oka H, Hayashi N, Tanaka S.	Association between ossification of the longitudinal ligament of the cervical spine and arteriosclerosis in the carotid artery.	Sci Rep	10(1)	3369	2020
Haga N, Nakashima Y, Kitoh H, Kamizono J, Katagiri T, Saijo H, Tsukamoto S, Shinoda Y, Sawada R, Nakahara Y	Fibrodysplasia ossificans progressiva: review and research activities in Japan.	Pediatr Int	62	3-13	2020

Endo T, Takahata M, Koike Y, Iwasaki N.	Clinical characteristics of patients with thoracic myelopathy caused by ossification of the posterior longitudinal ligament.	J Bone Miner Metab.	38(1)	63-69	2020
Kato S, Murakami H, Demura S, Yoshioka K, Yokogawa N, Takaki S, Oku N, Tsuchiya H.	Indication for anterior spinal cord decompression via a posterolateral approach for the treatment of ossification of the posterior longitudinal ligament in the thoracic spine: a prospective cohort study.	Eur Spine J	29(1)	113-121	2020
Ohba T, Hatsushika K, Ebata S, Koyama K, Akaike H, Yokomichi H, Masuyama K, Haro H.	Risk Factors and Assessment Using an Endoscopic Scoring System for Early and Persistent Dysphagia After Anterior Cervical Decompression and Fusion Surgery	Clin Spine Surg.	Epub ahead of print		2020
Haga N, Nakashima Y, Kitoh H, Kamizono J, Katagiri T, Saijo H, Tsukamoto S, Shinoda Y, Sawada R, Nakahara Y.	Fibrodysplasia ossificans progressiva: Review and research activities in Japan.	Pediatr Int.	62(1)	3-13	2020
Wada K, et al.	Prevalence of cervical canal stenosis in farmers: Epidemiological study based on radiographic parameter of spinal cord injury patients.	J Orthop Sci	25	206-12	2020

<p>Mori K, Yoshii T, Hirai T, Nagoshi N, Takeuchi K, Ushio S, Iwanami A, Yamada T, Seki S, Tsuji T, Fujiyoshi K, Furukawa M, Nishimura S, Wada K, FuruyaT, Matsuyama Y, Hasegawa T, Takeshita K, Kimura A, Abematsu M, Haro H, Ohba T, Watanabe M, Kato H, Watanabe K, Ozawa H, Kanno H, Imagama S, Ando K, Fujibayashi S, Koda M, Yamazaki M, Matsumoto M, Nakamura M, Okawa A, Kawaguchi Y.</p>	<p>The characteristics of the patients with radiologically severe cervical ossification of the posterior longitudinal ligament of the spine: A CT-based multicenter cross-sectional study.</p>	<p>J Orthop Sci.</p>	<p>2658(19)</p>	<p>30313-6.</p>	<p>2019</p>
<p>Hirai T, Yoshii T, Inose H, Yuasa M, Yamada T, Ushio S, Onuma H, Hirai K, Kobayashi Y, Utagawa K, Hashimoto J, Kawabata A, Sakai K, Kato T, Kawabata S, Okawa A.</p>	<p>Is Modified K-line a Powerful Tool of Surgical Decision Making for Patients With Cervical Spondylotic Myelopathy?</p>	<p>Clin Spine Surg.</p>	<p>32(9)</p>	<p>351-356</p>	<p>2019</p>



Yamada T, Yoshii T, Ushio S, Taniyama T, Hirai T, Inose H, Sakai K, Shindo S, Arai Y, Okawa A.	Surgical outcomes for distal-type cervical spondylotic amyotrophy: a multicenter retrospective analysis of 43 cases.	Eur Spine J.	28(10)	2333-2341	2019
Yoshii T, Egawa S, Hirai T, Kaito T, Mori K, Koda M, Chikuda H, Hasegawa T, Imagama S, Yoshida M, Iwasaki M, Okawa A, Kawaguchi Y.	A systematic review and meta-analysis comparing anterior decompression with fusion and posterior laminoplasty for cervical ossification of the posterior longitudinal ligament.	J Orthop Sci.	25(1)	58-65.	2019
Nakajima H, Watanabe S, Honjoh K, Kitade I, Sugita D, Matsumine A.	Long-term Outcome of Anterior Cervical Decompression With Fusion for Cervical Ossification of Posterior Longitudinal Ligament Including Postsurgical Remnant Ossified Spinal Lesion.	Spine (Phila Pa 1976)	44(24)	E1452-E1460	2019
Kawaguchi Y, Kitajima I, Nakano M, Yasuda T, Seki S, Suzuki K, Yahara Y, Makino H, Ujihara Y, Ueno T, Kimura T.	Increase of the serum FGF-23 in ossification of the posterior longitudinal ligament.	Global Spine J.	9(5)	492-498	2019

Kawaguchi Y, Nakano M, Yasuda T, Seki S, Suzuki K, Yahara Y, Makino H, Kobayashi K, Kimura T.	Clinical impact of ossification of the posterior longitudinal ligament progression after cervical laminoplasty.	Clin Spine Surg.	32(3)	E133-E139	2019
Kadone H, Kubota S, Abe T, Noguchi H, Miura K, Koda M, Shimizu Y, Hada Y, Sankai Y, Suzuki K, Yamazaki M.	Muscular activity modulation during postoperative walking with hybrid assistive limb (HAL) in a patient with thoracic myelopathy due to ossification of posterior longitudinal ligament: a case report,	Frontiers in Neurology,	doi: 10.3389/fneur.2020.00102, 2020.		2019
Kimura A	Impact of K-Line (-) in the Neck-Flexion Position on Patient-reported Outcomes After Cervical Laminoplasty For Patients With Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament.	Clinical Spine Surgery	32	382-386	2019
Yoshida G, Ando M, Imagama S, Kawabata S, Yamada K, Kanchiku T, Fujiwara Y, Tadokoro N, Takahashi M, Wada K, Yamamoto N, Kobayashi S, Ushirozako H, Kobayashi K, Yasuda A, Shinomiya K, Tani T, Matsuyama Y.	Alert Timing and Corresponding Intervention with Intraoperative Spinal Cord Monitoring for High Risk Spinal Surgery	SPINE	44(8)	E470-E479	2019

Yoshida G, Imagama S, Kawabata S, Yamada K, Kanchiku T, Fujiwara Y, Tadokoro N, Takahashi M, Wada K, Yamamoto N, Ushirozako H, Kobayashi K, Yasuda A, Ando M, Tani T, Matsuyama Y.	Adverse Events Related to Transcranial Electric Stimulation for Motor-evoked Potential Monitoring in High-risk Spinal Surgery	SPINE	44(20)	1435-1440	2019
Nakahara Y, Kitoh H, Nakashima Y, Toguchida J, Haga N	The longitudinal study of activities of daily living and quality of life in Japanese patients with fibrodysplasia ossificans progressiva.	Disabil Rehabil	41(6)	699-704	2019
Hsiao EC, DiRocco M, Cali A, Zasloff M, Al Mukaddam M, Pignolo R, Grunwald Z, Netelenbos C, Keen R, Baujat G, Brown M, Cho TJ, DeCunto C, Delai P, Haga N, Morhart R, Scott C, Zhang K, Diecidue RJ, Friedman CS, Kaplan F, Eekhoff EMW	Special considerations for clinical trials in fibrodysplasia ossificans progressiva (FOP)	Br J Pharm	85	1199-1207	2019

Katsumi K, Hirano T, Watanabe K, Ohashi M. Mizouchi T, Wakasugi M, Makino T, Yamazaki A, Endo N.	A novel concept of posterior decompression and instrumented fusion with selective lordotic correction for cervical ossification of the posterior longitudinal ligament.	Journal of Clinical Neuroscience	68	312-316	2019
Eto T, Aizawa T, Kanno H, Hashimoto K, Itoi E, Ozawa H.	Several pathologies cause delayed postoperative paralysis following posterior decompression and spinal fusion for thoracic myelopathy caused by ossification of the posterior longitudinal ligament.	J Orthop Sci		doi: 10.1016/ j.jos.20 19.08.00 4.	2019
Nakahara Y, Kitoh H, Nakashima Y, Toguchida J, Haga N.	Longitudinal study of the activities of daily living and quality of life in Japanese patients with fibrodysplasia ossificans progressiva	Disabil Rehabil	41(6)	699-704	2019
Kitamura M, Maki S, Koda M, <u>Furuya T</u> , et al.	Longitudinal diffusion tensor imaging of patients with degenerative cervical myelopathy following decompression surgery.	J Clin Neurosci		pii: S0967- 5868(19) 30593-4	2019
Takenaka S, Kan S, Seymour B, Makino T, Sakai Y, Kushioka J, Tanaka H, Watanabe Y, Shibata M, Yoshikawa H, Kaito T	Towards prognostic functional brain biomarkers for cervical myelopathy: A resting-state fMRI study.	Sci Rep	9(1)	10456	2019

Yoshii T, Egawa S, Hirai T, Kaito T, Mori K, Koda M, Chikuda H, Hasegawa T, Imagama S, Yoshida M, Iwasaki M, Okawa A, Kawaguchi Y	A systematic review and meta-analysis comparing anterior decompression with fusion and posterior laminoplasty for cervical ossification of the posterior longitudinal ligament.	J Orthop Sci			2019
Nagashima K, Koda M, Abe T, Kumagai H, Miura K, Fujii K, Noguchi H, Funayama T, Miyamoto T, Mannoji C, Furuya T, Yamazaki M.	Implant failure of pedicle screws in long-segment posterior cervical fusion is likely to occur at C7 and is avoidable by concomitant C6 or T1 buttress pedicle screws.	J Clin Neurosci.	63	106-109	2019
Ushirozako H, Yoshida G, Koayashi S, Hasegawa T, Yamato Y, Yasuda T, Banno T, Arima H, Oe S, Mihara Y, Togawa D, Matsuyama Y	Impact of total propofol dose during spinal surgery: anesthetic fade on transcranial motor evoked potentials.	J Neurosurg Spine	8	1-9	2019

<p>Yoshii T, Hirai T, Iwanami A, Nagoshi N, Takeuchi K, Mori K, Yamada T, Seki S, Tsuji T, Fujiyoshi K, Furukawa M, Nishimura S, Wada K, Koda M, Furuya T, Matsuyama Y, Hasegawa T, Takeshita K, Kimura A, Abematsu M, Haro H, Ohba T, Watanabe M, Kato H, Watanabe K, Ozawa H, Kanno H, Imagama S, Aneo K, Fujibayashi S, Matsumoto M, Nakamura M, Yamazaki M, Okawa A, Kawaguchi Y</p>	<p>Co-existence of ossification of the nuchal ligament is associated with severity of ossification in the wholespine in patients with cervical ossification of the posterior longitudinal ligament -A multi-center CT study.</p>	<p>J Orthop Sci</p>	<p>24(1)</p>	<p>35-41</p>	<p>2019</p>
<p>Okada E, Shimizu K, Kato M, Fukuda K, Kaneko S, Ogawa J, Yagi M, Fujita N, Tsuji O, Suzuki S, Nagoshi N, Tsuji T, Nakamura M, Matsumoto M, Watanabe K.</p>	<p>Spinal fractures in patients with diffuse idiopathic skeletal hyperostosis: Clinical characteristics by Fracture level.</p>	<p>Journal of Orthopaedic Science (JOS)</p>	<p>18</p>	<p>393-399</p>	<p>2019</p>

Okada E, Yoshii T, Yamada T, Watanabe K, Katsumi K, Hiyama A, Watanabe M, Nakagawa Y, Okada M, Endo T, Shiraishi Y, Takeuchi K, Matsunaga S, Maruo K, Sakai K, Kobayashi S, Ohba T, Wada K, Ohya J, Mori K, Tsushima M, Nishimura H, Tsuji T, Okawa A, Matsumoto M, Watanabe K	Spinal fractures in patients with Diffuse idiopathic skeletal hyperostosis: A nationwide multi-institution survey.	Journal of Orthopaedic Science (JOS)	18	30388-9	2019
Ushirozako H, Yoshida G, Kobayashi S Hasegawa T Yamato Y, Yasuda T, Banno T, Arima H, Oe S, Mihara Y, Togawa D Matsuyama Y	Impact of total propofol dose during spinal surgery: anesthetic fade on transcranial motor evoked potentials.	J Neurosurg Spine.	8	1-9	2019
Mori K, Yayama T, Nishizawa K, Nakamura A, Mimura T, Imai S	Aortic pulsation prevents the development of ossification of anterior longitudinal ligament toward the aorta in patients with diffuse idiopathic skeletal hyperostosis (DISH) in Japanese: Results of chest CT-based cross-sectional study.	J Orthop Sci.	24(1)	30-34.	2019

Nakahara Y, Kitoh H, Nakashima Y, Toguchida J, Haga N.	Longitudinal study of the activities of daily living and quality of life in Japanese patients with fibrodysplasia ossificans progressiva.	Disabil Rehabil	41(6)	699-704	2019
Matsushita M, Kitoh H, Mishima K, Yamashita S, Haga N, Fujiwara S, Ozono K, Kubota T, Kitaoka T, Ishiguro N	Physical, mental and social problems of adolescent and adult patients with a chondroplasia.	Calcif Tissue Int		in press	2019
Murata K, Endo K, Suzuki H, Matsuoka Y, Nishimura H, Takamatsu T, Yamamoto K	Spinal sagittal alignment and trapezoidal deformity in patients with degenerative cervical spondylolisthesis	Scientific Reports			2019 in Press
Yoshii T, Hirai T, Yamada T, Sakai K, Ushio S, Egawa S, Yuasa M, Kato T, Inose H, Kawabata S, Okawa A	A Prospective Comparative Study in Skin Antiseptic Solutions for Posterior Spine Surgeries: Chlorhexidine-Gluconate Ethanol Versus Povidone-Iodine.	Clin Spine Surg	31(7)	353-356	2018
Hirai T, Yoshii T, Inose H, Yamada T, Yuasa M, Ushio S, Egawa S, Hirai K, Okawa A	Revision Surgery for Short Segment Fusion Influences Postoperative Low Back Pain and Lower Extremity Pain: A Retrospective Single-Center Study of Patient-Based Evaluation.	Spine. Surg. Related Res.	2(3)	215-220	2018



<p>Hirai T, Yoshii T, Nagoshi N, Takeuchi K, Mori K, Ushio S, Iwanami A, Yamada T, Seki S, Tsuji T, Fujiyoshi K, Furukawa M, Nishimura S, Wada K, Furuya T, Matsuyama Y, Hasegawa T, Takeshita K, Kimura A, Abematsu M, Haro H, Ohba T, Watanabe M, Kato H, Watanabe K, Ozawa H, Kanno H, Imagama S, Ando K, Fujibayashi S, Koda M, Yamazaki M, Matsumoto M, Nakamura M, Okawa A, Kawaguchi Y</p>	<p>Distribution of ossified spinal lesions in patients with severe ossification of the posterior longitudinal ligament and prediction of ossification at each segment based on the cervical OP index classification: a multicenter study (JOSLCT study).</p>	<p>BMC Musculoskeletal Disord.</p>	<p>5;19 (1)</p>	<p>107</p>	<p>2018</p>
<p>Hirai T, Taniyama T, Yoshii T, Mizuno K, Okamoto M, Inose H, Yuasa M, Otani K, Shindo S, Nakai O, Okawa A.</p>	<p>Clinical Outcomes of Surgical Treatment for A rachnoid Web: A Case Series</p>	<p>Spine Surgery and Related Research</p>	<p>3(1)</p>	<p>43-48</p>	<p>2018</p>

Hirai T, Yoshii T, Nagoshi N, Takeuchi K, Mori K, Ushio S, Iwanami A, Yamada T, Fujiyoshi K,	Distribution of ossified spinal lesions in patients with severe ossification of the posterior longitudinal ligament and prediction of ossification at each segment based on the cervical OP index classification: a multicenter study (JOSL CT study).	BMC Musculoskeletal Disord	19(1)	107	2018
Matsuoka Y, Suzuki H, Endo K.,, Yamamoto K.	Small sagittal vertical axis accompanied with lumbar hyperlordosis is a risk factor for developing postoperative cervical kyphosis after expansive open-door laminoplasty	JNS(Spine)	29	176-181	2018
Matsuoka Y, Endo K, Nishimura H, Yamamoto K	Cervical kyphotic deformity after laminoplasty in patients with cervical ossification of posterior longitudinal ligament with normal sagittal spinal alignment	SSRR		2017-0078	2018
Okuda S, Iwasaki M et al.	Adjacent Segment Disease After Single Segment Posterior Lumbar Interbody Fusion for Degenerative Spondylolisthesis: Minimum 10 Years Follow-up. Spine.	Spine	43(23)	1384-1388	2018

<p>Nishimura S, Nagoshi N, Iwanami A, Takeuchi A, Hirai T, Yoshii T, Takeuchi K, Mori K, Yamada T, Sekii S, Tsuji T, Fujiyoshi K, Furukawa M, Wada K, Koda M, Furuya T, Matsuyama Y, Hasegawa T, Takeshita K, Kimura A, Abematsu M, Haro H, Ohba T, Watanabe M, Kato H, Watanabe K, Ozawa H, Kanno H, Imagama S, Ando K, Fujibayashi S, Yamazaki M, Watanabe K, Matsumoto M, Nakamura M, Okawa A, Kawaguchi Y</p>	<p>Japanese Organization of the Study for Ossification of Spinal Ligament (JOSL). Prevalence and Distribution of Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis on Whole-spine Computed Tomography in Patients With Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament: A Multicenter Study.</p>	<p>Clin Spine Surg.</p>	<p>31(9)</p>	<p>460-465</p>	<p>2018</p>
<p>Okuda S, Iwasaki M, et al</p>	<p>Adjacent Segment Disease After Posterior Lumbar Interbody Fusion: A Case Series of 1000 Patients.</p>	<p>Global Spine J</p>	<p>8(7)</p>	<p>722-727</p>	<p>2018</p>
<p>Nagamoto Y, Iwasaki M et al</p>	<p>Multiple-Repeated Adjacent Segment Disease After Posterior Lumbar Interbody Fusion.</p>	<p>World Neurosurg</p>	<p>e-pub</p>		<p>2018</p>

Matsumoto T, Iwasaki M et al.	Effects of Conc omitant Decompr essionAdjacent to a Posterior Lumbar Interbod y Fusion Segmen t on Clinical a nd Radiologic O utcomes: Compar ative Analysis Five Years afte r Surgery.	Global Spine	e-pub		2018
Sugiura T, Iwasaki M et al.	Surgical Outcom es and Limitati ons ofDecompres sion Surgery fo r Degenerative Spondylolisthes is	Global Spine J	8	7	2018
Takahashi A, Nakajima H, Uchida K, Takeura N, Honjo K, Watanabe S, Kitade M, Kokubo Y, Johnson WEB,	Comparison of M esenchymal Stro mal Cells Isola ted from Murine Adipose Tissue and Bone Marrow in the Treatmen tof Spinal Cord Injury	Cell Transplantat ion	27	1126-39	2018
Kawaguchi Y	Biomarkers of o ssification of the spinal liga ment (OSL).	Global Spine Jour nal			2018
Miura K, Kadone H, Koda M, Abe T, Kumagai H, Nagashima K, Mataki K, Fujii K, Noguchi H, F unayama T, Kawamoto H, Sankai Y, Yamazaki M.	The hybrid assi stive limb (HA L) for Care Sup port successful ly reduced lumb ar load in repe titive lifting movements.	J Clin Neurosci.	Jul;53	276-279	2018

<p>Koda M, Abe T, Funayama T, Noguchi H, Miura K, Nagashima K, Kumagai H, Mataki K, Furuya T, Orita S, Inage K, Ohtori S, Yamazaki M.</p>	<p>Postoperative recovery course, but not preoperative factors and operative kyphosis correction can predict final neurological outcome of posterior decompression with instrumented surgery for ossification of the posterior longitudinal ligament of the thoracic spine.</p>	<p>J Clin Neurosci.</p>	<p>Jul;53</p>	<p>85-88</p>	<p>2018</p>
<p>Miura K, Koda M, Kadone H, Kubota S, Shimizu Y, Kumagai H, Nagashima K, Mataki K, Fujii K, Noguchi H, Funayama T, Abe T, Sankai Y, Yamazaki M.</p>	<p>Gait training using a hybrid assistive limb (HAL) attenuates head drop: A case report.</p>	<p>J Clin Neurosci.</p>	<p>Jun;52</p>	<p>141-144</p>	<p>2018</p>
<p>Mishima K, Kitoh H, Matsushita M, Sugiura H, Hasegawa S, Kitamura A, Nishida Y, Ishiguro N</p>	<p>Early radiographic risk factors for rigid relapse in idiopathic clubfoot treated with the Ponseti method.</p>	<p>Foot Ankle Surg</p>	<p>24</p>	<p>509-513</p>	<p>2018</p>
<p>Mishima K, Kitoh H, Matsushita M, Nagata T, Kamiya Y, Ishiguro N</p>	<p>Extensive bone lengthening for a patient with linear morphea</p>	<p>Case Rep Orthop</p>			<p>2018</p>

Koda M, Furuya T, Saito J, Ijima Y, Kitamura M, Ohtori S, Orita S, Inage K, Abe T, Noguchi H, Funayama T, Kumagai H, Miura K, Nagashima K, Yamazaki M	Postoperative K-line conversion from negative to positive is independently associated with a better surgical outcome after posterior decompression with instrumented fusion for K-line negative cervical ossification of the posterior ligament.	Eur Spine J.	27(6)	1393-1400	2018
Miura K, Kadone H, Koda M, Abe T, Kumagai H, Nagashima K, Mataki K, Fujii K, Noguchi H, F unayama T, Kawamoto H, Sankai Y, Yamazaki M.	The hybrid assistive limb (HAL) for Care Support successfully reduced lumbar load in repetitive lifting movements.	J Clin Neurosci.	Mar;49	83-86	2018
Imagama S, et al.	Perioperative Complications After Surgery for Thoracic Ossification of Posterior Longitudinal Ligament: A Nationwide Multicenter Prospective Study.	Spine	43	E1389-97	2018
Kobayashi K, Imagama S, et al.	A new criterion for the alarm point using a combination of waveform amplitude and onset latency in Br(E)-MsEP monitoring in spine surgery.	J Neurosurg Spine	29	435-441	2018

Katsumi K, Watanabe K, Hirano T, Ohashi M, Mizouchi T, Ito T, Endo N	Natural history of the ossification of cervical posterior longitudinal ligament: a three dimensional analysis	International orthopedics	42	835-842	2018
Katsumi K, Watanabe K, Izumi T, Hirano T, Ohashi M, Mizouchi T, Ito T, Endo N	Perioperative factors associated with favorable outcomes of posterior decompression and instrumented fusion for cervical ossification of the posterior longitudinal ligament: a retrospective multicenter study	Journal of neuroscience	57	74-78	2018
Ozawa H, Aizawa T, Tateda S, Hashimoto K, Kanno H, Ishizuka M.	Spinal Cord Swelling After Surgery in Cervical Spondylotic Myelopathy: Relationship With Intramedullary Gad-DTPA Enhancement on MRI.	Clin Spine Surg.	31	E363-367	2018
Kanno H, Takahashi T, Aizawa T, Hashimoto K, Itoi E, Ozawa H.	Recurrence of ossification of ligamentum flavum at the same intervertebral level in the thoracic spine: a report of two cases and review of the literature.	Eur Spine J.	27 (Suppl 3)	359-367	2018
Kanno H, Aizawa T, Ozawa H, Koizumi Y, Morozumi N, Itoi E.	An increase in the degree of osteolysis during axial loading reduces the dural sac size and worsens clinical symptoms in patients with degenerative spondylolisthesis.	Spine J	18	726-733	2018

Onoki T, Kanno H, Aizawa T, Hashimoto K, Itoi E, Ozawa H.	Recurrent primary osseous hemangiopericytoma in the thoracic spine: a case report and literature review.	Eur Spine J.	27 (Suppl 3)	386-302	2018
Koda M, Abe T, Watanabe K, Hirano T, Ohashi M, Mizouchi T, Yamazaki M et al.	Study protocol for the G-SPIRIT trial: a randomised, placebo-controlled, double-blinded phase III trial of granulocyte colony-stimulating factor-mediated neuroprotection for acute spinal cord injury.	BMJ Open.	8	e019083.	2018
Hiyama A	Prevalence of idiopathic skeletal hyperostosis (DISH) assessed with whole-spine computed tomography in 1479 subjects	BMC Musculoskeletal Disorders	19(1)	178(1-7)	2018
Wada K, Tanaka T, Kumagai G, Kudo H, Asari T, Chiba D, Ota S, Kamei K, Nakaji S, Ishibashi Y	A study of the factors associated with cervical spinal disc degeneration, with a focus on bone metabolism and amino acids, in the Japanese population: a cross-sectional study	BMC Musculoskeletal Disorders	19	153	2018



Fujiwara H, Oda T, Makino T, Moriguchi Y, Yonenobu K, Kaito T.	Impact of Cervical Sagittal Alignment on Axial Neck Pain and Health-related Quality of Life After Cervical Laminoplasty in Patients With Cervical Spondylosis or Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament: A Prospective Comparative Study.	Clin Spine Surg.	31(4)	E245-51	2018
Funao H, Khechen B, Haws BE, Ishii K	Surgical Management of Thoracic Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament	Contemporary Spine Surgery	19(9)		2018
Oshina M, Oshima Y, Matsubayashi Y, Taniguchi Y, Chikuda H, Riew KD, Tanaka S.	Nutrient foramen location on the laminae provides a landmark for pedicle screw entry: a cadaveric study.	BMC Musculoskeletal Disord.	19(1)	293	2018
Oshina M, Horii C, Hirai S, Matsubayashi Y, Taniguchi Y, Hayashi N, Tanaka S, Oshima Y	Comparison of Freehand Sagittal Trajectories for Inserting Pedicle Screws Between C7 and T5	Clin Spine Surg			2018 (in press)

<p>Imagama S, Ando K, Takeuchi K, Kato S, Murakami H, Aizawa T, Ozawa H, Hasegawa T, Matsuyama Y, Koda M, Yamazaki M, Chikuda H, Shindo S, Nakagawa Y, Kimura A, Takeshita K, Wada K, Katoh H, Watanabe M, Yamada K, Furuya T, Tsuji T, Fujibayashi S, Mori K, Kawaguchi Y, Watanabe K, Matsumoto M, Yoshii T, Okawa A.</p>	<p>Perioperative Complications after Surgery for Thoracic Ossification of Posterior Longitudinal Ligament- Nationwide Multicenter Prospective Study.</p>	<p>Spine</p>			<p>2018</p>
<p>Yamada T, Yoshii T, Yamamoto N, Hirai T, Inose H, Okawa A.</p>	<p>Surgical outcomes for lumbar spinal canal stenosis with coexisting cervical stenosis (tandem spinal stenosis): a retrospective analysis of 565 cases.</p>	<p>J Orthop Surg Res.</p>	<p>13(1)</p>		<p>2018</p>
<p>Kimura A, Takeshita K, Inoue H, Seichi A, Kawasaki Y, Yoshii T, Inose H, Furuya T, Takeuchi K, Matsunaga S, Seki S, Tsushima M, Imagama S, Koda M, Yamazaki M, Mori K, Nishimura H, Endo K, Yamada K, Sato K, Okawa A.</p>	<p>The 25-question Geriatric Locomotive Function Scale predicts the risk of recurrent falls in postoperative patients with cervical myelopathy.</p>	<p>J Orthop Sci.</p>	<p>23(1)</p>	<p>185-189</p>	<p>2018</p>

<p>Hirai T, Yoshii T, Nagoshi N, Takeuchi K, Mori K, Ushio S, Iwanami A, Yamada T, Seki S, Tsuji T, Fujiyoshi K, Furukawa M, Nishimura S, Wada K, Furuya T, Matsuyama Y, Hasegawa T, Takeshita K, Kimura A, Abematsu M, Haro H, Ohba T, Watanabe M, Kato H, Watanabe K, Ozawa H, Kanno H, Imagama S, Ando K, Fujibayashi S, Koda M, Yamazaki M, Matsumoto M, Nakamura M, Okawa A, Kawaguchi Y.</p>	<p>Distribution of ossified spinal lesions in patients with severe ossification of the posterior longitudinal ligament and prediction of ossification at each segment based on the cervical OP index classification: a multicenter study (JOSL CT study).</p>	<p>BMC Musculoskeletal Disord</p>	<p>5 ; 19 (1)</p>	<p>107</p>	<p>2018</p>
<p>Hirai T, Yoshii T, Sakai K, Inose H, Yamada T, Kato T, Kawabata S, Arai Y, Shinomiya K, Okawa A.</p>	<p>Long-term results of a prospective study of anterior decompression with fusion and posterior decompression with laminoplasty for treatment of cervical spondylotic myelopathy.</p>	<p>J Orthop Sci.</p>	<p>23(1)</p>	<p>32-38</p>	<p>2018</p>
<p>Yamada T, Yoshii T, Yamamoto N, Hirai T, Inose H, Kato T, Kawabata S, Okawa A.</p>	<p>Clinical Outcomes of Cervical Spinal Surgery for Cervical Myelopathic Patients with Coexisting Lumbar Spinal Canal Stenosis (Tandem Spinal Stenosis) A retrospective analysis of 297 cases.</p>	<p>Spine</p>	<p>43(4)</p>	<p>E234-241</p>	<p>2018</p>

Puentes S , Kadone H , Kubota S , Abe T , Shimizu Y , Marushima A , Sankai Y , Yamazaki M , Suzuki K	Reshaping of Gait Coordination by Robotic Intervention in Myelopathy Patients After Surgery	Front Neurosci			2018
Koda M, Furuya T, Saito J, Iijima Y, Kitamura M, Ohtori S, Orita S, Inage K, Abe T, Noguchi H, Funayama T, Kumagai H, Miura K, Nagashima K, Yamazaki M	Postoperative K-line conversion from negative to positive is independently associated with a better surgical outcome after posterior decompression with instrumented fusion for K-line negative cervical ossification of the posterior ligament	Eur Spine J			2018
Kimura A et al	Predictors of Persistent Axial Neck Pain After Cervical Laminoplasty	Spine	43	10-15	2018
Matsuoka Y, Endo K, Nishimura H et al:	Cervical kyphotic deformity after laminoplasty in patients with cervical ossification of posterior longitudinal ligament with normal sagittal spinal alignment	SSRR			2018 (in press)
Nishida N, Kanchiku T, Nakandakari D, Tahara S, Ohgi J, Ichihara K, Sakuramoto I, Chen X, Taguchi T.	Analysis of stress application at the thoracolumbar junction and influence of vertebral body collapse on the spinal cord and cauda equina.	Exp Ther Med	15(2)	1177-1184	2018

Imajo Y, Kanchiku T, Suzuki H, Funaba M, Nishida N, Taguchi T.	Utility of the central motor conduction time recorded from the abductor pollicis brevis and the abductor digiti minimi muscles in patients with C6-7 myelopathy.	J Spinal Cord Med	41(2)	182-191	2018
Fujiwara H, Oda T, Makino T, Moriguchi Y, Yonenobu K, Kaito T.	Impact of cervical sagittal alignment on axial neck pain and health-related quality of life after cervical laminoplasty in patients with cervical spondylotic myelopathy or ossification of the posterior longitudinal ligament - a prospective comparative study.	Clin Spine Surg.		[Epub ahead of print]	2018
Hirai T, Yoshii T, Arai Y, Sakai K, Torigoe I, Maehara H, Tomori M, Taniyama T, Sato H, Okawa A.	A Comparative Study of Anterior Decompression With Fusion and Posterior Decompression With Laminoplasty for the Treatment of Cervical Spondylotic Myelopathy Patients With Large Anterior Compression of the Spinal Cord.	Clin Spine Surg.	30(8)	E1137-1142	2017
Yoshii T, Hirai T, Yamada T, Inose H, Kato T, Sakai K, Enomoto M, Kawabata S, Arai Y, Okawa A	Intraoperative evaluation using mobile computed tomography in anterior cervical decompression with floating method for massive ossification of the posterior longitudinal ligament.	J Orthop Surg Res.	12(1)		2017

Yoshii T, Hirai T, Sakai K, Sotome S, Enomoto M, Yamada T, Inose H, Kato T, Kawabata S, Okawa A.	Anterior Cervical Corpectomy and Fusion Using a Synthetic Hydroxyapatite Graft for Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament.	Orthopedics	40(2)	E334-339	2017
Kimura A, Seichi A, Takeshita K, Inoue H, Kato T, Yoshii T, Furuya T, Koda M, Takeuchi K, Matsunaga S, Seki S, Ishikawa Y, Imagama S, Yamazaki M, Mori K, Kawasaki Y, Fujita K, Endo K, Sato K, Okawa A.	Fall-related Deterioration of Subjective Symptoms in Patients with Cervical Myelopathy.	Spine	42(7)	E398-403	2017
Kawaguchi Y, Nakano M, Yasuda T, Seki S, Suzuki K, Yahara Y, Makino H, Kitajima I, Kimura T.	Serum biomarkers in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament (OPLL): Inflammation in OPLL.	PLoS One.			2017
Kawaguchi Y, Seki S, Yahara Y, Homma T, Kimura T.	Sternum-splitting anterior approach following posterior decompression and fusion in patients with massive ossification of the posterior longitudinal ligament in the upper thoracic spine: report of 2 cases and literature review.	Eur Spine J.			2017

Kawaguchi Y, Nakano M, Yasuda T, Seki S, Suzuki K, Yahara Y, Makino H, Kitajima I, Kimura T.	Serum biomarkers in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament (OPLL): Inflammation in OPLL.	PLoS One.			2017
Maeno T Iwasaki M, et al.	Anterior migration of an interbody graft in posterior lumbar interbody fusion: Report of three cases without removal of the migrated graft.	J Orthop Sci	[Epub ahead of print]		2017
Fujimori T, Iwasaki M, et al.	Severe cervical flexion myelopathy with long tract signs - A case report and a review of literature.	Spinal Cord Series and Cases	11(3)	17016	2017
Fujimori T, Iwasaki M, Nagamoto Y, et al.	Reliability and Usefulness of Intraoperative 3-Dimensional Imaging by Mobile C-Arm With Flat-Panel Detector.	Clin Spine Surg	30(1)	E64-75	2017
Kushioka J, Iwasaki M, et al.	High-dose tranexamic acid reduces intraoperative and postoperative blood loss in posterior lumbar interbody fusion.	J Neurosurg Spine	26(3)	363-367	2017
Kawaguchi Y, Nakano M, Yasuda T, Seki S, Hori T, Suzuki K, Makino H, Kitajima I, Kimura T.	Serum biomarkers in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament (OPLL): inflammation in OPLL.	PLoS One	12(5)	e0174881	2017

<p>Kubota S, Abe T, Kadone H, Fujii K, Shimizu Y, Marushima A, Ueno T, Kawamoto H, Hada Y, Matsumura A, Sankai Y, Yamazaki M</p>	<p>Walking ability following Hybrid Assistive Limb treatment for a patient with chronic myelopathy after surgery for cervical ossification of the posterior longitudinal ligament</p>	<p>J Spinal Cord Med</p>	<p>20</p>	<p>pp1-9</p>	<p>2017</p>
<p>Fujii K, Abe T, Kubota S, Marushima A, Kawamoto H, Ueno T, Matsushita A, Nakai K, Saotome K, Kadone H, Endo A, Haginoya A, Hada Y, Matsumura A, Sankai Y, Yamazaki M</p>	<p>The voluntary driven exoskeleton Hybrid Assistive Limb(HAL) for postoperative training of thoracic ossification of the posterior longitudinal ligament: a case report</p>	<p>J Spinal Cord Med</p>	<p>40</p>	<p>361-367</p>	<p>2017</p>
<p>Taketomi M, Shimizu Y, Kadone H, Kubota S, Abe T, Marushima A, Ueno T, Endo A, Kawamoto H, Matsumura A, Sankai Y, Hada Y, Yamazaki M</p>	<p>Hybrid Assistive Limb Intervention in a Patient with Late Neurological Deterioration after Thoracic Myelopathy Surgery due to Ossification of the Ligamentum Flavum</p>	<p>Case Rep Orthop</p>			<p>2017</p>
<p>Imagama S</p>	<p>Risk factors for ineffectiveness of posterior decompression and dekyphotic corrective fusion with instrumentation for beak type thoracic ossification of the posterior longitudinal ligament: a single institute study</p>	<p>Neurosurgery</p>	<p>80</p>	<p>800-808</p>	<p>2017</p>



Nakahara Y, Kitoh H, Nakashima Y, Toguchida J, Haga N	The longitudinal study of activities of daily living and quality of life in Japanese patients with fibrodysplasia ossificans progressiva.	Disabil Rehabil		2017 Nov 16:1-6 (Epub ahead of print)	2017
Imagama S	Factors for a good surgical outcome in posterior decompression and fusion with instrumentation for thoracic ossification of the posterior longitudinal ligament: Prospective single center study	Operative Neurosurgery	13	661-669	2017
Katsumi K, Watanabe K, Hirano T, Ohashi M. Mizouchi T, Ito T, Endo N	Natural history of the ossification of cervical posterior longitudinal ligament: a three dimensional analysis	International orthopedics	In press	In press	2017
Tateda S, Aizawa T, Hashimoto K, Kanno H, Ohtsu S, Itoi E, Ozawa H.	Successful Management of Gorham-Stout Disease in the Cervical Spine by Combined Conservative and Surgical Treatments: A Case Report.	Tohoku J Exp Med.	241(4)	249-254	2017
Fujimoto K, Kanchiku T, Imajo Y, Suzuki H, Funaba M, Nishida N, Taguchi T.	Use of Central Motor Conduction Time and Spinal Cord Evoked Potentials in the Electrophysiological Assessment of Compressive Cervical Myelopathy.	Spine	42	895-902	2017
Funaba M, Kanchiku T, Imajo Y, Suzuki H, Yoshida Y, Nishida N, Fujimoto K, Taguchi T.	A Novel Scoring System Associated With Surgical Outcome of Distal-type Cervical Spondylotic Amyotrophy.	Clin Spine Surg	30	E1182-1189	2017

Osawa Y, Matsushita M, Hasegawa S, Esaki R, Fujio M, Ohgasawara B, Ishiguro N, Ohno K, Kitoh H	Activated FGFR3 promotes bone formation via accelerating endochondral ossification in mouse model of distraction osteogenesisBone	Bone	105	42-49	2017
Okita G, Ohba T, Takamura T, Ebata S, Ueda R, Onishi H, Haro H.	Application of neurite orientation dispersion and density imaging or diffusion tensor imaging to quantify the severity of cervical spondylotic myelopathy and assess postoperative neurological recovery.	Spine J.	18(2)	268-275	2017
Liu X, Kumagai G, Wada K, Tanaka T, Fujita T, Sasaki A, Furukawa K, Ishibashi Y.	Suppression of osteogenic differentiation in mesenchymal stem cells from patients with ossification of the posterior longitudinal ligament by a histamine-2-receptor antagonist.	Eur J Pharmacol	810	156-162	2017
Liu X, Kumagai G, Wada K, Tanaka T, Asari T, Oishi K, Fujita T, Mizukami H, Furukawa K, Ishibashi Y.	High Osteogenic Potential of Adipose- and Muscle-derived Mesenchymal Stem Cells in Spinal-Ossification ModelMice.	Spine	42	E1342-E1349	2017
Yamauchi R, Itabashi T, Wada K, Tanaka T, Kumagai G, Ishibashi Y.	Photofunctionalized Ti6Al4V implants enhance early phase osseointegration.	Bone Joint Res	6	331-336	2017

Funao H, Khechen B, Haws BE, Ishii K	Surgical Management of Thoracic Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament	Contemporary Spine Surgery			In press
Tsuji T, Fujita N, Watanabe K, Nakamura M, Matsumoto M, Ishii K	Correlation between preoperative physical signs and functional outcomes after laminoplasty for ossification of the posterior longitudinal ligament	J Orthop Sci	22	266-269	2017
Matsubayashi Y, Chikuda H, Oshima Y, Taniguchi Y, Fujimoto Y, Shimizu T, Tanaka S	C7 sagittal vertical axis is the determinant of the C5-C7 angle in cervical sagittal alignment.	Spine J	17(5)	622-626	2017

雑誌（和文）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
平井 高志, 吉井 俊貴, 坂井 顕一郎, 大川 淳	加齢に伴う運動器の変化と理学療法 加齢に伴う脊柱靭帯の変化 後縦靭帯骨化症と黄色靭帯骨化症を中心に	理学療法 (0910-0059)	37(2)	161-170	2020
平井 高志, 吉井 俊貴, 名越 慈人, 西村 空也, 森 幹士, 竹内 一裕, 大川 淳, 川口 善治	頸椎後縦靭帯骨化症患者の全脊柱における靭帯骨化巣の評価	脊椎脊髄ジャーナル (0914-4412)	33(2)	109-117	2020
小沼 博明, 猪瀬 弘之, 吉井 俊貴, 平井 高志, 湯浅 将人, 川端 茂徳, 大川 淳	後期高齢者(75歳以上)の胸腰椎手術における術後せん妄の術前・術中危険因子の検討	Journal of Spine Research(1884-7137)	10(9)	1252-1256	2019
山崎 正志	広範脊柱管狭窄症[指定難病 70]	日本医師会雑誌	148 (特別号 1)	S320-S321	2019
山崎 正志	ロボットスーツ HAL を用いた機能回復治療の実際と骨粗鬆症治療への応用の可能性	J Japan Osteoporosis Society	5 (3)	110-115	2019
山崎 正志	頸椎症性脊髄症	関節外科	38 (10月増刊号)	53-64	2019
山崎 正志	ロボットスーツ HAL の有用性と課題, 今後の展望	IT vision	40	40-43	2019

<p>牧 聡, 國府田正雄, 北村 充広, 古矢 丈雄, 飯島 靖, 齋藤 淳哉, 宮本 卓弥, 志賀 康浩, 稲毛 一秀, 折田 純久, 山崎 正志, 大鳥 精司</p>	<p>頸部脊髄症に対する拡散テンメ ル画像-神経障 害の定量評価と 手術の予後予測 -</p>	<p>日整会誌 ( J.Jpn.Orthop.Assoc. )</p>	<p>93</p>	<p>445-449</p>	<p>2019</p>
<p>南雲 太陽, 熊谷 洋, 船山 徹, 長島 克弥, 三浦 紘世, 野口 裕史, 安部 哲哉, 國府田正雄, 山崎 正志</p>	<p>急性対麻痺を呈 した胸椎後縦韌 帯骨化症患者に 対する前方除圧 固定術後に生じ た脊髄ヘルニア の1例</p>	<p>関東整災誌</p>	<p>50(2)</p>	<p>75-78</p>	<p>2019</p>
<p>安部 哲哉, 久保田茂希, 藤井 賢吾, 三浦 紘世, 清水 如代, 門根 秀樹, 柴尾 洋介, 俣木健太郎, 熊谷 洋, 長島 克弥, 野口 裕史 , 船山 徹, 羽田 康司, 國府田正雄, 山崎 正志.</p>	<p>重度脊髄障害を 呈した胸椎後縦 韌帯骨化症に対 する手術と HAL® 併用療法</p>	<p>J.Spine Res</p>	<p>10</p>	<p>1257-1261</p>	<p>2019</p>
<p>安部 哲哉, 長島 克弥, 國府田正雄, 三浦 紘世, 柴尾 洋介, 俣木健太郎, 熊谷 洋, 松井 彩乃, 野口 裕史, 船山 徹, 山崎 正志.</p>	<p>「第3の」中下 位頸椎スクリュー 刺入法：椎孔 周囲スクリュー を併用した頭蓋 /頸椎後方固定 術の臨床成績.</p>	<p>J.Spine Res</p>	<p>10</p>	<p>1432-1436</p>	<p>2019</p>

安部 哲哉, 長島 克弥, 國府田正雄, 柴尾 洋介, 天野 国明, 船山 徹, 山崎 正志	骨粗鬆症性椎体 骨折の保存的治 療成績-ステロ イド性骨粗鬆症 を含めて-	別冊整形外科	76	145-149	2019
久保田茂希、 門根 秀樹、 清水 如代、 國府田正雄、 山崎 正志	脊柱靱帯骨化症 UP TO DATE 靱帯 骨化症に対する ロボットリハビ リテーション	脊椎脊髄ジャーナル (0914-4412)	33(2)	151-160	2019
岡田 英次郎、 松本 守雄	【脊柱靱帯骨化 症 UP TO DATE】 びまん性特発性 骨増殖症に伴っ た脊椎損傷	脊椎脊髄ジャーナル	33(2)	133-137	2020
岡田 英次郎、 福田 健太郎、 大門 憲史、 中村 雅也、 松本 守雄、 渡辺 航太	【DISH の臨床】 びまん性特発性 骨増殖症(DISH) 合併の胸腰椎損 傷	脊椎脊髄ジャーナル	33(7)	679-683	2019
岡田 英次郎 渡辺 航太、 松本 守雄	【脊椎低侵襲手 術の最近の話 題】DISH 脊椎損 傷に対する経皮 的椎弓根スクリ ュー固定	Bone Joint Nerve	9(4)	555-560	2019
岡田 英次郎 塩野 雄太、 渡辺 航太、 松本 守雄	【脊椎脊髄外科 の最近の進歩】 各種疾患に対す る治療法・モダ リティ DISH を 合併する椎体骨 折の診断と治療	整形・災害外科	62(5)	581-585	2019
岡田英次郎、 金子慎二郎、 渡邊 航太、 松本 守雄	専門医を目指す 症例問題トレー ニング 脊椎・ 脊髄疾患	整形外科	70(11)	1195-1202	2019
木村 敦	圧迫性頸髄症手 術前後の転倒に よる症状悪化	脊椎脊髄ジャーナル	33	103-108	2019
今釜 史郎、 石黒 直樹	胸椎 OPLL に対 する後方除圧矯 正固定術-手術 成績と安全性向 上のための工夫	オーエスネクサス	18	126-135	2019

今釜 史郎, 安藤 圭, 小林 和克, 石黒 直樹	【脊椎脊髄外科 の最近の進歩】 各種疾患に対す る治療法・モダ リティ 胸椎 OPLL に対する手 術法と手術成績 全国多施設前向 き調査と自験例 の検討	整形・災害外科	62(5)	505-512	2019
安藤 圭 今釜 史郎 小林 和克 中島 宏彰 石黒 直樹 松山 幸弘	胸椎黄色靭帯骨 化症の骨化形態 分類	脊椎脊髄ジャーナル	33	In press	2020
芳賀 信彦, 中島 康晴, 鬼頭 浩史, 片桐 岳信, 神園 淳司, 西條 英人	進行性骨化性線 維異形成症に関 する臨床研究	脊椎脊髄ジャーナル	33(2)	145-150	2020
森 幹士	頸椎疾患の CT および MRI の描 出方法と読影ポ イント	MB Orthop.増刊号	32(12)	153-160	2019.
溝内 龍樹	脊柱靭帯骨化症 の手術と時期に ついて	新潟県脊柱縦靭帯骨化症 患者家族会「サザンカ」の 会通信			2019
八尋 雄平	歯突起後方偽腫 瘍発生要因とし て環椎低形成の 検討	Journal of Spine Research	10(3)	303	2019
前川 麻人, 遠藤 健司, 粟飯原孝人, 松岡 佑嗣, 高松太一郎, 山本 謙吾	硬膜外脊髄電気 刺激法における 合併症とその対 策	東日本整形災害外科学会 雑誌	31	1-5	2019
高松太一郎, 遠藤 健司 松岡 佑嗣 村田 寿馬 林 英佑 山本 謙吾	全脊椎矢状面, 冠状面バランス と仙骨骨盤アラ イメント	脊椎脊髄	32(4)	313-316	2019

松岡佑嗣、 遠藤健司、 高松太一郎、 鈴木秀和、 西村浩輔、 村田寿馬、 澤地恭昇、 前川麻人、 日下部拓哉、 粟飯原孝人、 山本謙吾	頸椎後方固定術 後の隣接椎間障 害と全脊椎矢状 面アライメント の関係.	Journal of Spine Reserch	10(9)	101-104	2019
遠藤健司、 前川麻人、 正岡利紀、 山本謙吾	脊椎関連慢性疼 痛患者に対する 硬膜外脊髄電気 刺激療法の術後 合併症の検討	日本生体電気・物理刺激 研究会	33	15-18	2019
田中真弘	DISH 合併の頸椎 損傷	脊椎脊髄ジャーナル	32(7)	673-678	2019
古矢丈雄、 山崎正志、 藤由崇之、 國府田正雄、 小西宏昭、 大鳥精司	特集 脊柱靭帯 骨化症 UP TO DATE K-line を 用いた頸椎後縦 靭帯骨化症の術 式選択	脊椎脊髄ジャーナル	33(2)	89-94	2020
古矢丈雄、 國府田正雄、 牧聡、 宮本卓弥、 沖松翔、 山崎正志、 大鳥精司	【運動器疾患に 対する保存的治 療-私はこうし ている】脊椎、 骨盤疾患に対 する保存的治 療 頸椎後縦靭帯骨 化症に対する保 存的治療	別冊整形外科	76 巻	130-134	2019
牧聡、 國府田正雄、 北村充広、 古矢丈雄、 飯島靖、 齋藤淳哉、 宮本卓弥、 志賀康浩、 稲毛一秀、 折田純久、 山崎正志、 大鳥精司	脊椎疾患のニュ ーロイメージ ングの近未来 頸 部脊髄症に対 する拡散テンソ ル画像神経障害 の定量評価と手 術の予後予測	日本整形外科学会雑誌	93(7)	445-449	2019



北村充広, 牧聡, 國府田正雄, 古矢丈雄, 山崎正志, 大鳥精司	【整形外科診療 における最先端 技術】診断、評 価 新しい画 像・機能診断 拡散テンソル画 像による頸部脊 髓症の神経障害 定量評価	別冊整形外科	75 巻	2-5	2019
海渡 貴司, 武中 章太, 串岡 純一, 吉川 秀樹, 渡邊 嘉之, 田中 壽, 寒 重之, 柴田 政彦	脊椎疾患のニュー ーロイメージン グの近未来 安 静時 fMRI を用 いた脳機能結合 解析に基づく頸 髓症の予後予測 を目指して	日本整形外科学会雑誌	93(7)	456-9	2019
山崎 正志 久保田茂希 門根 秀樹 清水 如代 安部 哲哉 國府田正雄	脊柱靭帯骨化症 に伴う急性およ び慢性脊髄障害 に対するロボッ トスーツを用い た機能回復治療	整形外科	69 巻 6 号	628-634	2018
國府田正雄 古矢 丈雄 牧 聡 野口 裕史 三浦 紘世 長島 克弥 山崎 正志他	頸椎後縦靭帯骨 化症に対する術 式選択の指標: K-line	臨床整形外科	53	661-667	2018
岡田英次郎 松本 守雄	びまん性特発 性骨増殖症に 伴った脊椎損 傷	整形外科	69	676-679	2018
木村 敦	圧迫性頸髓症手 術前後の転倒に よる症状悪化	整形外科	69	635-639	2018
森 幹士	非骨化症患者に みられる胸椎黄 色靭帯骨化症の 頻度と研究手法	整形外科	69(6)	667-671	2018
平野 徹	脊柱靭帯骨化症 の診断と治療の 進歩	新潟県脊柱縦靭帯骨化症 患者家族会「サザンカ」 の会通信			2018

勝見 敬一	脊柱縦靱帯骨化 巢の三次元画像 解析	整形外科 「脊柱靱帯骨化 症特集」	69(6)	539-545	2018
小澤 浩司	【脊柱靱帯骨化 症研究の進歩】 術後評価 頸髄 症における術後 脊髄腫脹の検討 MRI Gd-DTPA 増 強効果との関係	整形外科	69(6)	660-666	2018
菅野 晴夫	脊髄損傷の病態 と再生 脊髄損 傷における新た な細胞死ネクロ プトーシスの二 次損傷への関与	日本整形外科学会雑誌	2(10)	753-756	2018
菅野 晴夫	経皮的椎弓根ス クリューの固定 性強化 HA 顆粒 による新たな補 強法と PTH 製剤 による補強効果	整形外科最小侵襲手術ジ ャーナル	87	81-88	2018
加藤 仁志 村上 英樹 出村 諭 吉岡 克人 横川 文彬 土屋 弘行	胸椎後縦靱帯骨 化症に対する後 側方進入前方除 圧術	整形外科	69	598 - 600	2018
藤林 俊介	胸椎後縦靱帯骨 化症に対する広 報固定術後の骨 化巢の応力分布 変化-三次元有 限要素解析	整形外科	69	565-571	2018
西田 周泰 寒竹 司 田口 敏彦	【脊柱靱帯骨化 症研究の進歩】 骨化症の病態 頸椎後縦靱帯骨 化症の手術術式 による脊髄応力 分布変化	整形外科	69(6)	559 564	2018
鬼頭 浩史	HPP における骨 折リスクについ て	HPP Frontier	1	40-41	2018
鬼頭 浩史	思春期を診る・ 四肢や体幹の痛 み	小児科	59	543-548	2018

鬼頭 浩史	骨系統疾患の治療-現状と展望-	日整会誌	92	977-986	2018
大場 哲郎 江幡 重人 岩間 達 勝麻 里那 波呂 浩孝	頸椎前方固定術前後の嚙下障害評価とリスクファクターの検討～嚙下内視鏡とスクリーニング質問シートを用いて～	Journal of Spine Research	9(3)	686	2018
山田 圭	脊椎疾患由来の慢性疼痛の治療戦略	整形外科	70(1)	51-60	2018
海渡 貴司, 藤原 啓恭, 武中 章太, 牧野 孝洋, 坂井 勇介, 吉川 秀樹.	【脊柱靱帯骨化症研究の進歩】術後評価 頸髄症術後成績の経時変化.	整形外科	69(6)	640-643	2018
西村 浩輔, 松岡 佑嗣, 遠藤 健司, 鈴木 秀和, 高松太一郎, 村田 寿馬, 粟飯原孝人, 山本 謙吾	チタン製椎弓プレートを用いた頸椎椎弓形成術	臨整会誌	53	693-697	2018
関 健, 遠藤 健司, 松岡 佑嗣, 西村 浩輔, 高松太一郎, 山本 謙吾	頸椎後縦靱帯骨化症に対する椎弓形成術後後弯発生と脊椎矢状面アライメント	整形外科	69	655-659	2018
関 健, 遠藤 健司, 鈴木 秀和, 高松太一郎, 小西 隆允, 山本 謙吾	関健,遠藤健司,鈴木秀和,高松太一郎,小西隆允,山本謙吾: Pharyngeal inlet angle は頸椎前縦靱帯骨化に伴う嚙下障害発症の指標になる. 東日本整災 30 : 544-548, 2018	東日本整災誌	30	544-548	2018
平井高志	頸椎後縦靱帯骨	Journal of Spine	8	132-138	2017

吉井俊貴 岩波明生 竹内一裕 森 幹士 山田剛史 西村空也 松本守雄, 中村雅也 大川 淳 川口善治	化症患者の全脊椎 CT を用いた 脊柱靱帯骨化の 評価－大規模多 施設研究に基づ いて特に後縦靱 帯骨化巣と項靱 帯骨化巣に着目 して JOSL CT study	Research			
今釜史郎	胸椎 OPLL の手 術治療～より安 全にそして確實 を目指して～	整形外科		64-72	2017
今釜史郎	胸椎後縦靱帯骨 化症（胸椎 OPLL）に対する 後方除圧矯正固 定術	脊椎脊髄外科ジャーナル		5-12	2017
岡田英次朗 松本守雄	専門医試験をめ ざす症例問題ト レーニング 外 傷性疾患(スポ ツ障害も含む) －	整形外科	68(7)	p675- 679、	2017年
山田 圭	脊柱変形による 神経障害機序の 検討 - 日本脊椎 脊髄病学会脊髄 モニタリングワ ーキンググルー プ多施設前向き 研究	J Spine Res.	8	1493-1501	2017
勝見敬一	脊柱靱帯骨化症 の最新の知見 ～腰部脊柱管狭 窄症・骨粗鬆 症・メタボとの 関連性～	新潟県脊柱縦靱帯骨化症 患者家族会「サザンカ」 の会通信	60	13-15	2017
勝見敬一	CT を用いた 3 次 元画像解析によ る骨化巣進展の 評価	Loco CURE	3	216-221	2017
小崎慶介、北 野利夫、鬼頭 浩史、中島康 晴、北中幸子、 室月淳、西村 玄、芳賀信彦	2015 年版骨系統 疾患国際分類の 和訳	日整会誌	91	462-502	2017

勝見敬一	頰椎後方固定術は後縦靱帯骨化症の進展を抑制する-三次元画像解析を用いた椎弓形成術と後方固定術との比較	整形外科「最新原著レビュー」	69	288-291	2018
小澤浩司	脊椎・脊髄疾患の神経学 神経病変の脊髄高位の診断 頸髄症・頸部神経根症における障害高位の診断	整形・災害外科	60巻5号	473-478	2017年
高橋忠久, 菅野晴夫, 相澤俊峰, 橋本功, 井樋栄二, 小澤浩司	同一椎間に再発した胸椎黄色靱帯骨化症の2例	東北整形災害外科学会雑誌	60巻1号	101-105	2017年
関健、松岡佑嗣、遠藤健司、鈴木秀和、澤地恭昇、西村浩輔、小島理、松岡恒弘、山本謙吾	頰椎後縦靱帯骨化症に対する椎弓形成術後後弯発生と全脊椎矢状面アライメント	臨床整形外科	52(12)	1191-1195	2017
関健、遠藤健司、松岡佑嗣、西村浩輔、高山松太郎、山本謙吾	頰椎後縦靱帯骨化症に対する椎弓形成術後後弯発生と脊椎矢状面アライメント				2018 (in press)
細野昇, 武向中章太, 井克容, 立石耕介, 池上大督, 富士武史.	シンポジウム この10年のイノベーション椎弓形成術の合併症制圧を目指して 軸性疼痛とC5麻痺.	Journal of Spine Research.	8(9)	1502-7	2017
海渡貴司	【頰髄症のUp-to-date】(Part1)症候学と診断 頰髄症における Myelopathy hand を含む手の症候(解説/特集)	Bone Joint Nerve	8巻1号	15-20	2018

学会発表(国際学会等)

1. Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, Tomoyuki Yokoyama, Atsushi Okawa 3' UTR alternative splicing of mRNAs may contribute to the mechanisms of peripheral neuropathy. 46Th ISSLS 2019/6/3
2. Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, Hiroyuki Inose, Masato Yuasa, Shuta Ushio, Hiroaki Onuma, Atsuyuki Kawabata, Atsushi Okawa Surgical outcomes of thoracic arachnoid web: a case series ICORS 2019 2019/6/19
3. Nakajima H, Watanabe S, Honjoh K, Kitade I, Sugita D, Matsumine A. Long-term outcome of anterior cervical decompression with fusion for cervical ossification of posterior longitudinal ligament. Cervical Spine Research Society European Section Annual Meeting (2019.5) Roma
4. Kawaguchi Y, Nakano M, Yasuda T, Seki S, Suzuki K, Yahara Y, Makino H, Kobayashi K, Kimura T. Clinical impact of ossification of the posterior longitudinal ligament progression after cervical laminoplasty. Cervical Spine Research Society, Asia Pacific section, 6, August, 2020
5. Kubota S, Kadone H, Shimizu Y, Hara Y, Yamazaki M. Robotic elbow flexion training with a newly developed upper limb single-joint Hybrid Assistive Limb (upper limb HAL-SJ) for elbow flexor reconstruction after brachial plexus injury. 14th International Federation of Societies for Surgery the Hand (IFSSH) and 11th International Federation of Societies for Hand Therapy (IFSHT), June 2019, Berlin, Germany
6. Kubota S, Kadone H, Shimizu Y, Kubo T, Hara Y, Yamazaki M. Muscle activity during robotic elbow flexion training using a newly developed upper limb single-joint Hybrid Assistive Limb device for elbow flexor reconstruction after brachial plexus injury. The XXVII Congress of the International Society of Biomechanics (ISB), July 2019, Calgary, Canada
7. Kubota S, Kadone H, Shimizu Y, Hara Y, Kubo T, Yoshioka T, Sugaya H, Hada Y, Yamazaki M. Feasibility study of robotic elbow flexion training using a newly developed upper limb single-joint hybrid assistive limb for elbow flexor reconstruction after brachial plexus injury. The 41st Annual Meeting of the Royal College of Orthopaedic Surgeons of Thailand (RCOST), October 2019, Pattaya, Thailand
8. Sandra Puentes, Hideki Kadone, Shigeki Kubota, Tetsuya Abe, Yukiyo Shimizu, Yasushi Hada, Aiki Marushima, Yoshiyuki Sankai, Kenji Suzuki, Masashi Yamazaki. Enhancement of Gait Coordination through Robotic Therapy in

Myelopathy Patients with Residual Motor Disturbances after Decompression Surgery, 08-9, 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress (ISPRM), Kobe, Japan, June 9-13, 2019.

9. Seioh Ezaki, Hideki Kadone, Shigeki Kubota, Yukiyo Shimizu, Tetsuya Abe, Kousei Miura, Yasushi Hada, Masao Koda, Masashi Yamazaki. Analysis of gait motion change by intervention using robot suit HAL in acute and chronic stage myelopathy patients after decompression surgery, P01, The 1st International Sport Neuroscience Conference (ISNC-IBRO), September 8-9, Tsukuba, Japan, 2019.
10. Seioh Ezaki, Hideki Kadone, Shigeki Kubota, Yukiyo Shimizu, Tetsuya Abe, Kousei Miura, Yasushi Hada, Masao Koda, Masashi Yamazaki. Analysis of gait motion change by intervention using robot suit Hybrid Assistive Limb in acute and chronic stage myelopathy patients after decompression surgery. The 41st Annual Meeting of the Royal College of Orthopaedic Surgeons of Thailand (RCOST), October 20-22, Pattaya, Thailand, 2019.
11. Tetsuya Abe, Shigeki Kubota, Hideki Kadone, Yukiyo Shimizu, Kousei Miura, Toru Funayama, Masao Koda, Masashi Yamazaki. Gait training with voluntary driven robotic device in the postoperative acute/subacute phase improves severe myelopathy due to ossification of the posterior longitudinal ligament in the thoracic spine. The 41st Annual Meeting of the Royal College of Orthopaedic Surgeons of Thailand (RCOST), October 20-22, Pattaya, Thailand, 2019.
12. Seioh Ezaki, Hideki Kadone, Shigeki Kubota, Yukiyo Shimizu, Tetsuya Abe, Kousei Miura, Yasushi Hada, Masao Koda, Kenji Suzuki, Masashi Yamazaki. Acquisition of double knee action by intervention using robot suit robot suit
13. Hybrid Assisted Limb<sup>®</sup> in acute and chronic stage myelopathy patients after decompression surgery, 2018, 14th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress (ISPRM), Orland, USA, March 4-9, 2020.
14. Miura K, Kadone H, Koda M, Yamazaki M. Relationship between deterioration of spinal sagittal balance during walking and fat infiltration in back muscles in adult spinal deformity: A gait analysis using three-dimensional motion analysis. 第4回中日友好脊椎外科研究会, (Tokyo, Japan), December, 2019
15. Miura K, Koda M, Nagashima K, Noguchi H, Funayama T, Abe T, Kawamoto H, Sankai Y, Yamazaki M. Exercise therapy using Hybrid Assistive Limb for lumbar support improves motor function in the elderly. 41st Annual Meeting of the Royal College of Orthopaedic Surgeons of Thailand, (Pattaya, Thailand), October, 2019.

16. Miura K, Kadone H, Shibao Y, Kumagai H, Nagashima K, Maraki K, Noguchi H, Funayama T, Abe T, Koda M, Yamazaki M. Thoracic kyphosis and pelvic anteversion increases during walking in patients with adult spinal deformity: analyses of dynamic alignment change with three-dimensional gait motion analysis system. 46th the International Society for the Study of the Lumbar Spine Annual Meeting, (Kyoto, Japan), June, 2019.
17. Miura K Kadone H, Shibao Y, Kumagai H, Nagashima K, Maraki K, Noguchi H, Funayama T, Abe T, Koda M, Yamazaki M. Elucidation of dynamic spinal alignment change during walking in patients with dropped head syndrome using three-dimensional gait motion analysis. 10th Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section, (Yokohama, Japan), March, 2019
18. Ando. K, Imagama S. Outcomes of surgery for thoracic myelopathy due to thoracic ossification of the ligamentum flavum in a nationwide multicenter prospective study in 223 patients: is instrumented fusion necessary? AAOS 2020 (USA, Orland)
19. Go Yoshida, Yukihiro Matsuyama, Hiroki Ushirozako, Shiro Imagama, Shigenori Kawabata and JSSR monitoring working group. Intraoperative neuromonitoring for ossification of posterior longitudinal ligament in prospective national-wide multicenter study 2019.05.22 CSRS-Euro Roma, Italy
20. Go Yoshida, Shiro Imagama, Shigenori Kawabata, Kei Yamada, Tsukasa Kanchiku, Nobuaki Tadokoto, Masahito Takahashi Kanichiro Wada, Naoya Yamamoto, Muneharu Ando, Hiroki Ushirozako, Yukihiro Matsuyama Intraoperative neuromonitoring for ossification of posterior longitudinal ligament Prospective national-wide study of Japanese society for spine surgery and related research, CSRS-AP (2019.03, 14-16 Yokohama, Japan)
21. Go Yoshida, Hiroki Ushirozako, Tomohiko Hasegawa, Yu Yamato, Tomohiro Banno, Hideyuki Arima, Shin Oe, Yukihiro Matsuyama Multimodal intraoperative spinal neuromonitoring for high risk cervical and cervicothoracic spinal disorders, Global spine congress (2019, 05, 17 Toronto Canada)
22. Haga N: Contribution of rehabilitation medicine to patients with typical form of fibrodysplasia ossificans progressiva. 13th ISPRM World Congress, 2019.6.9-13, Kobe
23. Haga N, Shinoda Y, Fujiwara S, Mano H, Sawada R: Application of a dynamic spinal brace to a child with fibrodysplasia ossificans progressiva developing acutely progressing scoliosis. ISPO 17th World Congress, 2019.10.5-8, Kobe
24. Katsumi K, Hirano T, Watanabe K, Ohashi M, Yamazaki A, Shibuya Y, Makino T,



- Takesue Y, Izumi T, Sawakami K, Denda H, Endo N. Novel concept of posterior decompression and fusion for K-line (-) cervical ossification of the posterior longitudinal ligament. 2019年9月 第26回 JPSTSS
25. Mitsuhiro Kitamura, Satoshi Maki, Takeo Furuya, Takuya Miyamoto, Yasuhiro Shiga, Kazuhide Inage, Sumihisa Orita, Koji Matsumoto, Shingo Terakado, Yoshitada Masuda, Seiji Ohtori: Assessing the inter-vendor reproducibility of diffusion tensor imaging of the spinal cord for multi-center imaging studies. ISMRM 27th Annual Meeting & Exhibition May 11-16, 2019, Montreal, Canada
  26. Takeo Furuya Mid-term surgical outcome of posterior decompression with instrumented fusion in patient with K-line(-) type cervical OPLL. The 63rd Annual Congress of the Korean Orthopaedic Association October 17-19, 2019, Seoul, Korea(Abstract p113)
  27. Takeo Furuya Mid-Term Surgical Outcome of Posterior Decompression With Instrumented Fusion For K-Line Negative Type Cervical OPLL -Minimum 5 Years Follow-Up 18254. CSRS 47th Annual Meeting November 21-22, New York(Abstract p170)
  28. Takenaka S, Kaito T, Makino T, Sakai Y, Kushioka J, Tanaka H, Watanabe Y, Kan S, Shibata M. Plasticity of the brain and prognostic prediction in evaluating spontaneous brain activity for cervical myelopathy: A resting-state fMRI study. EUROSPINE 2019. Oct 16-18, 2019 Helsinki, Finland
  29. Funao H, Igawa T, Kusano S, Isogai N, Maeda Y, Sasao Y, Nishiyama M, Ishii K. Analysis of anticipatory postural adjustments between normal and cervical spondylotic myelopathy patient. 10th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section, Yokohama, Japan, Mar. 15-16, 2019.
  30. Nakajima H, Takahashi A, Kitade I, Watanabe S, Honjoh K, Matsumine A. Clinical predictors and optimal management for patients with cervical spinal cord injury without major bone injury. Eurospine Annual Meeting (2018.9) Barcelona
  31. Ushirozako H, Yoshida G, Kobayashi S, Hasegawa T, Yamato Y, Yasuda T, Banno T, Arima H, Oe S, Mihara Y, Togawa D, Matsuyama Y. : Impact of total propofol dose during spinal surgery: anesthetic fade on transcranial motor evoked potentials monitoring. 第18回日仏整形外科学会 (2018.07.07, 大津市)
  32. Ushirozako H, Yoshida G, Kobayashi S, Hasegawa T, Yamato Y, Yasuda T, Banno T, Arima H, Oe S, Mihara Y, Togawa D, Matsuyama Y.: Transcranial motor evoked potentials for preventing nerve root injury during adult spinal deformity surgery. Spine across the Sea (2018.07.29-08.02, Hawaii)
  33. Kanchiku T, Imajo Y, Suzuki H, Funaba M, Nishida N, Taguchi T, Yoshida G,

- Matsuyama Y: Efficacy of evoked potential monitoring during cervical spine surgeries. 2018 Spine Across the Sea, Kauai, Hawaii. July 29-August 2, 2018
34. Yoshida G, Kobayashi S, Hasegawa T, Yamato Y, Yasuda T, Banno T, Arima H, Oe S, Mihara Y, Togawa D, Matsuyama Y. Multimodal intraoperative spinal neuromonitoring for high risk cervical and cervicothoracic spinal disorders  
5月19日 2018 CSRS-Euro イタリア
  35. Haga N: Activities of the research group on fibrodysplasia ossificans progressiva in Japan. 12th International BMP Conference, 2018.10.24-28, Tokyo
  36. Keiichi katsumi, Akiyoshi Yamazaki, Toru Hirano, Kei Watanabe, Masayuki Ohashi, Tomohiro Izumi, Naoto Endo. Prophylactic bilateral C4/5 foraminotomy for C5 palsy after open-door laminoplasty -A prospective study -. 2018年11月  
The 4th Annual Meeting of the Northern Thai Spine Society
  37. Keiichi katsumi, Toru Hirano, Kei Watanabe, Masayuki Ohashi, Tomohiro Izumi, Naoto Endo. Posterior instrumented fusion suppresses the progression of ossification of the posterior longitudinal ligament: A comparison of laminoplasty with and without instrumented fusion by 3-dimensional analysis.  
2018年12月 CSRS 46th Annual Meeting
  38. Osawa Y, Matsushita M, Mishima K, Ishiguro N, Ohno K, Kitoh H. Bone formation was promoted in mouse model of distraction osteogenesis with gain-of-function mutations in Fgfr3. Annual meeting of Orthopaedic Research Society 2017.3.10-13 (New Orleans)
  39. Kitoh H. Transplantation of autologous culture-expanded bone marrow cells and PRP during lower limb lengthening. Asia Pacific Stem Cells and Cartilage Repair Symposium. 2018.6.30 (Gwangju, Korea)
  40. Matsushita M, Kitoh H, Mishima K, Ishiguro N, Fujiwara S, Haga N, Kitaoka T, Kubota T, Ozono K. Long-term health-related quality of life in patients with achondroplasia and hypochondroplasia. Annual meeting of the American Society for Bone and Mineral Research. 2016.9.28-10.1 (Montreal)
  41. Takeo Furuya, Efficacy of posterior decompression with instrumented fusion for K-line(-)-type cervical OPLL : minimum 5-year follow-up. APSS 2018 Asia Pacific Spine Society June 8-9, 2018, Taiwan
  42. Takeo Furuya, Satoshi Maki, Masao Koda, Mitsuhiro Kitamura, Takuya Miyamoto, Sumihisa Orita, Kasuhide Inage, Yasuhiro Shida, Masashi Yamazaki, Seiji Ohtori, Efficacy of Posterior Decompression with Instrumented Fusion for K-Line(-)-type Cervical OPLL : Minimum 5-Years Follow-up. CSRS 2018 46th Annual

- Meeting of Cervical Spine Research Society December 6 - 8, 2018, Scottsdale, USA (Abstract p363)
43. Takeo Furuya, Satoshi Maki, Masao Koda, Mitsumura Kitamura, Takuya Miyamoto, Sumihisa Orita, Kazuhide Inage, Yasuhiro Shida, Masashi Yamazaki, Seiji Ohtori, Efficacy of Posterior Decompression with Instrumented Fusion for K-Line(-)-type Cervical OPLL - Comparison between Long Fusion and Short Fusion. CSRS 2018 46th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society December 6 - 8, 2018, Scottsdale, USA (Abstract p385)
  44. Takeo Furuya Mid-term surgical outcome of posterior decompression with instrumented fusion in patient with cervical OPLL. The second international seminar of cervical spine surgery February 21-22,2019, Phnom-Penh, Cambodia
  45. Takeo Furuya, Satoshi Maki, Mitsuhiro Kitamura, Takuya Miyamoto, Yasuhiro Shiga, Kazuhide Inage, Sumihisa Orita, Masao Koda, Masashi Yamazaki, Seiji Ohtori Mid-term Surgical Outcome of Posterior Decompression with Instrumented Fusion for K-line (-)-type Cervical OPLL. 10th Anniversary Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section March 14-16, 2019, PACIFICO Yokohama, Japan (Abstract p57)
  46. Mitsuhiro Kitamura, Satoshi Maki, Takeo Furuya, Takuya Miyamoto, Yasuhiro Shiga, Kazuhide Inage, Sumihisa Orita, Masao Koda, Masashi Yamazaki, Seiji Ohtori Assessing the inter-vendor reproducibility of diffusion tensor imaging of the spinal cord for multi-center imaging studies. 10th Anniversary Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section March 14-16, 2019, PACIFICO Yokohama, Japan (Abstract p130)
  47. Takashi Kaito, Shota Takenaka, Takahiro Makino, Yusuke Sakai, Junichi Kushioka, Hisashi Tanaka, Yoshiyuki Watanabe, Shigeyuki Kan, Masahiko Shibata. Brain biomarkers of neurological improvement in patients with cervical myelopathy - A resting-state fMRI study- CSRS 46th Annual Meeting December 6-8, Scottsdale, AZ
  48. Funao H, Yamane J, Isogai N, Tsuji O, Fujita N, Yagi M, Watanabe K, Nakamura M, Matsumoto M, Ishii K, Nagoshi N. Surgical results and clinical outcomes after cervical laminoplasty for ossification of the posterior longitudinal ligament stratified by ASA-PS classification 9<sup>th</sup> Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section New Delhi, India, 2018.
  49. Kawaguchi Y, Nakano M, Yasuda T, Seki S, Suzuki K, Yahara Y, Makino H, Kimura T. More than 20 years of follow-up after en bloc cervical laminoplasty. 8th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section; 2017

Mar 9-11; Kobe

50. Fujii K, Abe T, Kubota S, Marushima A, K, Kawamoto H, Sankai Y, Yamazaki M. Voluntary driven exoskeleton Hybrid Assistive Limb for postoperative therapy of cervical and thoracic ossification of the posterior longitudinal ligament. 8th Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section, (Kobe, Japan), March, 2017
51. Puentes Sandra, Kadone H, Marushima A, Kubota S, Shimizu Y, Kawamoto H, Suzuki K, Abe T, Yamazaki M. Gait coordination in acute myelopathy patients before and after gait treatment using a powered exoskeleton. International Society of Posture and Gait Research (ISPGR) World Congress (Fort Lauderdale, USA) 2017
52. Shimizu Y, Kadone H, Kubota S, Abe T, Funayama T, Marushima A, Ueno T, Hada Y, Yamazaki M. Possibility of voluntary elbow flexion in patients with complete quadriplegia with C4 cervical cord injury using Hybrid Assistive Limb (HAL®) technology. The XXVI Congress of the International Society of Biomechanics (ISB) (Brisbane, Australia) 2017 July
53. Shimizu Y, Kadone H, Kubota S, Abe T, Marushima A, Ueno T, Hada Y, Yamazaki M. Voluntary ambulation is possible in patients with complete quadriplegia or paraplegia by using upper arm muscle activities and Hybrid Assistive Limb (HAL®) technology. The XXVI Congress of the International Society of Biomechanics (ISB) (Brisbane, Australia) 2017 July
54. Kadone H, Miura K, Abe T, Endo H, Murakami H, Doita M, Shimizu Y, Kubota S, Hada Y, Yamazaki M. Effect of robot suit HAL for lumbar support on reduction of lumbar load in repetitive snow shoveling movement. The XXVI Congress of the International Society of Biomechanics (ISB) (Brisbane, Australia) 2017 July
55. Kadone H, Kubota S, Shimizu Y, Abe T, Marushima A, Ueno T, Hada Y, Yamazaki M. Gait and muscle activity during clinical intervention using robot suit HAL (Hybrid Assistive Limb) in a patient with severe spinal cord disorder. The XXVI Congress of the International Society of Biomechanics (ISB) (Brisbane, Australia) 2017 July
56. Abe T, Fujii K, Kubota S, Kadone H, Miura K, Nagashima K, Noguchi H, Funayama T, Kumagai H, Koda M, Yamazaki M. Efficacy of gait training using HAL after surgery for severe myelopathy due to thoracic ossification of the posterior longitudinal ligament. 19th Deutsch-Japanische Society Symposium (Berlin, Germany) 2017 November

57. Go Yoshida, Tomohiko Hasegawa, Yu Yamato, Sho Kobayashi, Shin Oe, Hideyuki Arima, Tatsuya Yasuda, Tomohiro Banno, Yuki Mihara, Hiroki Ushirozako, Daisuke Togawa, Yukihiro Matsuyama, Intraoperative neuromonitoring during adult spinal deformity surgery: Alert positive cases in different surgical procedures Scoliosis Research Society 2017 annual meeting (2017年9.6-9 フィラデルフィア)
58. Yamada K, Matsuyama Y, Kawabata S, Ando M, Yamamoto N, Kobayashi S, Imagama S, Kanchiku T, Wada K, Tadokoro N Mechanism of nerural complication induced by corrective surgery for spinal deformity-Multi-institutional survey by the Spinal Cord Monitoring Working Group of Japanese Society for Spine Surgery and Related Research-Eurospine 2017 (2017年10月11日 Dublin, Ireland)
59. Satoshi Sumiya, Shigenori Kawabata, Toshitaka Yoshii, Atsushi Okawa. Cervical spinal cord impairment associated with neck flexion in posterior cervical decompression. Cevical Spine Research Society 45th Annual Meeting. 2017年12月2日. Florida・Diplomat Beach Resort
60. Keiichi Katsumi. Posterior instrumented fusion suppresses the progression of ossification of the posterior longitudinal ligament: A comparison of laminoplasty with and without instrumented fusion by 3-dimensional analysis. 2017年7月 26th Congress of the international Society of Biomechanics 2017 (Australia Brisbane)
61. The reoperation rates after anterior fusion and laminoplasty of the cervical spine: a 26-year period survival function analysis. Hashimoto K et al. 18th EFORT Meeting Vienna, Austria, 2017.5.31
62. Kato S, et al. A novel surgical procedure for ossification of the posterior longitudinal ligament in the thoracic spine. American Academy of Orthopaedic Surgeons 2017 Annual Meeting 2017.3.14-18. San Diego, USA
63. Matsushita M, Kitoh H, Mishima K, Sugiura H, Hasegawa S, Kitamura A, Ishiguro N, Ohno K. Clinically feasible dose of meclozine promotes bone growth in mouse model with achondroplasia. Annual meeting of Orthopaedic Research Society 2017.3.19-22 (San Diego)
64. Kitoh H, Mishima K, Matsushita M, Sugiura H, Kitamura K, Ishiguro N. Transplantation of autologous culture-expanded bone marrow cells and platelet rich plasma for bone regeneration. Comprehensive clinical study of the lower limb lengthening. EPOS/POSNA combined annual meeting 2017.5.3-6 (Barcelona)

65. Matsushita M, Kitoh H, Mishima K, Sugiura H, Kitamura A, Ishiguro N. Clinical feasibility of meclozine for improvement of short stature in achondroplasia. EPOS/POSNA combined annual meeting 2017.5.3-6 (Barcelona)
66. Matsushita M, Kitoh H, Mishima K, Yamashita S, Sugiura H, Kitamura A, Ishiguro N. Long term health-related quality of life in achondroplasia. EPOS/POSNA combined annual meeting 2017.5.3-6 (Barcelona)
67. Hiroshi Kaneko, Tadashi Hattori, Koji Iwata, Masaki Matsushita, Hiroki Furuhashi, Hiroshi Kitoh. Disappearance of soft tissue interposition after gradual reduction using overhead traction in late-presenting DDH. A prospective comparative study on serial MRIs between pre-walking and walking children. EPOS/POSNA combined annual meeting 2017.5.3-6 (Barcelona)
68. Hiroshi Kaneko, Hiroshi Kitoh, Masaki Matsushita, Hiroki Furuhashi, Tadashi Hattori. Secondary spherical remodeling from the healed stage to skeletal maturity in Legg-Calvé-Perthes Disease treated with Salter innominate osteotomy. EPOS/POSNA combined annual meeting 2017.5.3-6 (Barcelona)
69. Hiroki Furuhashi, Hiroshi Kaneko, Koji Iwata, Tadashi Hattori, Hiroshi Kitoh. Salter innominate osteotomy for DDH in childhood does not predispose to anterior over-coverage and posterior under-coverage in adulthood. EPOS/POSNA combined annual meeting 2017.5.3-6 (Barcelona)
70. Kitoh H, Mishima K, Matsushita M, Ishiguro N. Transplantation of autologous culture-expanded bone marrow cells and platelet rich plasma during lower limb lengthening. The 27th Korean-Japanese Combined Orthopaedic Symposium. 2017.5.26-26 (Incheon)
71. Matsushita M, Mishima K, Ishiguro N, Ohno K, Kitoh H. Clinically feasible dose of meclozine improves bone growth, bone volume, and bone quality in mouse model with achondroplasia. The 27th Korean-Japanese Combined Orthopaedic Symposium. 2017.5.26-26 (Incheon)
72. Okura T, Matsushita M, Mishima K, Esaki R, Seki T, Ishiguro N, Kitoh H. Activated FGFR3 prevents subchondral bone sclerosis during the development of osteoarthritis in transgenic mice with achondroplasia. The 27th Korean-Japanese Combined Orthopaedic Symposium. 2017.5.26-26 (Incheon)
73. Osawa Y, Matsushita M, Ishiguro N, Ohno K, Kitoh H. Activated FGFR3 promotes bone formation via accelerating endochondral ossification in mouse model of distraction osteogenesis. The 27th Korean-Japanese Combined Orthopaedic Symposium. 2017.5.26-26 (Incheon)

74. Kitoh H, Matsushita M, Mishima K, Ishiguro N, Ohno K. Oral administration of meclozine for the treatment of short stature in achondroplasia. 13th International Skeletal Dysplasia Meeting 2017.6.21-23 (Bruges)
75. Matsushita M, Kitoh H, Mishima K, Ishiguro N. Treatment of deformities in lower extremity by a multi-axial external fixation system. 61st Korean Orthopaedic Association 2017.10.19-21 (Seoul)
76. Takashi Kaito, Shota Takenaka, Takahiro Makino, Yusuke Sakai, Junichi Kushioka, Hisashi Tanaka, Yoshiyuki Watanabe, Shigeyuki Kan, Masahiko Shibata. Brain Connectivity can be a novel predictor for neurological improvement in patients with cervical myelopathy. The 45th Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society. December 2, 2017 Hollywood, Florida
77. Junichi Kushioka, Takashi Kaito, Shota Takenaka, Takahiro Makino, Yusuke Sakai, Hisashi Tanaka, Yoshiyuki Watanabe, Shigeyuki Kan, Masahiko Shibata. Brain changes in functional connectivity and anatomies in patients with cervical myelopathy: A resting-state functional MRI study. The 45th Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society. December 2, 2017 Hollywood, Florida
78. Kushioka J, Kaito T, Takenaka S, Makino T, Sakai Y, Tanaka H, Watanabe Y, Kan S, Shibata M. Brain changes in functional connectivity and anatomies in patients with cervical myelopathy: A resting-state functional MRI study. The 45th Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society. December 2, 2017 Hollywood, Florida

学会発表（国内学会）

1. 平井 高志, 吉井 俊貴, 名越 慈人, 森 幹士, 竹内 一裕, 勝見 敬一, 牧 聡, 牛尾 修太, 中村 雅也, 松本 守雄, 大川 淳, 川口 善治 全国多施設研究による頸椎 OPLL 患者の痛み・QOL の前向き調査 厚労科研脊柱靱帯骨化症研究班・JOSL study 第 48 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2019/4/18
2. 吉井 俊貴, 森下 真伍, 湯浅 将人, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 大川 淳 頸椎後縦靱帯骨化症に対する前方除圧固定術と後方除圧固定術の周術期合併症 DPC データベースを用いた propensity score matching analysis 1708 例の検討 第 48 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2019/4/18
3. 平井 高志, 吉井 俊貴, 江川 聡, 猪瀬 弘之, 湯浅 将人, 牛尾 修太, 平井 敬悟, 小沼 博明, 小林 裕, 歌川 蔵人, 橋本 淳, 川畑 篤礼, 大川 淳 頸椎多椎間病変に対する椎体亜全摘を行った頸椎前方除圧固定術と椎体間固定術を併用した Hybrid 固定との比較 第 48 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2019/4/18
4. 吉井 俊貴, 大川 淳 脊椎脊髄疾患診療における費用対効果について 頸椎 OPLL に対する手術治療 術式別の手術成績と費用対効果 第 92 回 日本整形外科学会学術総会 2019/5/9
5. 平井 高志, 吉井 俊貴, 猪瀬 弘之, 湯浅 将人, 大川 淳 当院における頸椎症性脊髄症の手術治療成績 Modified K-line を用いた後方除圧の限界点を考慮した取り組み 第 68 回 東日本整形災害外科学会 2019/9/5
6. 平井 高志, 吉井 俊貴, 森 幹士, 名越 慈人, 竹内 一裕, 勝見 敬一, 牧 聡, 湯浅 将人, 猪瀬 弘之, 大川 淳, 川口 善治 頸椎後縦靱帯骨化症患者の痛みに関する大施設多施設前向き調査 -頸椎症患者と傾向スコアマッチング解析を用いた比較 第 27 回 日本腰痛学会 2019/9/13
7. 吉井 俊貴 靱帯骨化症の治療 最近の取り組み 東京都脊柱靱帯骨化症患者会 医療講演会 2019/10/20
8. 吉井 俊貴, 森下 真伍, 藤原 武男, 大川 淳 頸椎後縦靱帯骨化症に対する前方除圧固定術と後方除圧固定術の周術期合併症 DPC データベースを用いた 1708 例の検討 第 28 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2019/11/15
9. 平井 高志, 吉井俊貴 橋本淳 森幹士 名越慈人 竹内一裕 勝見敬一 牧聡 大川 淳 川口善治 日本に多い頸椎後縦靱帯骨化症患者には全身の痛みが強いのか? -大施設多施設前向き調査による頸椎症患者と傾向スコアマッチング解析を用いた比較 第 12 回 日本運動器疼痛学会 2019/11/30
10. 長本行隆、岩崎幹季、奥田真也、他 . 頸椎 OPLL に対する前方固定術 + 椎弓形成術の短期成績 . 第 48 回日本脊椎脊髄病学会 (平成 31 年 4 月 19 日横浜)
11. 岩崎幹季 . 大阪労災病院における整形外科医療の効率化と問題点 . 第 133 回中部整形外



科災害外科学会（2019年9月20日神戸）

12. 中嶋秀明、内田研造、田口敏彦、山下敏彦、富永俊克、田中雅人、山縣正庸、海渡貴司、牛田享宏. 脊髄障害性疼痛症候群の臨床的特徴と治療に関する全国実態調査. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会（2019.4）横浜
13. 中嶋秀明、高橋藍、渡邊修司、本定和也、松峯昭彦. 非骨傷性頸髄損傷の機能的予後予測の解析と治療選択. 第92回日本整形外科学会学術集会（2019.5）横浜
14. 北出誠、中嶋秀明、渡邊修司、本定和也、松峯昭彦. 頸髄損傷モデルにおけるtranslocator protein (TSPO)発現とPK11195 PET imagingによる動態解析. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会（2019.10）横浜
15. 久保田茂希、門根秀樹、清水如代、安部哲哉、国府田正雄、羽田康司、山海嘉之、山崎正志. 術後長期が経過した慢性期脊髄障害患者に対するロボットスーツ HAL を用いたリハビリテーションの効果. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2019年4月, 横浜
16. 久保田茂希、清水如代、門根秀樹、安部哲哉、国府田正雄、上野友之、羽田康司、山崎正志. 慢性期脊髄損傷に伴う四肢・両下肢完全麻痺症例に対する残存筋活動をトリガーとした T-HAL (heterotopic Triggered HAL)法の経験. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2019年4月, 横浜
17. 久保田茂希、門根秀樹、清水如代、安部哲哉、国府田正雄、羽田康司、山海嘉之、山崎正志. 慢性期脊髄障害患者に対する両脚型 HAL を用いた機能回復治療. 第92回日本整形外科学会学術総会, 2019年5月, 横浜
18. 安部哲哉、久保田茂希、三浦紘世、門根秀樹、藤井賢吾、清水如代、船山徹、古矢丈雄、国府田正雄、山崎正志「急性および亜急性の重度脊髄障害を呈した胸椎後縦靱帯骨化症に対する術後 HAL 治療の効果」3-Po-54、第92回日本整形外科学会学術総会、2019年5月9-12日、横浜
19. 江崎聖桜、門根秀樹、久保田茂希、安部哲哉、清水如代、羽田康司、國府田正雄、山崎正志 重度脊髄障害に対する術後急性期および慢性期にロボットスーツ HAL を用いた機能改善治療効果の解析 - ダブルニーアクションの改善、2-8-22、第34回日本整形外科学会基礎学術集会、2019年10月17-18日、横浜
20. 江崎聖桜、門根秀樹、久保田茂希、清水如代、安部哲哉、三浦紘世、羽田康司、国府田正雄、山崎正志 重度脊髄障害術後急性期・慢性期へのロボットスーツ HAL 介入後の歩容変化の解析 ダブルニーアクションの改善、2P-1-1-11、第3回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会、2019年11月15-17日、静岡
21. 三浦紘世、安部哲哉、柴尾洋介、熊谷洋、長島克弥、俣木健太郎、野口裕史、船山徹、國府田正雄、山崎正志. 後頭骨頸椎後方手術後に嚥下障害を合併した超高齢者の1例. 第21回茨城脊椎脊髄研究会（つくば）、11月、2019.
22. 三浦紘世、門根秀樹、柴尾洋介、熊谷洋、長島克弥、俣木健太郎、野口裕史、船山徹、安

- 部哲哉，國府田正雄，山崎正志.首下がりに対する三次元歩行動作解析を用いたアライメントの動的評価.第28回日本脊椎インストゥルメンテーション学会（つくば），11月，2019.
23. 三浦紘世，門根秀樹，柴尾洋介，熊谷洋，長島克弥，俣木健太郎，野口裕史，船山徹，安部哲哉，國府田正雄，山崎正志.成人脊柱変形における歩行による脊椎矢状面バランスの悪化と背筋群の脂肪浸潤との関係-三次元歩行動作解析を用いた歩行解析-.第28回日本脊椎インストゥルメンテーション学会（つくば），11月，2019.
  24. 三浦紘世，門根秀樹，柴尾洋介，熊谷洋，長島克弥，俣木健太郎，野口裕史，船山徹，安部哲哉，國府田正雄，山崎正志.脊柱変形に対する三次元歩行動作解析を用いた脊柱バランスの評価.第46回日本臨床バイオメカニクス学会学術集会（久留米），11月，2019.
  25. 三浦紘世，門根秀樹，柴尾洋介，熊谷洋，長島克弥，俣木健太郎，野口裕史，船山徹，安部哲哉，國府田正雄，山崎正志.成人脊柱変形では平地連続歩行により胸椎後弯と骨盤前傾が増加する-三次元歩行動作解析を用いた動的な脊柱アライメントの解析-.第34回日本整形外科学会基礎学術集会（横浜），10月，2019.
  26. 三浦紘世，門根秀樹，柴尾洋介，熊谷洋，長島克弥，俣木健太郎，野口裕史，船山徹，安部哲哉，國府田正雄，山崎正志.首下がり症候群に対する三次元歩行動作解析を用いたアライメントの動的評価.第34回日本整形外科学会基礎学術集会（横浜），10月，2019.
  27. 三浦紘世，門根秀樹，野口裕史，船山徹，安部哲哉，國府田正雄，河本浩明，山海嘉之，山崎正志.腰部支援用HALを用いた患者移乗模擬動作における腰部負荷軽減効果.第34回日本整形外科学会基礎学術集会（横浜），10月，2019.
  28. 三浦紘世，國府田正雄，長島克弥，野口裕史，船山徹，安部哲哉，河本浩明，山海嘉之，山崎正志.ロコモティブシンドローム に対するHAL腰タイプを用いた運動療法の効果.第34回日本整形外科学会基礎学術集会（横浜），10月，2019.
  29. 三浦紘世，國府田正雄，長島克弥，野口裕史，船山徹，安部哲哉，河本浩明，山海嘉之，山崎正志.ロコモティブシンドローム に対するHAL腰タイプを用いた運動療法の効果.第27回日本腰痛学会（神戸），9月，2019.
  30. 三浦紘世，門根秀樹，長島克弥，野口裕史，船山徹，安部哲哉，國府田正雄，遠藤寛興，村上秀樹，土井田稔，河本浩明，山海嘉之，山崎正志.様々な重作業における腰部支援用HALの腰部負荷軽減効果.第27回日本腰痛学会（神戸），9月，2019.
  31. 三浦紘世，長島克弥，野口裕史，船山徹，安部哲哉，國府田正雄，山崎正志.三次元動作解析を用いた歩行解析による首下がり症候群の脊柱バランスの評価.第8回Japan Association of Spine Surgeons with Ambition [JASA]（横浜），8月，2019.
  32. 三浦紘世，門根秀樹，柴尾洋介，熊谷洋，長島克弥，俣木健太郎，野口裕史，船山徹，安部哲哉，國府田正雄，山崎正志.首下がりに対する三次元歩行動作解析を用いたアライメントの動的評価.第92回日本整形外科学会（神奈川），5月，2019.
  33. 三浦紘世，門根秀樹，柴尾洋介，熊谷洋，長島克弥，俣木健太郎，野口裕史，船山徹，安

- 部哲哉，國府田正雄，山崎正志.成人脊柱変形に対する三次元歩行動作解析を用いた全脊柱アライメントの動的評価.第92回日本整形外科学会（神奈川），5月，2019.
34. 三浦紘世，門根秀樹，柴尾洋介，熊谷洋，長島克弥，俣木健太郎，野口裕史，船山徹，安部哲哉，國府田正雄，山崎正志.成人脊柱変形に対する三次元歩行動作解析を用いた全脊柱アライメントの動的評価.第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会（神奈川），4月，2019.
35. 三浦紘世，門根秀樹，柴尾洋介，熊谷洋，長島克弥，俣木健太郎，野口裕史，船山徹，安部哲哉，國府田正雄，山崎正志.首下がりに対する三次元歩行動作解析を用いたアライメントの動的評価.第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会（神奈川），4月，2019.
36. 三浦紘世，門根秀樹，柴尾洋介，熊谷洋，長島克弥，俣木健太郎，野口裕史，船山徹，安部哲哉，國府田正雄，山崎正志.腰部支援用HALを用いた重量物挙上反復動作における腰部負荷軽減効果.第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会（神奈川），4月，2019.
37. 三浦紘世，門根秀樹，柴尾洋介，熊谷洋，長島克弥，俣木健太郎，野口裕史，船山徹，安部哲哉，國府田正雄，山崎正志.腰部支援用HALを用いた患者移乗模擬動作における腰部負荷軽減効果.第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会（神奈川），4月，2019.
38. 三浦紘世，久保田茂希，松井彩乃，安部哲哉，門根秀樹，清水如代，野口裕史，船山徹，國府田正雄，山崎正志.ロボットスーツHALを用いた歩行訓練による首下がり症候群の改善.第9回日本成人脊柱変形学会（東京），3月，2019.
39. 三浦紘世，門根秀樹，熊谷洋，長島克弥，俣木健太郎，野口裕史，船山徹，安部哲哉，國府田正雄，山崎正志.三次元動作解析による首下がり症候群における脊柱アライメントの連続歩行時の動的変化.第9回日本成人脊柱変形学会（東京），3月，2019.
40. 山本竜也、岡田英次郎、吉井俊貴、大川淳、松本守雄、渡辺航太.びまん性特発性骨増殖症を合併した脊椎損傷における糖尿病の影響 -厚労科研脊柱靭帯骨化症研究班・多施設研究- 第54回日本脊髄障害医学会 2019年11月
41. 岡田英次郎、湯浅将人、吉井俊貴、大川淳、松本守雄、渡辺航太.びまん性特発性骨増殖症を合併した脊椎損傷における診断の遅れと麻痺悪化の関係 -多施設前向き研究- 第54回日本脊髄障害医学会 2019年11月
42. 加藤裕幸、岡田英次郎、渡辺航太、檜山明彦、渡辺慶、勝見敬一、中川幸洋、竹内一裕、松永俊二、圓尾圭史、坂井顕一郎、吉井俊貴、小林祥、大場哲郎、和田簡一郎、大谷隼一、遠藤照頭、西村浩輔、森幹士、都島幹人、松本守雄、大川淳、渡辺雅彦.びまん性特発性骨増殖症に伴った脊椎損傷 - 頰椎と胸腰椎における骨折の比較 - 第48回日本脊椎脊髄病学会 2019年4月
43. 今釜 史郎，安藤 圭，小林 和克，中島宏彰，石黒 直樹.嘴状型胸椎後縦靭帯骨化症の後方手術.第28回日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2019年11月15日～17日
44. 安藤 圭、今釜史郎ら「胸椎黄色靭帯骨化症手術に対する手術治療 AMED・厚労科研研究班 多施設調査研究（第1報）」第48回日本脊椎脊髄病学会 2019

45. 吉田剛 後迫宏紀 安藤宗治 山田圭 川端茂徳 今釜史郎 寒竹司 高橋雅人 藤原靖 田所伸朗 和田簡一郎 山本直也 松山幸弘 高リスク脊椎手術における脊髄モニタリング 第92回 日本整形外科学会 (2019.05.19-22 パシフィコ横浜)
46. 吉田剛 長谷川智彦 大和雄 安田達也 坂野友啓 有馬秀幸 大江慎 後迫宏紀 井出浩一郎 渡邊悠 山田智裕 松山幸弘 胸椎後縦靱帯骨化症に対する選択的血管造影を用いた前脊髄動脈評価 脊髄障害医学会 (2019,10.30 秋田)
47. 吉田剛 長谷川智彦 大和雄 安田達也 坂野友啓 有馬秀幸 大江慎 後迫宏紀 井出浩一郎 渡邊悠 山田智裕 松山幸弘 経頭蓋刺激末梢筋誘発電位 (Tc-MEPs) の有害事象 日本臨床神経生理学学会 (2019、11、28 福島)
48. 吉田剛 長谷川智彦 大和雄 坂野友啓 有馬秀幸 大江慎 三原唯暉 後迫宏紀 戸川大輔 松山幸弘 胸椎後縦靱帯骨化症に対する術中脊髄モニタリングと脊髄循環不全 第40回脊髄機能診断研究会 (2019.02.02,千代田区)
49. 後迫宏紀、吉田剛、長谷川智彦、大和雄、安田達也、坂野友啓、有馬秀幸、大江慎、三原唯暉、山田智裕、戸川大輔、松山幸弘：プロポフォル使用量は変形矯正術中 MEP の false positive 波形全体低下発生に影響する。第92回日本整形外科学会学術集会 パシフィコ横浜 横浜市 2019年5月9日～12日
50. 後迫宏紀、吉田剛、長谷川智彦、大和雄、安田達也、坂野友啓、有馬秀幸、大江慎、山田智裕、井出浩一郎、渡邊悠、松山幸弘：小児側弯矯正および成人脊柱変形矯正手術中の TcMEP false-positive alerts の特徴。第49回日本臨床神経生理学学会学術大会 ザ・セレクトン福島/コラッセふくしま。福島市 2019年11月28日～30日
51. 後迫宏紀、吉田剛、長谷川智彦、大和雄、安田達也、坂野友啓、有馬秀幸、大江慎、山田智裕、松山幸弘：小児側弯矯正手術中の false positive は anesthetic fade により発生する。第34回日本整形外科学会基礎学術集会 パシフィコ横浜 横浜市 2019年10月17日～18日
52. 芳賀信彦：成人後を見据えた小児骨系統疾患の診療。第92回日本整形外科学会学術総会(教育研修講演)，2019.5.11，横浜
53. 芳賀信彦：小児希少疾患のリハビリテーション診療、第56回日本リハビリテーション医学会学術集会(教育講演) 2019.6.15、神戸
54. 森 幹士。ストップ ザ ロコモ ～健康寿命延伸を目指せ～ 日医生涯教育協力講座 セミナー 大津市 2019, 6, 15
55. 森 幹士。脊柱靱帯骨化症についての理解を深める 大阪脊柱靱帯骨化症友の会医療講演 大阪市 2019, 10, 27
56. 森 幹士。脊柱靱帯骨化症と広範脊柱管狭窄症についての理解を深めよう 近江脊柱靱帯骨化症友の会 医療講演 彦根市 2019, 11, 10
57. 森 幹士、今井晋二。DISHにおける前縦靱帯骨化と大動脈との関係について シンポジウム1 びまん性特発性骨増殖症(DISH)の病態と関連疾患の治療 第47回 日本関

節病学会 2019, 11, 21-23

58. 森 幹士 吉井俊貴 平井高志 名越慈人 西村空也 竹内一裕 大川淳 川口善治  
厚労科研脊柱靱帯骨化症研究班 . 全脊椎 CT 大規模多施設研究による重度頸椎 OPLL 症  
例の特徴 -厚労科研脊柱靱帯骨化症研究班・JOSL study - 第 48 回 日本脊椎脊髄  
病学会 横浜 2019 4 18-20 .
59. 彌山峰史、森 幹士、西澤和也、中村 陽、齋藤英貴、北川誠大、今井晋二 . 脊柱靱帯  
骨化の骨化過程における脈管形成と免疫応答 . 第 48 回日本脊椎脊髄病学会学術集会  
横浜 2019 4 18-20 .
60. 平井高志、吉井俊貴、名越慈人、森 幹士、竹内一裕、勝見敬一、牧 聡、牛尾修太、  
中村雅也、松本守雄、大 川淳、川口善治 . 脊椎脊髄病の疫学調査 全国多施設研究に  
よる頸椎 OPLL 患者の痛み・QOL の前向き調査 - 厚労科研脊柱靱帯骨化症研究班・JOSL  
study - 第 48 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 横浜 2019 4 18-20 .
61. 加藤裕幸、岡田英次朗、渡辺航太、檜山明彦、渡辺 慶、勝見敬一、中川幸洋、竹内一  
裕、松永俊二、圓尾圭史、坂井顕一郎、吉井俊貴、小林 祥、大場哲郎、和田簡一郎、  
大谷隼一、遠藤照顕、西村浩輔、森 幹士、都島幹人、松本守雄、大川 淳、渡辺雅彦 . び  
まん性特発性骨増殖症に伴った脊椎損傷 - 頸椎と胸腰椎における骨折の比較 - 第  
48 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 横浜 2019 4 18-20 .
62. 平井高志、吉井俊貴、名越慈人、森 幹士、竹内一裕、勝見敬一、牧 聡、牛尾修太、  
大川 淳、川口善治 . 頸椎 OPLL 多施設研究による脊柱靱帯骨化患者の前向き調査 -  
厚労科研脊柱靱帯骨化症研究班・JOSL study - 第 92 回 日本整形外科学会学術總會  
横浜 2019 5 9-12 .
63. 森 幹士、彌山峰史、北川誠大、西澤和也、中村 陽、今井晋二 . 頸椎前方手術におけ  
る上肢側固定器具開発の試み . 第 26 回 日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 大阪  
2019 9 6-7 .
64. 勝見敬一、若杉正嗣、平野徹、渡辺慶、大橋正幸、山崎昭義、和泉智博、牧野達夫、  
澤上公彦、傳田博司、高橋一雄、遠藤直人 . K-line(-)型頸椎後縦靱帯骨化症に対  
する新しいコンセプトの後方除圧固定術 . 2019 年 4 月 第 48 回日本脊椎脊髄病学会
65. 溝内龍樹 . 脊柱靱帯骨化症の手術と時期について . 2019 年 6 月 1 日 新潟県脊柱縦靱  
帯骨化症患者家族会「サザンカ」の会
66. 勝見敬一、平野徹、渡辺慶、大橋正幸、溝内龍樹、山崎昭義、渋谷洋平、牧野達夫、遠藤  
直人 . K-line(-)型頸椎後縦靱帯骨化症に対する術中矯正する後方除圧固定術の試み .  
2019 年 8 月 Summer Forum for Practical Spinal Surgery 2019
67. 勝見敬一、若杉正嗣、平野徹、渡辺慶、大橋正幸、山崎昭義、牧野達夫、渋谷洋平、  
竹末祐也、澤上公彦、傳田博司、若杉正嗣、和泉智博、遠藤直人 . 頸椎後縦靱帯骨  
化症に対する前弯位矯正する新しい後方固定術 . 2019 年 11 月 第 28 回 日本脊椎イ  
ンストラメンテーション学会

68. 勝見敬一, 牧野達夫, 平野徹, 渡邊慶, 大橋正幸, 溝内龍樹, 遠藤直人. 骨化巢の3次元画像解析と全脊柱CT研究による骨化進展と頸椎機能解析. 2019年11月 令和元年度第2回 脊柱靭帯骨化症研究班 班会議
69. 加藤仁志、他. 胸椎 OPLL に対する脊髄前方除圧術 - 後側方アプローチと前後合併アプローチの比較 - . 第 92 回日本整形外科学会学術集会 2019. 5. 9-12. 横浜
70. 加藤仁志、他. 胸椎 OPLL に対する後側方進入前方除圧術. 脊柱靭帯骨化症に関する調査研究班 平成 31 年度第 2 回合同班会議 2019. 11. 30. 東京
71. 瀧川朋亨、山根健太郎、村岡聡介、辻寛謙、尾崎敏文 嚥下障害を伴う頸椎前縦靭帯骨化症に対してナビゲーション下に骨化巣切除を行った 1 例 中国・四国整形外科学会雑誌 (0915-2695)31 巻 3 号 Page410(2019.10)
72. 船場真裕, 寒竹司, 今城靖明, 鈴木秀典, 西田周泰, 坂井孝司 頸椎後縦靭帯骨化症発症因子は障害高位によって異なるのか 日本脊椎脊髄病学会 (横浜)
73. 西田 周泰, 蔣 飛, 小西 太一, Jia Lu, 今城 靖明, 鈴木 秀典, 船場 真裕, 加藤 圭彦, 大木 順司, 陳 献, 坂井 孝司 頸椎後縦靭帯骨化症の頸髄圧迫シミュレーション 日本整形外科基礎学術学会
74. 西田 周泰, 蔣 飛, 北住 怜, 今城 靖明, 鈴木 秀典, 船場 真裕, 加藤 圭彦, 大木 順司, 陳 献, 坂井 孝司 びまん性特発性骨増殖症における脊椎固定術の生体力学的評価 日本整形外科基礎学術学会
75. 古矢丈雄, 國府田正雄, 牧聡, 北村充広, 宮本卓弥, 志賀康浩, 稲毛一秀, 折田純久, 山崎正志, 大鳥精司: 頸椎後縦靭帯骨化症における症状悪化に関連する画像所見の検討. 第 48 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2019 年 4 月 18-20 日 パシフィコ横浜 J Spine Res 10(3):241, 2019
76. 古矢丈雄, 國府田正雄, 牧聡, 北村充広, 宮本卓弥, 志賀康浩, 稲毛一秀, 折田純久, 山崎正志, 大鳥精司: 頸椎後縦靭帯骨化症の症状悪化に関連する画像所見. 第 92 回日本整形外科学会学術総会 2019 年 5 月 9-12 日 パシフィコ横浜 日整会誌 92(3):S701, 2019
77. 牧聡, 北村充広, 國府田正雄, 志賀康浩, 稲毛一秀, 折田純久, 古矢丈雄, 山崎正志, 大鳥精司: Diffusion tensor imaging による頸部脊髄症の神経障害定量評価. 第 26 回日本脊椎脊髄神経手術手技学会 2019 年 9 月 6-7 日 大阪国際会議場(抄録集 p.178)
78. 牧聡, 北村充広, 國府田正雄, 古矢丈雄, 志賀康浩, 稲毛一秀, 折田純久, 山崎正志, 大鳥精司: Diffusion Tensor Imaging による頸部脊髄症の神経障害定量評価. 第 38 回日本運動器移植・再生医学研究会 2019 年 9 月 28 日 京王プラザホテル(抄録集 p.53)
79. 北村充広, 牧聡, 古矢丈雄, 宮本卓弥, 志賀康浩, 稲毛一秀, 折田純久, 國府田正雄, 山崎正志, 大鳥精司: 頸髄 diffusion tensor imaging における機種間の再現性評価多施設共同研究に向けて. 第 34 回日本整形外科学会基礎学術集会 2019 年 10 月 17-18 日 パシフィコ横浜 日整会誌 93(8);S1655, 2019

80. 新行内龍太郎, 沖松翔, 古矢丈雄, 牧聡, 宮本卓弥: 胸椎 OLF の除圧術後 1 年で生じた左下肢完全麻痺に対して、除圧固定術が有効だった 1 例. 第 54 回日本脊髄障害医学会 2019 年 10 月 31-11 月 1 日 秋田キャッスルホテル (抄録集 p.249)
81. 牧聡: 後縦靭帯骨化症への人工知能の応用. 厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業【脊柱靭帯骨化症に関する調査研究】令和元年度第 2 回合同班会議 2019 年 11 月 30 日 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
82. 武中 章太, 海渡 貴司, 寒 重之, 牧野 孝洋, 坂井 勇介, 串岡 純一, 田中 壽, 渡邊 嘉之, 柴田 政彦, 吉川 秀樹. 安静時 functional MRI を用いた頸髄症患者の脳局所活動評価における可塑性、予後予測. 第 48 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2019/4/18-20. 横浜.
83. 武中 章太, 海渡 貴司, 寒 重之, 牧野 孝洋, 坂井 勇介, 串岡 純一, 田中 壽, 渡邊 嘉之, 柴田 政彦, 吉川 秀樹. 頸髄症患者の脳局所活動評価における可塑性、予後予測 安静時 functional MRI を用いて. 第 92 回日本整形外科学会学術総会 2019/5/9-12. 横浜.
84. 船尾陽生, 山根淳一, 磯貝宜広, 石原慎一, 辻収彦, 岡田英次郎, 藤田順之, 八木満, 渡辺航太, 細金直文, 二宮研, 中村雅也, 松本守雄, 石井賢, 名越慈人, KSRGメンバー: 頸椎後縦靭帯骨化症に対する後方除圧術のASA分類による治療成績比較-. 第 48 回日本脊椎脊髄病学会 (2019年4月18-20日 横浜)
85. 船尾陽生, 井川達也, 松澤克, 草野修輔, 磯貝宜広, 笹生豊, 西山誠, 石井賢. 頸椎性脊髄症ならびに後縦靭帯骨化症患者における先行随伴性姿勢調節機能の解析 健常者との比較 . 第 9 回国際医療福祉大学学術大会 (2019 年 9 月 15-16 日 東京)
86. 船尾陽生, 井川達也, 松澤克, 草野修輔, 磯貝宜広, 笹生豊, 西山誠, 石井賢. 頸髄症患者における先行随伴性姿勢調節機能の解析. 第 34 回日本整形外科学会基礎学術集会 (2019 年 10 月 17-18 日 横浜)
87. 松本富哉, 山下智也, 奥田真也, 他 . 頸椎前方固定術後の低酸素脳症の経験 - 初期症状とその後の予防対策 - . 第 47 回日本脊椎脊髄病学会 (平成 30 年 4 月 13 日神戸)
88. 中嶋秀明, 渡邊修司, 本定和也, 松峯昭彦. ヒト脊柱靭帯骨化組織および遺伝性骨軟骨異常マウス (ttw/ttw) を用いた疾患関連候補遺伝子発現解析. 脊柱靭帯骨化症に関する調査研究 第 2 回合同班会議 (2018.11) 東京
89. 中嶋秀明, 竹浦直人, 渡邊修司, 本定和也, 高橋藍, 松峯昭彦. 圧迫性頸髄症における疼痛発現に hematogenous macrophage が関与している ttw/ttw マウスを用いた検討 . 第 33 回日本整形外科学会基礎学術集会 (2018.10) 奈良
90. 渡邊修司, 中嶋秀明, 本定和也, 山本悠介, 松峯昭彦. ヒト脊柱靭帯骨化標本および ttw マウス頸椎を用いた疾患感受性候補遺伝子発現. 第 33 回日本整形外科学会基礎学術集会 (2018.10) 奈良
91. 中嶋秀明, 杉田大輔, 渡邊修司, 本定和也, 山本悠介, 松峯昭彦. 頸椎後縦靭帯骨化の

- 発生・伸展にかかわる因子の検討．脊柱靭帯骨化症に関する調査研究 第 1 回合同班会議（2018.6）東京
92. 中嶋秀明, 北出誠, 渡邊修司, 本定和也, 山本悠介, 松峯昭彦. PK11195 PET imaging を用いた脊髄内活性化ミクログリア可視化の試み. 第 47 回日本脊椎脊髄病学会学術集会（2018.4）神戸
93. 川口善治, 中野正人, 安田剛敏, 関 庄二, 鈴木賀代, 箭原康人, 牧野紘士, 北島 勲, 木村友厚. 脊椎靭帯骨化症のバイオマーカー、文献レビューの検討. 第 33 回日本整形外科学会基礎学術集会；2018 Oct 10-11；奈良.
94. 三浦紘世, 久保田茂希, 松井彩乃, 安部哲哉, 門根秀樹, 清水如代, 野口裕史, 船山徹, 國府田正雄, 山崎正志. ロボットスーツ HAL を用いた歩行訓練による首下がり症候群の改善. 第 9 回日本成人脊柱変形学会（東京）, 3 月, 2019. シンポジウム
95. 三浦紘世, 門根秀樹, 熊谷洋, 長島克弥, 俣木健太郎, 野口裕史, 船山徹, 安部哲哉, 國府田正雄, 山崎正志. 三次元動作解析による首下がり症候群における脊柱アライメントの連続歩行時の動的変化. 第 9 回日本成人脊柱変形学会（東京）, 3 月, 2019.
96. 三浦紘世, 門根秀樹, 船山徹, 安部哲哉, 國府田正雄, 山崎正志. 成人脊柱変形に対する三次元歩行動作解析を用いたアライメントの動的評価. 第 53 回日本脊髄障害医学会（愛知）, 11 月, 2018.
97. 三浦紘世, 門根秀樹, 熊谷洋, 長島克弥, 俣木健太郎, 野口裕史, 船山徹, 安部哲哉, 國府田正雄, 山崎正志. 腰部支援用 HAL を用いた重量物挙上反復動作における腰部負荷軽減効果. 第 33 回日本整形外科学会基礎学術集会（奈良）, 10 月, 2018.
98. 三浦紘世, 門根秀樹, 熊谷洋, 長島克弥, 俣木健太郎, 野口裕史, 船山徹, 安部哲哉, 國府田正雄, 山崎正志. 成人脊柱変形に対する歩行動作解析を用いた上肢運動評価. 第 33 回日本整形外科学会基礎学術集会（奈良）, 10 月, 2018.
99. 三浦紘世, 門根秀樹, 熊谷洋, 長島克弥, 俣木健太郎, 野口裕史, 船山徹, 安部哲哉, 國府田正雄, 山崎正志. 成人脊柱変形に対する三次元歩行動作解析を用いた全脊柱アライメントの動的評価. 第 33 回日本整形外科学会基礎学術集会（奈良）, 10 月, 2018.
100. 三浦紘世, 柴尾洋介, 熊谷洋, 長島克弥, 俣木健太郎, 藤井賢吾, 野口裕史, 船山徹, 安部哲哉, 國府田正雄, 山崎正志. 当科における初診時原発不明脊椎腫瘍の治療戦略とその臨床成績. 第 27 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会（東京）, 9 月, 2018.
101. 三浦紘世, 門根秀樹, 柴尾洋介, 熊谷洋, 長島克弥, 俣木健太郎, 藤井賢吾, 野口裕史, 船山徹, 安部哲哉, 國府田正雄, 山崎正志. 成人脊柱変形に対する歩行動作解析を用いた上肢運動評価. 第 27 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会（東京）, 9 月, 2018.
102. 三浦紘世, 門根秀樹, 柴尾洋介, 熊谷洋, 長島克弥, 俣木健太郎, 藤井賢吾, 野口裕史, 船山徹, 安部哲哉, 國府田正雄, 山崎正志. 成人脊柱変形に対する三次元歩行動



- 作解析を用いた全脊柱アライメントの動的評価.第 27 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会 (東京), 9月, 2018.
- 103.三浦紘世, 門根秀樹, 柴尾洋介, 熊谷洋, 長島克弥, 俣木健太郎, 藤井賢吾, 野口裕史, 船山徹, 安部哲哉, 國府田正雄, 山崎正志.首下がりに対する三次元歩行動作解析を用いたアライメントの動的評価.第 27 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会 (東京), 9月, 2018.
- 104.三浦紘世, 門根秀樹, 熊谷洋, 長島克弥, 俣木健太郎, 野口裕史, 船山徹, 安部哲哉, 國府田正雄, 鈴木健嗣, 山崎正志.成人脊柱変形に対する三次元歩行動作解析を用いた全脊柱アライメントの動的評価.第 91 回日本整形外科学会 (神戸), 5月, 2018.
- 105.三浦紘世, 門根秀樹, 熊谷洋, 長島克弥, 俣木健太郎, 野口裕史, 船山徹, 安部哲哉, 國府田正雄, 鈴木健嗣, 山崎正志.成人脊柱変形に対する歩行動作解析を用いた上肢運動評価.第 91 回日本整形外科学会 (神戸), 5月, 2018.
- 106.三浦紘世, 門根秀樹, 熊谷洋, 長島克弥, 俣木健太郎, 藤井賢吾, 野口裕史, 船山徹, 安部哲哉, 國府田正雄, 鈴木健嗣, 山崎正志.成人脊柱変形に対する三次元歩行動作解析を用いた全脊柱アライメントの動的評価.第 47 回日本脊椎脊髄病学会 (神戸), 4月, 2018.
- 107.三浦紘世, 門根秀樹, 熊谷洋, 長島克弥, 俣木健太郎, 藤井賢吾, 野口裕史, 船山徹, 安部哲哉, 國府田正雄, 鈴木健嗣, 山崎正志.首下がりに対する三次元歩行動作解析を用いた矢状面アライメントの動的評価.第 8 回日本成人脊柱変形学会 (東京), 3月, 2018.
- 108.小林祥、岡田英次郎、名越慈人、渡辺慶、檜山明彦、中川幸洋、竹内一裕、松永俊二、圓尾圭史、坂井顕一郎、吉井俊貴、大場哲郎、和田簡一郎、大谷隼一、遠藤照顕、西村浩輔)、森幹士、都島幹人、松山幸弘、大川淳、松本守雄 びまん性特発性骨増殖症に伴った脊椎損傷における周術期合併症 -厚労科研脊柱韧带骨化症研究班・多施設研究 - 日本整形外科学会 2018 年
- 109.木村 敦、白石 康幸、井上 泰一、遠藤 照顕、竹下 克志、頸椎後縦韧带骨化症に対する椎弓形成術後の体の痛みと K-line が与える影響の検討 日本脊椎脊髄病学会、神戸、2018/4/12 .
- 110.今釜 史郎「胸椎後縦韧带骨化症の手術成績良好因子～自験例の検討」、第 47 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 (神戸) 2018
- 111.今釜 史郎「胸椎後縦韧带骨化症手術の多施設前向き研究～術後運動麻痺リスク因子の解析」、第 91 回日本整形外科学会学術総会 (神戸) 2018
- 112.今釜史郎「嘴状型胸椎後縦韧带骨化症の 2 期的後方手術」、第 27 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会 (東京) 2018
- 113.山田圭、松山幸弘、吉田剛、今釜史郎、和田簡一郎、寒竹司、田所伸朗、山本直也、川端茂徳、安藤宗治、谷俊一 脊柱変形手術の手術操作による神経障害のリスクと術中対

応策の有効性の検討 JSSR 脊髄モニタリングWG 多施設前向き研究 第91回日本整形外科学会学術集会 神戸国際会議場 神戸市 2018年5月24日~27日

114. 山幸弘、吉田剛、今釜史郎、和田簡一郎、寒竹司、田所伸朗、山本直也、川端茂徳、安藤宗治、小林祥、小林和克、藤原靖、高橋雅人、喜安克仁、谷俊一：脊柱変形手術の術中脊髄モニタリングで true positive と false positive 症例を発生する手術操作の検討 JSSR 脊髄モニタリングWG 多施設前向き研究 第47回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2018年4月12日~14日神戸国際会議場 神戸市
115. 後迫宏紀、吉田剛、長谷川智彦、大和雄、坂野友啓、有馬秀幸、大江慎、三原唯暉、戸川大輔、松山幸弘：プロポフォル使用量は術中脊髄モニタリングの false positive 発生に影響する-anesthetic fade の検討. 第47回日本脊椎脊髄病学会学術集会(2018.4.12-14, 神戸市)
116. 後迫宏紀、吉田剛、長谷川智彦、大和雄、坂野友啓、有馬秀幸、大江慎、三原唯暉、戸川大輔、松山幸弘：プロポフォル使用量は術中脊髄モニタリングの false positive 発生に影響する -anesthetic fade の検討-. 第33回日本整形外科基礎学会(2018.10.11-12, 奈良市)
117. 小林和克 今釜史郎 安藤 圭 藤原 靖 松山幸弘 吉田 剛 小林 祥 安藤宗治 川端茂徳 山田 圭 寒竹 司 高橋雅人 田所伸朗 和田簡一郎 喜安克仁 山本直也 谷俊一 胸椎後縦靱帯骨化症(OPLL)手術における術中脊髄モニタリング波形悪化因子の検討 -全国多施設前向き研究- 日本脊椎脊髄病学会 モニタリングWG 第47回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2018年4月12日~14日神戸国際会議場 神戸市
118. 川端茂徳, 佐々木亨, 牛尾修太, 大川 淳. 「術中脳脊髄神経モニタリングにおける基準の共有」整形外科医の立場から. 第24回日本脳神経モニタリング学会. 2018年7月7日. 東京・島津製作所東京支社イベントホール
119. 吉田剛 長谷川智彦 大和雄 坂野友啓 有馬秀幸 大江慎 三原唯暉 後迫宏紀 戸川大輔 松山幸弘 術中脊髄モニタリング true positive と rescue 症例の検討 第39回脊髄機能診断研究会(2018.02.10, 千代田区)
120. 吉田剛 小林祥 松山幸弘 安藤宗治 山田圭 川端茂徳 今釜史郎 小林和克 寒竹司 高橋雅人 藤原靖 田所伸朗 和田簡一郎 山本直也 谷俊一 高リスク脊椎手術におけるレスキュー症例の検討 日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリングワーキンググループ多施設研究 第47回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2018年4月12日~14日神戸国際会議場 神戸市
121. 吉田剛 経頭蓋筋記録誘発電位のアラームポイントとその対応 日本臨床神経生理学会 2018年11月9日 東京
122. 森 幹士 吉井俊貴 平井高志 名越慈人 西村空也 竹内一裕 大川淳 川口善治. 厚労科研究脊柱靱帯骨化症研究班 全脊椎 CT 大規模多施設研究による重度頸椎 OPLL 症例の特徴 -厚労科研究脊柱靱帯骨化症研究班・JOSL study - 第33回日本整形外科学

会基礎学術集会 奈良市 2018 10 11-12.

123. 勝見敬一, 平野徹, 渡辺慶, 大橋正幸, 山崎昭義, 和泉智博, 澤上公彦, 傳田博司, 牧野達夫, 高橋一雄, 遠藤直人. K-line(-)型頸椎後縦靱帯骨化症に対する後方除圧固定術. 2018年4月 第47回日本脊椎脊髄病学会
124. 勝見敬一, 平野徹, 渡辺慶, 大橋正幸, 山崎昭義, 和泉智博, 伊藤拓緯, 牧野達夫, 遠藤直人. 頸椎後縦靱帯骨化症の骨化巣進展は 脊椎固定術により抑制される ~3次元画像解析による椎弓形成術と除圧固定術の比較~. 2018年5月 第91回日本整形外科学会
125. 平野徹. 脊柱靱帯骨化症の診断と治療の進歩. 2018年6月23日 新潟県脊柱縦靱帯骨化症患者家族会「サザンカ」の会
126. 勝見敬一, 若杉正嗣, 白幡正幸, 目良恒, 植木将人, 坂爪佑輔, 生越章. 首下がりに対する手術治療を行った一例 -頸椎OPLLに対する後方矯正固定術の応用-. 2018年8月 Summer Forum for Practical Spinal Surgery 2018
127. 勝見敬一, 牧野達夫, 平野徹, 渡邊慶, 大橋正幸, 遠藤直人, 山崎昭義, 和泉智博, 伊藤拓緯, 傳田博司. K-line(-)型 頸椎後縦靱帯骨化症に対する前弯位矯正後方固定術の成績. 2018年9月 第27回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会
128. 勝見敬一, 牧野達夫, 平野徹, 渡邊慶, 大橋正幸, 溝内龍樹, 遠藤直人. 脊柱縦靱帯骨化症の骨化進展と骨代謝動態の解析. 2018年11月 H30年度第2回 脊柱靱帯骨化症研究班 班会議
129. 加藤仁志, 他. 胸椎 OPLL に対する脊髄前方除圧術 - 後側方アプローチ VS 前後合併アプローチ -. 第47回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2018. 4. 12-14. 神戸
130. 加藤仁志, 他. 胸椎 OPLL に対する脊髄前方除圧術 - 後側方アプローチ VS 前後合併アプローチ -. 第21回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会 2018. 11. 29-30. 東京
131. 清水貴樹, 他. びまん性特発性骨増殖症を合併した腰部脊柱管狭窄症患者における口コモおよび運動機能評価. 脊柱靱帯骨化症に関する調査研究班 平成30年度第2回合同班会議 2018. 11. 24. 東京
132. 村岡 聡介, 瀧川 朋亨, 宇川 諒, 塩崎 泰之, 三澤 治夫, 尾崎 敏文. 項靱帯骨化について. 中部日本整形外科災害外科学会雑誌 61 巻. p68. 2018.
133. 船場真裕, 寒竹司, 今城靖明, 鈴木秀典, 西田周泰, 田口敏彦. 脊髄誘発電位および骨化形態からみた頸椎後縦靱帯骨化症の発症因子の再検討 日本整形外科学会
134. 船場真裕, 寒竹司, 今城靖明, 鈴木秀典, 西田周泰, 田口敏彦. 骨化形態と脊髄誘発電位からみた頸椎後縦靱帯骨化症の発症因子の再検討 日本整形外科基礎学術集会
135. 三島健一, 鬼頭浩史, 松下雅樹, 門野泉, 長田侃, 西田佳弘, 石黒直樹. エイロプレートによる大転子骨端線抑制術の短期術後成績. 第33回東海小児整形外科懇話会 2018. 2. 10 (名古屋)
136. 長田侃, 鬼頭浩史, 三島健一, 松下雅樹, 石黒直樹. 先天性下腿偽関節症に対し早期

- 髓内釘固定を施行した 1 例. 第 33 回東海小児整形外科懇話会 2018.2.10(名古屋)
137. 大倉俊昭、松下雅樹、三島健一、関泰輔、石黒直樹、鬼頭浩史. FGFR3 は変形性関節症マウスモデルにおける軟骨下骨の骨硬化を抑制する. 第 31 回日本軟骨代謝学会 2018.3.2-3(名古屋)
138. 鬼頭浩史、三島健一、松下雅樹、石黒直樹. 骨系統疾患の治療-現状と展望- 第 91 回日本整形外科学会 2018.5.24-27(神戸)
139. 松下雅樹、鬼頭浩史、三島健一、長田侃、金子浩史、岩田浩志、服部義、石黒直樹. MAC 創外固定器による下腿変形矯正 2018.5.24-27(神戸)
140. 金子浩史、服部義、鬼頭浩史、三島健一、松下雅樹、吉橋裕治、則竹耕治、石黒直樹. ペルテス病に対する装具療法とソルター骨盤骨切り術の比較. 第 91 回日本整形外科学会 2018.5.24-27(神戸)
141. 松下雅樹、鬼頭浩史、三島健一、長田侃、石黒直樹、藤原清香、芳賀信彦、北岡太一、窪田拓生、大園恵一. 軟骨無形成症患者における思春期以降の QOL の検討. 第 36 回日本骨代謝学会 2018.7.26-28(長崎)
142. 松下雅樹、鬼頭浩史、三島健一、長田侃、金子浩史、岩田浩志、服部義、石黒直樹. 小児先天性疾患に合併した下腿変形に対する MAC 創外固定器による矯正. 第 31 回日本創外固定骨延長学会 2018.8.3-4(弘前)
143. 藤原幾磨、窪田拓生、道上敏美、望月弘、難波範行、鬼頭浩史、澤井英明、仲野和彦、藤井庄人、長谷川航、渡邊淳、川端秀彦、大園恵一. 低ホスファターゼ症に対する酵素補充療法の全例調査(特定使用成績調査)-中間解析データ-. 第 52 回日本小児内分泌学会 2018.10.4-6(東京)
144. 窪田拓生、藤原幾磨、道上敏美、望月弘、難波範行、鬼頭浩史、澤井英明、仲野和彦、内山正彦、長谷川航、別所友子、渡邊淳、川端秀彦、大園恵一. 日本人低ホスファターゼ症患者 36 例のベースラインの検討-ALP 酵素補充療法特定使用成績調査より-. 第 52 回日本小児内分泌学会 2018.10.4-6(東京)
145. 鬼頭浩史、三島健一、松下雅樹、石黒直樹. 病態メカニズムに基づいた小児難治性骨疾患に対する治療薬開発研究. 第 33 回日本整形外科学会基礎学術集会 2018.10.11-12(奈良)講演
146. 長田侃、鬼頭浩史、三島健一、松下雅樹、神谷庸成、加藤有一、石黒直樹. 重症軟骨無形成症の 1 例. 第 66 回成長ホルモン研究会 2018.10.13(名古屋)
147. 神谷庸成、鬼頭浩史、三島健一、松下雅樹、長田侃、石黒直樹. 距舟関節と踵立方関節の二関節固定で治療した成長終了後の遺残内反尖足変形. 第 22 回東海足と靴の研究会. 2018.10.20(名古屋)
148. 金子浩史、鬼頭浩史、服部義. 高年齢発症ペルテス病に対するソルター骨盤骨切り術. 第 45 回日本股関節学会 2018.10.26-27(名古屋)
149. 鬼頭浩史. 低ホスファターゼ症-見逃すことのない治療可能な疾患-. 第 29 回日本

小児整形外科学会 2018.12.14-15 (名古屋)

- 150.金子浩史、服部義、鬼頭浩史、三島健一、松下雅樹、則竹耕治、吉橋裕治. 6.0~8.0歳発症のペルテス病に対するソルター骨盤骨切り術と免荷屈曲外転装具治療の成績の比較. 第29回日本小児整形外科学会 2018.12.14-15 (名古屋)
- 151.神谷庸成、鬼頭浩史、三島健一、松下雅樹、長田侃、石黒直樹. 成人期に遺残した内反尖足変形に対して距舟関節と踵立方関節の固定を行った3例. 第29回日本小児整形外科学会 2018.12.14-15 (名古屋)
- 152.三島健一、鬼頭浩史、松下雅樹、門野泉、長田侃、神谷庸成、石黒直樹. ペルテス病に対するソルター骨盤骨切り術の治療成績—骨頭前方の骨吸収の範囲による予後予測— 第29回日本小児整形外科学会 2018.12.14-15 (名古屋)
- 153.松下雅樹、鬼頭浩史、三島健一、長田侃、神谷庸成、芳賀信彦、藤原清香、大園恵一、石黒直樹. 思春期以降のQOLからみた軟骨無形成症患者の低身長に対する治療目標 第29回日本小児整形外科学会 2018.12.14-15 (名古屋)
- 154.三島健一、鬼頭浩史、松下雅樹、門野泉、長田侃、神谷庸成、石黒直樹. エイトプレートによる大転子骨端線抑制術の治療成績 第29回日本小児整形外科学会 2018.12.14-15 (名古屋)
- 155.長田侃、鬼頭浩史、三島健一、松下雅樹、神谷庸成、石黒直樹. 先天性下腿偽関節症に対し早期に逆行性髄内固定を施行した1例 第29回日本小児整形外科学会 2018.12.14-15 (名古屋)
- 156.松下雅樹、鬼頭浩史、三島健一、長田侃、神谷庸成、芳賀信彦、藤原清香、大園恵一、石黒直樹. 骨形成不全症における思春期以降のQOLの検討 第29回日本小児整形外科学会 2018.12.14-15 (名古屋)
- 157.鬼頭浩史. 軟骨無形成症における成人期を見据えた小児期の治療戦略. 第30回日本整形外科学会骨系統疾患研究会 2018.12.15 (名古屋)
- 158.松下雅樹、鬼頭浩史、大澤郁介、三島健一、石黒直樹. 軟骨無形成症の骨延長における骨形成は促進される—マウスモデルでの検討— 第30回日本整形外科学会骨系統疾患研究会 2018.12.15 (名古屋)
- 159.長田侃、鬼頭浩史、三島健一、松下雅樹、神谷庸成、石黒直樹. 進行性骨化性線維異形成症患者1年の自然経過観察研究 第30回日本整形外科学会骨系統疾患研究会 2018.12.15 (名古屋)
- 160.大場哲郎、江幡重人、岩間達、勝麻里那、波呂浩孝. 頸椎前方固定術前後の嚙下障害評価とリスクファクターの検討—嚙下内視鏡とスクリーニング質問シートを用いて— 第47回日本脊椎脊髄病学会学術集会
- 161.齊藤淳哉、古矢丈雄、國府田正雄、飯島靖、北村充広、宮本卓弥、蓮江文男、藤由崇之、神谷光史郎、鴨田博人、折田純久、稲毛一秀、山崎正志、大鳥精司. K-line(+)型頸椎OPLLに対する後方固定術の短期成績. 第47回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2018年4

月 12-14 日 神戸ポートピアホテル J Spine Res 9(3):350, 2018

162. 藤由崇之, 蓮江文男, 神谷光史郎, 古矢丈雄, 齊藤淳哉, 大鳥精司, 國府田正雄, 山崎正志, 小西宏昭 頸椎後縦靱帯骨化症に対する後方法の新たな術式選択 ~ Dynamic K-line ~. 第 47 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2018 年 4 月 12-14 日 神戸ポートピアホテル J Spine Res 9(3):505, 2018
163. 稲毛一秀, 折田純久, 井上雅寛, 乗本将輝, 海村朋孝, 古矢丈雄, 牧聡, 志賀康浩, 阿部幸喜, 大鳥精司 全関連施設における脊椎手術全例登録制度確立の試み. 第 91 回日本整形外科学会学術総会 2018 年 5 月 24-26 日 神戸コンベンションセンター日整会誌 92(2):S8, 2018
164. 牧聡, 國府田正雄, 北村充広, 飯島靖, 齊藤淳哉, 宮本卓弥, 古矢丈雄, 稲毛一秀, 折田純久, 山崎正志, 大鳥精司 頸部脊髄症に対する拡散テンソル画像 神経症状の定量評価と手術の予後予測. 第 91 回日本整形外科学会学術総会 2018 年 5 月 24-26 日 神戸コンベンションセンター日整会誌 92(2):S333, 2018
165. 古矢丈雄, 牧聡, 藤由崇之, 北村充広, 宮本卓弥, 志賀康浩, 稲毛一秀, 折田純久, 國府田正雄, 山崎正志, 大鳥精司 K-line(-)型頸椎 OPLL に対する後方除圧固定術における固定範囲について. 第 27 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2018 年 9 月 28-29 日 ベルサール東京日本橋 (抄録集 p.135)
166. 古矢丈雄, 牧聡, 國府田正雄, 山崎正志, 大鳥精司 頸椎後縦靱帯骨化症の症状悪化に関連する画像所見. 第 53 回日本脊髄障害医学会 2018 年 11 月 22-23 日 名古屋 (抄録集 p.168)
167. 北村充広, 牧聡, 宮本卓弥, 古矢丈雄 マルチアトラスセグメンテーションを用いた 頸髄 Diffusion tensor imaging の互換性評価. 第 53 回日本脊髄障害医学会 2018 年 11 月 22-23 日 名古屋 (抄録集 p.171)
168. 宮本卓弥, 動的因子を再現したラット圧迫性脊髄症モデルの開発. 第 1394 回千葉医学会整形外科例会 2018 年 11 月 24-25 日 千葉大学医学部附属病院 3F 大講堂
169. 北村充広, 頸髄 Diffusion Tensor Imaging における機種間互換性評価 ~ 多施設研究に向けて ~. 第 1394 回千葉医学会整形外科例会 2018 年 11 月 24-25 日 千葉大学医学部附属病院 3F 大講堂
170. 古矢丈雄, 牧聡, 北村充広, 志賀康浩, 稲毛一秀, 折田純久, 大鳥精司, 國府田正雄, 山崎正志 保存加療を行った頸椎 OPLL の画像所見. 平成 30 年度 第 2 回研究会議 2018 年 11 月 24 日 東京医科歯科大学
171. 海渡 貴司, 寒 重之, 武中 章太, 牧野 孝洋, 坂井 勇介, 串岡 純一, 田中 壽, 渡邊 嘉之, 柴田 政彦, 吉川 秀樹: 安静時 fMRI を用いた脳機能的結合解析による頸髄症の新規予後予測法の開発. 第 47 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2018/4/12-14. 神戸.
172. 串岡 純一, 海渡 貴司, 寒 重之, 武中 章太, 牧野 孝洋, 坂井 勇介, 田中 壽, 渡

- 邊 嘉之, 柴田 政彦, 吉川 秀樹: 頸髄症における脳機能的結合の変化 安静時 functional MRI を用いた検討. 第 91 回日本整形外科学会学術総会. 2018/5/24-27. 神戸.
173. 武中 章太, 海渡 貴司, 寒 重之, 牧野 孝洋, 坂井 勇介, 串岡 純一, 田中 壽, 渡邊 嘉之, 柴田 政彦, 吉川 秀樹: 頸髄症術後の脳機能結合における代償性変化 術前後の安静時 functional MRI を用いて 第 91 回日本整形外科学会学術総会 2018/5/24-27. 神戸.
174. 海渡 貴司, 寒 重之, 武中 章太, 牧野 孝洋, 坂井 勇介, 串岡 純一, 田中 壽, 渡邊 嘉之, 柴田 政彦, 吉川 秀樹: 脊椎疾患のニューロイメージングの近未来 安静時 fMRI を用いた脳機能的結合解析に基づく頸髄症の予後予測. 第 91 回日本整形外科学会学術総会 シンポジウム. 2018/5/24-27. 神戸
175. 船尾陽生, 山根淳一, 藤田順之, 八木満, 渡辺航太, 中村 雅也, 松本 守雄, 石井 賢, 名越慈人, KSRGメンバー: 後縦靭帯骨化症に対する頸椎後方除圧術の治療成績 - ASA分類による比較検討-. 第58回関東整形災害外科学会 (2018年3月16-17日 東京)
176. 松本富哉、奥田真也、前野考史、他 . 12° wedge cage 使用の単椎間 PLIF の局所アライメントと脊柱骨盤パラメーターへの影響 - Box 型 cage との比較 - . 第 46 回日本脊椎脊髄病学会 (平成 29 年 4 月 13 日札幌)
177. 柏井将文、牧野孝洋、海渡貴司、他 . 成人脊柱変形の病態における骨粗鬆症とサルコペニアの関与 . 第 46 回日本脊椎脊髄病学会 (平成 29 年 4 月 14 日札幌)
178. 前野考史、岩崎幹季、杉浦 剛、他 . 頸椎 OPLL に対する術後復職調査 - 術前下肢機能は復職に影響を与える - . 第 46 回日本脊椎脊髄病学会 (平成 29 年 4 月 14 日札幌)
179. 山下智也、奥田真也、松本富哉、他 . L4/5PLIF 後 上位隣接椎間障害に対する L3/4PLIF の治療成績 . 第 46 回日本脊椎脊髄病学会 (平成 29 年 4 月 14 日札幌)
180. 岩崎幹季、奥田真也、海渡貴司、他 . 従来型椎弓根スクリューを使用した PLIF の骨癒合成績 - CBT 法は従来法に比して PLIF の骨癒合率を高められるか? - . 第 46 回日本脊椎脊髄病学会 (平成 29 年 4 月 15 日札幌)
181. 奥田真也、山下智也、前野考史、他 . PLIF 術後の隣接椎間障害 - 10 年以上の追跡調査 - . 第 46 回日本脊椎脊髄病学会 (平成 29 年 4 月 15 日札幌)
182. 川口善治、川上 守、佐藤栄修、他 . 腰椎変性すべり症の危険因子 - 椎間関節角度の解析 - AOSpine 国際多施設共同研究 . (平成 29 年 5 月 20 日仙台)
183. 松本富哉、奥田真也、前野考史、他 . 12° wedge cage 使用の単椎間 PLIF の局所アライメントと脊柱骨盤パラメーターへの影響 - box 型 cage との比較 - . (平成 29 年 5 月 20 日仙台)
184. 藤林俊介、川上紀明、朝妻孝仁、他 . 腰椎側方椎体固定術合併症に関する全国調査 . (平成 29 年 5 月 21 日仙台)
185. 松本富哉、奥田真也、長本行隆、他 . 脊柱骨盤アライメント不良は PLIF 後隣接椎間障

- 害の危険因子である．第 51 回日本側彎症学会（平成 29 年 8 月 24 - 25 日札幌）
186. 岩崎幹季、長本行隆、松本富哉、他．成人脊柱変形に対する矯正固定術の治療成績と骨盤矯正の意義．第 129 回中部整形外科災害外科学会（平成 29 年 10 月 6 日富山）
187. 松本富哉、奥田真也、長本行隆、他．開窓を併用した PLIF 隣接椎間の画像変化の特徴 -PLIF 単独群と比較して- 第 26 回日本インストゥルメンテーション学会（平成 29 年 10 月 13-14 日金沢）
188. 杉浦剛、奥田真也、高橋佳史、他．腰椎変性すべり症に対する手術成績 -開窓術と PLIF の比較検討- 第 26 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会(平成 29 年 10 月 13-14 日金沢)
189. 長本行隆、奥田真也、高橋佳史、他．単椎間 PLIF 後に隣接椎間障害を 3 度繰り返した 4 例 第 26 回日本インストゥルメンテーション学会（平成 29 年 10 月 13-14 日金沢）
190. 奥田真也、松本富哉、杉浦剛、他．長期追跡による PLIF 術後の隣接椎間障害 第 26 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会（平成 29 年 10 月 13-14 日金沢）
191. 本定 和也，中嶋 秀明，高橋 藍，山本 悠介，出淵 雄哉，松峯 昭彦．CCL21 欠損マウス脊髄損傷モデルにおける運動・疼痛関連評価と損傷部・腰膨大部の炎症性サイトカインによる microglia/macrophage phenotype の変化．第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会（2017.10）沖縄
192. 山本 悠介，小久保 安朗，山岸 淳嗣，出淵 雄哉，中嶋 秀明，松峯 昭彦．ラット椎間板変性の継時的、および組織学的・免疫組織化学的評価．第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会（2017.10）沖縄
193. 中嶋 秀明，小久保 安朗，平井 貴之，杉田 大輔，北出 誠，松峯 昭彦．ヒト後縦靭帯骨化組織および ttw マウスを用いた疾患関連候補遺伝子の発現解析．第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会（2017.10）沖縄
194. 山岸 淳嗣，小久保 安朗，中嶋 秀明，杉田 大輔，山本 悠介，松峯 昭彦．ヒト頸椎椎間板ヘルニア・頸椎症椎間板におけるマクロファージ浸潤の免疫組織化学的観察．第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会（2017.10）
195. 北出 誠，中嶋 秀明，渡邊 修司，本定 和也，平井 貴之，小久保 安朗，松峯 昭彦．ラット脊髄損傷における microglia の[11C]-PK11195 による PET イメージング．第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会（2017.10）沖縄
196. 高橋 藍，中嶋 秀明，本定 和也，北出 誠，山本 悠介，小久保 安朗．脂肪由来幹細胞と骨髄由来幹細胞の遺伝子発現解析および脊髄損傷に対する治療効果．第 46 回日本脊椎脊髄病学会（2017.4）札幌
197. 中嶋 秀明，本定 和也，渡邊 修司，高橋 藍，平井 貴之，小久保 安朗脊髄損傷に対する骨髄間質細胞移植の有効性とメカニズム．第 46 回日本脊椎脊髄病学会（2017.4）札幌
198. 川口善治．脊椎靭帯骨化症 - 病態と治療の最新知見 - ．第 46 回日本脊椎脊髄病学会学



- 術集会；2017 Apr 13-15；札幌．
199. 川口善治．後縦靭帯骨化症における高感度 CRP の意義．第 46 回日本脊椎脊髄病学会学術集会；2017 Apr 13-15；札幌．
200. 川口善治，中野正人，安田剛敏，関 庄二，鈴木賀代，箭原康人，牧野紘士，木村友厚．脊椎靭帯骨化症患者における全脊椎骨化薬と血清バイオマーカー．第 90 回日本整形外科学会学術総会；2017 May 18-21；仙台．
201. 森 幹士，吉井俊貴，平井高志，岩波明生，竹内一裕，中村雅也，松本守雄，大川 淳，川口善治．頰椎後縦靭帯骨化症患者での棘上・棘間靭帯骨化の評価 - 厚労科研脊柱靭帯骨化症研究班・多施設 CT 研究 - ．第 90 回日本整形外科学会学術総会；2017 May 18-21；仙台．
202. 吉井俊貴，平井高志，岩波明生，竹内一裕，森 幹士，西村空也，中村雅也，松本守雄，大川 淳，川口善治．頰椎後縦靭帯骨化症患者における項靭帯骨化の併存と脊椎靭帯骨化傾向との関連性 - 多施設 CT 研究 - ．第 90 回日本整形外科学会学術総会；2017 May 18-21；仙台．
203. 平井高志，吉井俊貴，岩波明生，竹内一裕，森 幹士，西村空也，中村雅也，松本守雄，大川 淳，川口善治．全脊椎重度骨化症例における骨化分布の調査 - 厚労科研脊柱靭帯骨化症研究班・JOAL study 全脊椎 CT 多施設研究 - ．第 90 回日本整形外科学会学術総会；2017 May 18-21；仙台．
204. 川口善治，中野正人，安田剛敏，関 庄二，鈴木賀代，箭原康人，牧野紘士，北島 勲，木村友厚．脊柱靭帯骨化症における血清バイオマーカー FGF-23 は高値をとる．第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会；2017 Oct 26-27；宜野湾．
205. 森 幹士，吉井俊貴，平井高志，竹内一裕，中村雅也，松本守雄，大川 淳，川口善治．頰椎後縦靭帯骨化症患者における棘上・棘間靭帯骨化の頻度と分布．第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会；2017 Oct 26-27；宜野湾．
206. 川口善治．脊柱靭帯骨化症・病態と治療の最前線．第 47 回脊椎外科を学ぶ会；2017 Feb 25；大阪．
207. 川口善治．脊椎靭帯骨化症に関する最近の研究と将来展望 - 頑固な痛み・しびれからの解放 - ．TOKUSHIMA PAIN FORUM；2017 Jul 18；徳島．
208. 久保田茂希，安部哲哉，藤井賢吾，船山徹，野口裕史，三浦紘世，門根秀樹，清水如代，羽田康司，山崎正志．胸椎 OPLL に伴う重度脊髄障害に対する後方除圧固定術 + ロボット歩行訓練による新たな治療．第 46 回日本脊椎脊髄病学会学術集会（札幌）2017 年 4 月
209. 久保田茂希，安部哲哉，藤井賢吾，船山徹，野口裕史，中山敬太，三浦紘世，門根秀樹，清水如代，羽田康司，山崎正志．慢性期脊髄障害に対するロボットスーツ HAL を用いた機能回復治療の効果の解析．第 46 回日本脊椎脊髄病学会学術集会（札幌）2017 年 4 月

210. 久保田茂希, 安部哲哉, 藤井賢吾, 船山徹, 野口裕史, 中山敬太, 三浦紘世, 門根秀樹, 清水如代, 羽田康司, 山崎正志. 胸椎 OPLL に伴う重度脊髄障害に対する後方除圧固定術 + ロボット歩行訓練による新たな治療.  
第 90 回日本整形外科学会学術総会 ( 仙台 ) 2017 年 5 月
211. 久保田茂希, 安部哲哉, 藤井賢吾, 船山徹, 野口裕史, 中山敬太, 三浦紘世, 門根秀樹, 清水如代, 羽田康司, 山崎正志. 慢性期脊髄障害に対するロボットスーツ HAL を用いた機能回復治療の効果の解析.  
第 90 回日本整形外科学会学術総会 ( 仙台 ) 2017 年 5 月
212. 久保田茂希, 安部哲哉, 清水如代, 門根秀樹, 藤井賢吾, 船山徹, 野口裕史, 三浦紘世, 羽田康司, 菅谷久, 吉岡友和, 山海嘉之, 山崎正志. 頸・胸椎後縦靭帯骨化症に伴う重度歩行障害に対するロボットスーツ HAL による新たな治療.  
第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会 ( 那覇 ) 2017 年 10 月
213. 久保田茂希, 安部哲哉, 清水如代, 門根秀樹, 藤井賢吾, 船山徹, 野口裕史, 三浦紘世, 羽田康司, 菅谷久, 吉岡友和, 山海嘉之, 山崎正志. 慢性期脊髄障害に対するロボットスーツ HAL を用いた機能回復治療.  
第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会 ( 那覇 ) 2017 年 10 月
214. サンドラプエンテス, 門根秀樹, 久保田茂希, 清水如代, 安部哲哉, 丸島愛樹, 鈴木健嗣, 羽田康司, 山崎正志. 重度脊椎障害例に対してロボットスーツ HAL を用いた機能改善治療効果の解析 - 介入期間前後の歩行時下肢協調制御に着目して  
第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会 ( 那覇 ) 2017 年 10 月
215. 久保田茂希, 安部哲哉, 清水如代, 門根秀樹, 國府田正雄, 山崎正志. 術後慢性期頸椎 OPLL の歩行機能再増悪症例に対するロボットリハビリテーションの効果の検討.  
第 52 回日本脊髄障害医学会 ( 千葉 ) 2017 年 11 月
216. 久保田茂希, 六崎裕高, 安部哲哉, 清水如代, 門根秀樹, 羽田康司, 菅谷久, 吉岡友和, 山海嘉之, 山崎正志. 重度歩行障害を呈する胸椎後縦靭帯骨化症に対するロボットスーツ HAL を用いた機能回復治療. 第 10 回三大学交流セミナー ( 阿見 ) 2018 年 2 月
217. 岡田英次郎, 名越慈人, 渡辺慶, 檜山明彦, 中川幸洋, 竹内一裕, 松永俊二, 圓尾圭史, 坂井顕一郎, 吉井俊貴, 小林祥, 大場哲郎, 和田簡一郎, 大谷隼一, 遠藤照顕, 西村浩輔, 森幹士, 都島幹人, 大川淳, 松本守雄 びまん性特発性骨増殖症に伴った脊椎損傷 - 厚労科研脊柱靭帯骨化症研究班・多施設研究 - 第 46 回日本脊椎脊髄病学会
218. 木村 敦, 白石 康幸, 井上 泰一, 遠藤 照顕, 竹下 克志, 頸髄症手術前後の転倒による自覚症状悪化に関する検討 - 多施設後ろ向き研究, 日本整形学会, 仙台, 2017/5/18 .
219. 木村 敦, 井上 泰一, 竹下 克志 頸髄症術後患者のロコモティブシンドロームと転倒の関連に関する検討 日本リハビリテーション医学会, 岡山, 2017/6/9.

220. 今釜 史郎「嘴状型胸椎後縦靱帯骨化症に対する後方除圧矯正固定術後、骨化切除を要する因子」、第 46 回日本脊椎脊髄病学会学術集会（札幌）2017
221. 今釜 史郎「胸椎後縦靱帯骨化症手術における術後運動麻痺関連因子～多施設前向き研究」、第 90 回日本整形外科学会学術総会（仙台）2017
222. 今釜史郎「胸椎後縦靱帯骨化症に対する後方除圧矯正固定術後、骨化切除再手術を要する術前画像の危険因子～胸椎-胸髄後弯角差（OPLL-SKAD）」、第 26 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会（金沢）2017
223. 川端茂徳、角谷智、牛尾修太、大川淳 脊椎脊髄手術における神経モニタリングの安全策 第 47 回日本臨床神経生理学会学術大会、2017 年 11 月 29 日、横浜・パシフィコ横浜
224. 吉田剛、松山幸弘、小林祥、川端茂徳、安藤宗治、川端茂徳、寒竹司、高橋雅人、今釜史郎、藤原靖、山田圭、和田簡一郎、田所伸朗、山本直也、谷俊一 高リスク脊椎手術における Br(E)-MsEP～JSSR 脊髄モニタリングワーキンググループ多施設前向き研究～ 第 46 回日本脊椎脊髄病学会 2017 年 4 月 13 日 15 日 札幌市
225. 吉田 剛、小林祥、長谷川智彦、大和雄、大江慎、坂野友啓、安田達也、三原唯暉、戸川大輔、松山幸弘、成人脊柱変形手術の神経合併症とその対策 術中脊髄モニタリングアラーム例の術式別の検討 第 46 回日本脊椎脊髄病学会 2017 年 4 月 13 日 15 日 札幌市
226. 山田圭、松山幸弘、川端茂徳、安藤宗治、山本直也、小林祥、今釜史郎、寒竹司、和田簡一郎、田所伸朗、高橋雅人、藤原靖、谷俊一 脊柱変形の手術操作による神経障害と術中対応策の検討～JSSR 脊髄モニタリングワーキンググループ多施設前向き研究～ 第 46 回日本脊椎脊髄病学会 2017 年 4 月 13 日 15 日 札幌市
227. 小林和克、今釜史郎、安藤圭他 脊椎側彎症における脊髄モニタリングの有用性 - 先天性後側彎症の検討 第 46 回日本脊椎脊髄病学会 2017 年 4 月 13 日 15 日 札幌市
228. 吉田剛、松山幸弘、小林祥、川端茂徳、安藤宗治、川端茂徳、寒竹司、高橋雅人、今釜史郎、藤原靖、山田圭、和田簡一郎、田所伸朗、山本直也、谷俊一 高リスク脊椎手術における Br(E)-MsEP～JSSR 脊髄モニタリングワーキンググループ多施設前向き研究～ 第 90 回日本整形外科学会学術集会 2017 年 5 月 18 日 21 日 仙台市
229. 山田圭、松山幸弘、川端茂徳、安藤宗治、山本直也、小林祥、寒竹司、今釜史郎、和田簡一郎、田所伸朗、谷俊一 脊柱変形で発生した神経障害と術中対応策の有効性の検討 - 日本脊椎脊髄病学会多施設前向き研究 第 90 回日本整形外科学会学術集会 2017 年 5 月 18 日 21 日 仙台市
230. 小林和克、今釜史郎、安藤圭他「先天性後側彎症における術中脊髄モニタリング - 麻痺発生リスクの検討 - 」 第 90 回日本整形外科学会学術集会 2017 年 5 月 18 日 21 日 仙台市
231. 吉田 剛、小林祥、長谷川智彦、大和雄、大江慎、坂野友啓、安田達也、三原唯暉、

- 戸川大輔、松山幸弘、成人脊柱変形手術の神経合併症とその対策 術中脊髄モニタリングアラーム例の術式別の検討 第 38 回脊髄機能診断研究会 2017 年 2 月 4 日 東京
232. 後迫宏紀, 小林祥, 長谷川智彦, 大和雄, 吉田剛, 戸川大輔, 安田達也, 坂野友啓, 三原唯暉, 大江慎, 松山幸弘 術中の神経根障害に対する脊髄モニタリング (Br(E)-MsEP) の有用性 第 38 回脊髄機能診断研究会 2017 年 2 月 10 日 東京
233. 小林 祥、松山 幸弘、安藤 宗治、川端 茂徳、寒竹 司、高橋 雅人、今釜 史郎、藤原 靖、山田 圭、和田簡一郎、田所 伸朗、山本 直也、谷 俊一 疾患による Br(E)-MsEP の特性 日本脊椎脊髄病学会モニタリングワーキンググループ 第 38 回脊髄機能診断研究会 2017 年 2 月 4 日 東京
234. 藤原 靖、松山 幸弘、小林 祥、川端 茂徳、安藤 宗治、山本 直也、寒竹 司、山田 圭、今釜 史郎、伊藤 全哉、和田簡一郎、田所 伸朗、高橋 雅人、谷 俊一 脊髄髄外腫瘍の術中脊髄モニタリング：髄内腫瘍との違いを含めて 第 38 回脊髄機能診断研究会 2017 年 2 月 4 日 東京
235. 山田 圭、松山 幸弘、川端 茂徳、安藤 宗治、山本 直也、今釜 史郎、小林 祥、寒竹 司、和田簡一郎、田所 伸朗、高橋 雅人、藤原 靖、谷 俊一、小林 和克、村本 明生、関 庄二、岩崎 博、長濱 賢) 脊柱変形手術による神経障害機序の検討～日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリングワーキンググループ多施設前向き研究～ 第 38 回脊髄機能診断研究会 2017 年 2 月 4 日 東京
236. 小林和克、今釜史郎 脊柱側彎症における術中脊髄モニタリング - 疾患毎にみた波形変化の特性 - 脊髄機能診断研究会 2017 第 38 回脊髄機能診断研究会 2017 年 2 月 4 日 東京
237. 小林和克、今釜史郎 脊椎髄膜腫手術での術中モニタリングにおける 70% criteria と Presence and Absence criteria の比較 脊髄機能診断学会 2017 第 38 回脊髄機能診断研究会 2017 年 2 月 4 日 東京
238. 小林和克、今釜史郎、安藤圭他 胸椎後縦靭帯骨化症後方固定術における術中脊髄モニタリング 第 38 回脊髄機能診断研究会 2017 年 2 月 4 日 東京
239. 両角正義、小林和克、今釜史郎、安藤圭他 脊椎髄膜腫患者での術中 MEP モニタリングとその特徴について 第 24 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 2017 年 9 月 22、23 日
240. 両角正義、小林和克、今釜史郎、安藤圭他 脊椎髄膜腫患者での術中 MEP モニタリングとその特徴について 第 24 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 2017 年 9 月 22、23 日 両角正義、小林和克、今釜史郎、安藤圭他 脊椎髄膜腫患者での術中 MEP モニタリングとその特徴について
241. 両角正義、小林和克、今釜史郎、安藤圭他 Study on neurophysiological monitoring (TCMEP) for spinal meningioma surgery 第 24 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会

- 2017年9月22、23日 両角正義、小林和克、今釜史郎、安藤圭他 Study on neurophysiological monitoring (TCMEP) for spinal meningioma surgery
242. 中原康雄、芳賀信彦：進行性骨化性繊維異形成症患者におけるADL・QOLの経時的評価。第54回日本リハビリテーション医学会学術集会，2017.6.8-10，岡山
243. 森 幹士、西澤和也、中村 陽、彌山峰史、今井晋二．大動脈の拍動はびまん性特発性骨増殖症における前縦靭帯骨化形成を抑制する． 第46回日本脊椎脊髄病学会学術集会 札幌市 2017 4 13-15．
244. 森 幹士、西澤和也、中村 陽、彌山峰史、今井晋二．低線量CTによる脊柱靭帯骨化症検診は可能か？ 第46回日本脊椎脊髄病学会学術集会 札幌市 2017 4 13-15．
245. 森 幹士、吉井俊貴、平井高志、岩波明生、竹内一裕、中村雅也、松本守雄、大川淳、川口善治 厚労科研脊柱靭帯骨化症研究班 頸椎後縦靭帯骨化症患者での棘上・棘間靭帯骨化の評価 -厚労科研脊柱靭帯骨化症研究班・多施設CT研究- 第90回日本整形外科学会学術総会 仙台市 2017 5 18-21．
246. 森 幹士、西澤和也、中村 陽、彌山峰史、今井晋二．大動脈の拍動はびまん性特発性骨増殖症における前縦靭帯骨化形成を抑制する． 第90回日本整形外科学会学術総会 仙台市 2017 5 18-21．
247. 森 幹士、西澤和也、中村 陽、彌山峰史、今井晋二．大動脈の拍動はびまん性特発性骨増殖症における前縦靭帯骨化形成を抑制する．第129回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会 富山市 2017 10 6-7．
248. 森 幹士、吉井俊貴、平井高志、竹内一裕、中村雅也、松本守雄、大川淳、川口善治．厚労科研脊柱靭帯骨化症研究班 頸椎後縦靭帯骨化症患者における棘上・棘間靭帯骨化の頻度と分布 -厚労科研脊柱靭帯骨化症研究班・多施設CT研究- 第32回日本整形外科学会基礎学術総会 那覇市 2017 10 26-27．
249. 勝見敬一，牧野達夫，平野徹，渡辺慶，大橋正幸，庄司寛和，溝内龍樹，遠藤直人，和泉智博，伊藤拓緯．3次元画像解析による頸椎後縦靭帯骨化症の骨化巣進展と増加危険因子の検討．2017年4月 第46回日本脊椎脊髄病学会
250. 勝見敬一，牧野達夫，平野徹，渡辺慶，大橋正幸，遠藤直人，山崎昭義，和泉智博，伊藤拓緯，傳田博司，高橋一雄．頸椎後縦靭帯骨化症に対する後方除圧固定術 -手術成績関連因子の検討- ． 2017年4月 第46回日本脊椎脊髄病学会
251. 勝見敬一，平野徹，渡辺慶，大橋正幸，庄司寛和，溝内龍樹，牧野達夫，和泉智博，伊藤拓緯，遠藤直人．頸椎後縦靭帯骨化症における骨化巣進展と増加危険因子の検討．2017年5月 第90回日本整形外科学会
252. 勝見敬一，平野徹，渡邊慶，大橋正幸，山崎昭義，和泉智博，澤上公彦，傳田博司，牧野達夫，高橋一雄，遠藤直人．Novel concept of posterior decompression and fusion for cervical ossification of the posterior longitudinal ligament．2017年9月 第24回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会

253. 勝見敬一, 牧野達夫, 平野徹, 渡邊慶, 大橋正幸, 遠藤直人, 山崎昭義, 和泉智博, 伊藤拓緯, 傳田博司. 頸椎後縦靱帯骨化症に対する後方除圧固定術の手術成績の検討. 2017年10月 第26回日本脊椎インストゥルメンテーション学会
254. 勝見敬一. Posterior instrumented fusion suppresses the progression of ossification of the posterior longitudinal ligament: A comparison of laminoplasty with and without instrumented fusion by 3-dimensional analysis. 2017年10月 Materialise Japan Medical Congress 2017
255. 勝見敬一, 牧野達夫, 平野徹, 渡邊慶, 大橋正幸, 遠藤直人, 山崎昭義, 和泉智博, 伊藤拓緯, 傳田博司. 頸椎後縦靱帯骨化症に対する新しい後方除圧固定術. 2017年10月 第6回日本海合同脊椎懇話会
256. 勝見敬一, 牧野達夫, 平野徹, 渡邊慶, 大橋正幸, 溝内龍樹, 遠藤直人. K-line(-)型 頸椎後縦靱帯骨化症に対する新しい後方除圧固定術. 2017年11月 H29年度第2回 脊柱靱帯骨化症研究班 班会議
257. 橋本功ほか 頸椎前方除圧固定術と椎弓形成術の再手術率: 生存分析を用いた最長25年間の検討. 第45回日本脊椎脊髄病学会 H28.4.16 千葉
258. 加藤仁志、他. 当科で開発した運動器具を用いた腹部体幹筋トレーニングの効果 PETを用いた検証. 第46回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2017. 4. 13-15. 札幌
259. 加藤仁志、他. 高齢者における腹部体幹筋力の低下は慢性腰痛や転倒しやすさと相関する. 第90回日本整形外科学会学術集会 2017. 5. 18-21. 仙台
260. 加藤仁志、他. 中高齢者の脊椎疾患と腹部体幹筋力の関連性. 第29回日本運動器科学会 2017. 7. 1. 東京
261. 加藤仁志、他. 中高齢者の脊椎疾患と腹部体幹筋力の関連性. 第25回日本腰痛学会 2017. 11. 3-4. 東京
262. 奥規博、加藤仁志、他. 腹部体幹筋力の低下は腰痛やロコモティブシンドロームの発現に関連する. 第25回日本腰痛学会 2017. 11. 3-4. 東京
263. 加藤仁志、他. 脊柱靱帯骨化症の患者に適した腹部体幹筋トレーニング器具. 脊柱靱帯骨化症に関する調査研究班 平成29年度第2回合同班会議 2017. 11. 25. 東京
264. 松下雅樹、鬼頭浩史、三島健一、石黒直樹. SF-36を用いた軟骨無形成症患者のQOLに関する調査. 第90回日本整形外科学会 2017. 5. 17-21 (仙台)
265. 松下雅樹、鬼頭浩史、三島健一、北村暁子、長田侃、西田佳弘、石黒直樹、大野欽司. Meclozine 投与による軟骨無形成症モデルマウスにおける骨伸長と骨質の検討. 第32回日本整形外科学会基礎学術集会 2017. 10. 26-27 (那覇)
266. 鬼頭浩史、石黒直樹. 培養骨髄細胞と多血小板血漿の移植を併用した下肢骨延長術. 第11回骨軟骨フロンティア 2017. 11. 11 (東京)
267. 鬼頭浩史. 小児整形外科領域における骨系統疾患. 第10回胎児骨系統疾患フォーラム学術講演会 2017. 11. 25 (東京)

268. 鬼頭浩史、三島健一、松下雅樹、石黒直樹. 骨髄間葉系幹細胞と PRP を用いた骨延長術. 第 2 回 JAPSAM 幹細胞研究会. 2017.12.2 (名古屋)
269. 金子浩史、鬼頭浩史、三島健一、松下雅樹、服部義. ペルテス病に対するソルター骨盤骨切り術の骨成熟時成績. 第 28 回日本小児整形外科学会 2017.12.7-8 (東京)
270. 三島健一、鬼頭浩史、松下雅樹、門野泉、北村暁子、長田侃、西田佳弘、石黒直樹. 脚長差に伴う機能性側弯の特徴. 第 28 回日本小児整形外科学会 2017.12.7-8 (東京)
271. 松下雅樹、鬼頭浩史、三島健一、長田侃、金子浩史、岩田浩志、服部義、石黒直樹. MAC 創外固定器による下腿変形矯正. 第 28 回日本小児整形外科学会 2017.12.7-8 (東京)
272. 三島健一、鬼頭浩史、松下雅樹、門野泉、長田侃、西田佳弘、石黒直樹. 脚長差に伴う機能的側弯の特徴. 第 33 回東海小児整形外科懇話会 2018.2.10 (名古屋)
273. 長田侃、鬼頭浩史、三島健一、松下雅樹、石黒直樹. 先天性下腿偽関節症に対し早期髓内釘固定を施行した 1 例. 第 33 回東海小児整形外科懇話会 2018.2.10 (名古屋)
274. 大倉俊昭、松下雅樹、三島健一、関泰輔、石黒直樹、鬼頭浩史. FGFR3 は変形性関節症マウスモデルにおける軟骨下骨の骨硬化を抑制する. 第 31 回日本軟骨代謝学会 2018.3.2-3 (名古屋)
275. 大場哲郎、江幡重人、勝麻里那、芦沢知行、辰野力人、波呂浩孝 拡散イメージング手法 NODDI を用いた、頸髄症性脊髄症の機能評価～重症度の定量化および術後回復予測について～ 第 46 回日本脊椎脊髄病学会 2017.4.13 札幌市
276. 海渡 貴司, 武中章太, 牧野孝洋, 串岡純一, 吉川秀樹, 田中壽, 渡邊嘉之, 寒重之, 柴田政彦. Resting-state fMRI を用いた脳機能的結合解析による圧迫性頸髄症の新規バイオマーカーの探索. 厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 平成 29 年度第 2 回合同班会議 平成 29 年 11 月 25 日
277. 串岡 純一, 海渡 貴司, 武中 章太, 牧野 孝洋, 坂井 勇介, 田中 壽, 渡邊 嘉之, 寒 重之, 吉川 秀樹, 柴田 政彦: 頸椎症性脊髄症における安静時 fMRI を用いた脳機能的・解剖学的変化の検討. 第 90 回日本整形外科学会学術総会. 2017/5/18-21. 仙台.
278. 串岡 純一, 海渡 貴司, 武中 章太, 牧野 孝洋, 坂井 勇介, 田中 壽, 渡邊 嘉之, 寒 重之, 柴田 政彦: 頸椎症性脊髄症における安静時 fMRI を用いた自発脳活動および機能的結合の変化の検討. 第 39 回日本疼痛学会. 2017/6/16-17. 神戸.
279. 関健, 遠藤健司, 鈴木秀和ほか 手術加療を要した頸椎前縦靱帯骨化の 4 例に対する S-line を用いた嚙下障害の評価 東日本整形災害外科学会 2017 年

**厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業**

**【脊柱靭帯骨化症に関する調査研究】**

**日本医療研究開発機構研究費 難治性疾患実用化研究事業**

**【脊柱靭帯骨化症の治療指針策定および手術治療の質を高めるための大規模多施設研究】**

**【後縦靭帯骨化症に対する骨化制御機構の解明と治療法開発に関する研究】**

**平成 29 年度第 1 合同班会議**

平成 29 年 7 月 25 日（土） 於：東京医科歯科大学 M&D タワー2F 鈴木章夫記念講堂

8：30～「治療開発研究班」meeting M&D タワー2F 共用講義室

8：30 「治療開発研究班」幹事会 3号館 2F 医学科講義室

（敬称略）

10：00 開会の辞 脊柱靭帯骨化症に関する調査研究班 大川班長より

10：05 ご挨拶 厚生労働省 健康局難病対策課

ご挨拶 国立保健医療科学院

ご挨拶 AMED 戦略推進部 難病研究課

ご挨拶 全国脊柱靭帯骨化症患者家族連絡協議会

研究事業推進官 武村 真治

主査 近藤 圭子

会長 増田 靖子

**10：20 多施設臨床研究報告 1（発表 7 分、質疑 3 分）**

座長 滋賀医科大学 森 幹士

1）進行性骨化性線維異形成症：研究の進展と海外の動向

東京大学

芳賀 信彦

2）高リスク胸椎 OPLL に対する術中脊髄モニタリング モニタリング TP の自験例より

浜松医科大学

吉田 剛

3）脊柱管狭窄を伴う非骨傷性頸髄損傷に対する早期手術と待機治療のランダム化比較試験 OSCIS study

群馬大学

筑田 博隆

4）頸椎 OPLL 患者の全脊柱における靭帯骨化巣の評価 後ろ向き研究で得られた成果報告と前向き研究について

東京医科歯科大学

平井 高志

5）3Tesla MRI を用いた頸椎 OPLL の DTT 解析

慶應義塾大学

中島 大輔

**11：15 臨床講演**

座長 東北医科薬科大学 小澤 浩司

「脊柱靭帯骨化症の最近の知見、班会議研究を通じて明らかになってきたもの」

富山大学

川口 善治

**11：45 --- 食事休憩 ---（弁当配布）**

「脊柱靭帯骨化症研究班」幹事会 3号館 3F 医学科講義室（担当：吉井）

（幹事会には各分担施設より 1 名ご参加ください）



**12：45 基礎研究・治療開発研究**

脊柱靱帯骨化症、治療開発研究 今後の展望

慶應義塾大学  
松本 守雄

**12：55 基礎講演**

座長 慶應義塾大学 宮本 健史

「傍脊柱靱帯における RSP02 の発現と機能」

東京大学  
齋藤 琢

**13：25 多施設臨床研究報告 2 (発表 7 分、質疑 3 分)**

座長 筑波大学 國府田 正雄

6) 胸椎靱帯骨化症手術の前向き研究 (OPLL、OLF)

名古屋大学  
今釜 史郎

7) びまん性特発性骨増殖症に伴った脊椎損傷の調査 多施設研究

慶應義塾大学  
岡田 英次朗

8) 圧迫性頸髄症手術前後の転倒による症状悪化に関する検討  
後ろ向き研究の二次解析と前向き研究の進捗状況

自治医科大学  
木村 敦

9) 頸椎 OPLL 多施設前向き手術成績調査 AMED 研究の成果報告

東京医科歯科大学  
吉井 俊貴

14：05 閉会の辞

14：20 各分科会 (スモールミーティング)

- ・ 頸椎 + 胸椎 Database + OYL Database ---- 大学院特別講義室(3号館 6F)
- ・ 全脊 CT ----- "
- ・ OSCIS ----- 保健衛生学研究科 大学院講義室 2 (3号館 15F)
- ・ 転倒 ----- "
- ・ DISH 脊椎損傷 ----- "
- ・ DTT ----- 保健衛生学研究科 大学院講義室 1 (3号館 15F)

**平成 29 年度第 2 回班会議(予定)**

**平成 29 年 11 月 25 日(土) 於：東京医科歯科大学**

厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業

【脊柱靭帯骨化症に関する調査研究】

日本医療研究開発機構研究費 難治性疾患実用化研究事業

【脊柱靭帯骨化症の治療指針策定および手術治療の質を高めるための大規模多施設研究】

【後縦靭帯骨化症に対する骨化制御機構の解明と治療法開発に関する研究】

平成 29 年度第 2 回合同班会議

平成 29 年 11 月 25 日 (土) 於：東京医科歯科大学 **M&D タワー2F** 鈴木章夫記念講堂

8：30～「治療開発研究班」**meeting** **M&D タワー2F** 共用講義室

9：30 開会の辞 脊柱靭帯骨化症に関する調査研究班 大川班長より

9：35 ご挨拶 国立保健医療科学院

研究事業推進官 武村真治

ご挨拶 全国脊柱靭帯骨化症患者家族連絡協議会

会長 増田靖子

9：45 午前の部：臨床研究（多施設研究）（発表 7 分 質疑 2 分）

座長 山梨大学整形外科

波呂浩孝

1) **FOP** 臨床研究と日本における治験の状況

東京大学リハビリテーション医学

芳賀信彦

2) 後縦靭帯骨化症に対する術中脊髄モニタリング

浜松医科大学整形外科

吉田 剛

3) 脊柱管狭窄を伴う非骨傷性頸髄損傷に対する早期手術と待機治療のランダム化比較試験

**OSCIS study**

群馬大学整形外科

筑田博隆

4) 頸椎 **OPLL** 患者の全脊柱における靭帯骨化巣の評価

- 後ろ向き研究で得られた成果報告と前向き研究について

慶應義塾大学整形外科

名越慈人

5) 拡散テンソルトラクトグラフィーを用いた後縦靭帯骨化症評価 - 多施設前向き研究 -

慶應義塾大学整形外科

中島大輔、辻 収彦、名越慈人、藤吉兼浩、中村雅也

6) びまん性特発性骨増殖症に伴った脊椎損傷の調査 - 多施設研究 -

慶應義塾大学整形外科

岡田英次朗

7) 圧迫性頸髄症手術前後の転倒による症状悪化に関する多施設前向き研究の進捗状況

自治医科大学整形外科

木村 敦

8) 頸椎後縦靭帯骨化症 多施設前向き症例登録

東京医科歯科大学整形外科

吉井俊貴

9) 胸椎黄色靭帯骨化症手術の前向き研究（中間報告）

名古屋大学整形外科

今釜史郎

11:10 基礎研究・治療開発研究（発表7分 質疑3分）

座長 慶應義塾大学整形外科  
宮本健史

10) 治療開発班活動状況の概要

慶應義塾大学整形外科  
松本守雄

11) 後縦靭帯骨化症原因候補遺伝子 **CDC5L** の機能解析

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科医療関節材料開発講座  
前田真吾

12) **OPLL** のゲノム解析の現状

理化学研究所 統合生命医科学研究センター骨関節疾患研究チーム  
池川志郎

13) 頸椎後縦靭帯骨化症の疾患感受性候補遺伝子 **RSPO2** の検討

東京大学医学部附属病院整形外科・脊椎外科  
相馬一仁

14) 後縦靭帯骨化症の発生、進展に関する遺伝子の検索

東京医科歯科大学整形外科  
猪瀬弘之

15) **iPS** 細胞を活用した後縦靭帯骨化症の病態解析

京都大学ウイルス・再生医科学研究所/**iPS** 細胞研究所  
戸口田淳也

12:10 ---**食事休憩**---（弁当配布）

「脊柱靭帯骨化症研究班」の幹事会 M&Dタワー2F 共用講義室（担当：吉井）  
（幹事会には各分担施設より1名はご参加ください）

患者会との懇話会 大学院特別講義室（3号館6F）（担当：湯浅）

13:00 午後の部：臨床研究（一般演題1）（発表5分 質疑2分）

座長 国際医療福祉大学整形外科  
石井 賢

16) 脊柱靭帯骨化症の患者に適した腹部体幹筋トレーニング器具

金沢大学整形外科  
加藤仁志、村上英樹、出村 諭、横川文彬  
清水貴樹、奥 規博、北川 亮、土屋弘行

17) 一般地域住民を対象とした後縦靭帯骨化症症例の疫学研究：食習慣の関連について

弘前大学整形外科  
市川奈菜

18) 後縦靭帯骨化症患者の重症化に関する環境因子 - 若年胸椎発症例における食習慣と栄養素 -

北海道大学整形外科  
遠藤 努

19) **Resting state-fMRI** を用いた脳機能的結合解析による圧迫性頸髄症の新規バイオマーカーの探索

大阪大学器官制御外科学  
海渡貴司、武中章太、牧野孝洋、串岡純一、吉川秀樹  
大阪大学放射線統合医学  
田中 壽、渡邊嘉之  
大阪大学疼痛医学  
寒 重之、柴田政彦

20) 脊髄誘発電位および骨化形態からみた頸椎後縦靭帯骨化症の発症因子の再検討

山口大学整形外科  
船場真裕、寒竹 司、今城靖明、鈴木秀典、西田周泰、田口敏彦

2 1 ) 頸椎後縦靱帯骨化の発生・伸展に関わる因子の検討

福井大学整形外科

中嶋秀明、杉田大輔、渡邊修司、本定和也、山本悠介、松峯昭彦

2 2 ) 拡散イメージング手法 **NODDI** を用いた、頸髄症性脊髄症の機能評価

山梨大学整形外科

大場哲郎

13 : 50 臨床研究 ( 一般演題 2 ) ( 発表 5 分 質疑 2 分 )

座長 富山大学整形外科

川口 善治

2 3 ) 頸椎後縦靱帯骨化症に対する後方除圧術の治療成績 - **ASA** 分類による比較 -

国際医療福祉大学整形外科

船尾陽生

2 4 ) 頸椎 **OPLL** 術後の歩行改善因子の検討

久留米大学整形外科

岩橋頌二、山田 圭、井上英豪、横須賀公章、後藤雅史

松原庸勝、佐藤公昭、永田見生、志波直人

2 5 ) 頸椎 **OPLL** に対する非除圧前方固定を併用した椎弓形成術の試み

大阪労災病院整形外科

長本行隆

2 6 ) 片開き式頸椎椎弓形成術における **laminar closure** の検討

岡山大学病院整形外科

瀧川朋亨、辻 寛謙、三澤治夫、塩崎泰之

宇川 諒、村岡聡介、田中雅人、尾崎敏文

2 7 ) **K-line(-)**型 頸椎後縦靱帯骨化症に対する新しい後方除圧固定術

新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院

勝見敬一

2 8 ) **O-arm** ナビゲーション支援による頸椎後縦靱帯骨化症に対する前方除圧固定術 ( 骨化浮上術 )

済生会川口総合病院整形外科

坂井頭一郎

2 9 ) 頸椎後縦靱帯骨化症における神経症状悪化のリスク因子

千葉大学整形外科

古矢丈雄、國府田正雄、飯島 靖、齊藤淳哉

北村充広、宮本卓弥、山崎正志、大鳥精司

筑波大学医療系整形外科

國府田正雄、山崎正志

3 0 ) 頸椎前方除圧固定術と椎弓形成術の再手術率 - 生存分析を用いた最長 26 年間の検討 -

東北大学整形外科

橋本 功、相澤俊峰、菅野晴夫、井樋栄二

東北医科薬科大学整形外科

小澤浩司

14 : 50 臨床研究 ( 一般演題 3 ) ( 発表 5 分 質疑 2 分 )

座長 自治医科大学整形外科

木村 敦

3 1 ) びまん性特発性骨増殖症に伴った脊椎損傷 - 頸椎と胸腰椎における骨折の比較

東海大学整形外科

加藤裕幸

3 2 ) びまん性特発性骨増殖症と脊柱矢状面アライメントの関連 : **population-based cohort**

和歌山県立医科大学整形外科

籠谷良平、山田 宏、橋爪 洋、湯川泰嗣、南出晃人

中川幸洋、岩崎 博、筒井俊二、高見正成

3 3 ) 低線量 **CT** による脊柱靭帯骨化症診断の試み

滋賀医科大学整形外科  
森 幹士

3 4 ) 当院における非骨傷性頸髄損傷患者と頸椎靭帯骨化症の関係

獨協医科大学整形外科  
浅野太志、稲見 聡、森平 泰、竹内大作、上田明希  
司馬 洋、大江真人、青木寛至、種市 洋

3 5 ) 頸椎後縦靭帯骨化症に対する片開き式椎弓形成術術後後弯症例における全脊柱矢状面アライメントと骨化形態の検討

東京医科大学整形外科  
関 健

3 6 ) 頸部脊髄症手術患者における腰部脊柱管狭窄の共存 ( **tandem spinal stenosis** ) -297 例の検討 ( **OPLL** に着目して ) -

東京医科歯科大学整形外科  
山田剛史、吉井俊貴、大川 淳

3 7 ) 胸椎 **OPLL** による重度脊髄障害に対する術後 **HAL** を用いた歩行訓練の効果

筑波大学医療系整形外科  
安部哲哉、藤井賢吾、久保田茂希、門根秀樹、三浦紘世、長島克弥  
熊谷 洋、野口裕史、船山 徹、國府田正雄、山崎正志

15 : 40 閉会の辞

15 : 45 分科会 ( スモールミーティング )

以 上

厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）  
【脊柱靭帯骨化症に関する調査研究】 平成 30 年度第 1 回班会議

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業  
【後縦靭帯骨化症患者レジストリの構築】  
【後縦靭帯骨化症に対する骨化制御機構の解明と治療法開発に関する研究】  
平成 30 年度第 1 回合同班会議

平成 30 年 6 月 16 日（土）  
講堂

於：東京医科歯科大学 M&D タワー2F 鈴木章夫記念

8：30 「治療開発研究班」ミーティング 東京医科歯科大学 M&D タワー2F 共用講義室 2

（敬称略）

10：00 開会の辞 脊柱靭帯骨化症に関する調査研究班 大川班長より

10：05 ご挨拶 厚生労働省難病対策課

ご挨拶 国立保健医療科学院

村 真治

ご挨拶 AMED 戦略推進部 難病研究課

ご挨拶 全国脊柱靭帯骨化症患者家族連絡協議会

研究事業推進官 武

調査役 中島 唯善・主査 近藤 圭子

会長 増田 靖子

10：20 多施設臨床研究報告 1（発表 7 分、質疑 3 分）

座長 山梨大学 波呂 浩孝

1）脊柱管狭窄を伴う非骨傷性頸髄損傷に対する早期手術と待機治療のランダム化比較試験 OSCIS study  
群馬大学  
筑田 博隆

2）進行性骨化性線維異形成症 - 多施設研究進捗状況  
東京大学  
芳賀 信彦

3）後縦靭帯骨化症に対する術中脊髄モニタリング- 多施設研究によるアラームのタイミング-  
浜松医科大学  
吉田 剛

4）rs-fMRI を用いた脳機能結合解析による圧迫性頸髄症の新規予後予測バイオマーカーの探察-多施設研究-  
大阪大学  
海渡 貴司

5）頸椎 OPLL 患者の全脊柱における靭帯骨化巣の評価 -後ろ向き研究で得られた成果報告と前向き研究につ  
いて

東京医科歯科大学  
平井 高志

11：15 基礎研究・治療開発研究

脊柱靭帯骨化症、治療開発研究 今後の展望

慶應義塾大学

松本 守雄

11：20 基礎講演

川 志郎

座長 理化学研究所 池

「iPS 細胞を活用した異所性骨化疾患の研究」

京都大学ウイルス・再生医科学研究所

京都大学 iPS 細胞研究所

戸口田 淳也

**12:05 ---食事休憩---** (弁当配布)

「脊柱靱帯骨化症研究班」幹事会 共用講義室2 (担当:吉井)  
(幹事会には各分担施設より1名ご参加ください)

患者会との懇話会 --- 3号館 6F 大学院特別講義室 (担当:湯浅・加藤)

**12:55 臨床講演**

座長 富山大学 川口 善治

「『脊柱靱帯骨化症』政策研究とAMED研究 -現状の報告と今後の課題-

東京医科歯科大学  
吉井 俊貴

**13:30 多施設臨床研究報告2(発表7分、質疑3分)**

座長 弘前大学 和田 簡一郎

6) 胸椎後縦靱帯骨化症手術と胸椎黄色靱帯骨化症手術の前向き研究

名古屋大学  
今釜 史郎, 安藤 圭

7) びまん性特発性骨増殖症に伴った脊椎損傷の調査 -多施設研究-

慶應義塾大学  
岡田 英次朗

8) 圧迫性頸髄症手術前後の転倒による症状悪化に関する多施設前向き研究

自治医科大学  
木村 敦

9) 拡散テンソルトラクトグラフィを用いた後縦靱帯骨化症評価 -多施設前向き研究中間報告-

慶應義塾大学  
中島 大輔, 辻 収彦, 藤吉 兼浩, 中村 雅也

14:10 閉会の辞

14:20 各分科会(スモールミーティング)

- ・ 頸椎 + 胸椎 Database + OYL Database ----- 共用講義室2 (M&D タワー 2F)
- ・ 全脊 CT ----- "
- ・ 転倒 ----- 大学院特別講義室 (3号館 6F)
- ・ DISH 脊椎損傷 ----- "
- ・ DTT ----- 整形外科研修室 (M&D タワー11F)

**平成30年度第2回班会議(予定)**

**平成30年11月24日(土) 於:東京医科歯科大学**

**厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）  
【脊柱靭帯骨化症に関する調査研究】**

**国立研究開発法人 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業  
【後縦靭帯骨化症患者レジストリの構築】  
【後縦靭帯骨化症に対する骨化制御機構の解明と治療法開発に関する研究】  
平成 30 年度第 2 回合同班会議**

平成 30 年 11 月 24 日（土） 於：東京医科歯科大学 **M&D タワー 2F** 鈴木章夫記念講堂

**8：30**～「治療開発研究班」meeting **M&D タワー 2F** 共用講義室 2

（敬称略）

**9：30** 開会の辞 脊柱靭帯骨化症に関する調査研究班 東京医科歯科大学 大川 淳  
**9：35** ご挨拶 国立保健医療科学院 研究事業推進官 武村真治  
ご挨拶 全国脊柱靭帯骨化症患者家族連絡協議会 会長 増田靖子

**9：45** 午前の部：臨床研究（多施設研究 1）（発表 7 分 質疑 2 分）

座長 富山大学整形外科  
川口善治

1) **FOP** の国内多施設研究と国際的活動の状況

東京大学医学部附属病院リハビリテーション科  
芳賀信彦

2) 圧迫性頸髄症手術前後の症状悪化に関する多施設前向き研究

自治医科大学整形外科学  
木村 敦

3) 脊柱管狭窄を伴う非骨傷性頸髄損傷に対する早期手術と待機治療のランダム化比較試験  
**OSCIS study**

群馬大学大学院医学系研究科整形外科学  
筑田博隆

4) 頸椎 **OPLL** における患者立脚型データと全脊柱 **CT** 画像の前向き評価

東京医科歯科大学整形外科  
平井高志

5) 拡散テンソルトラクトグラフィーを用いた後縦靭帯骨化症評価 - 多施設前向き研究 -

慶應義塾大学整形外科  
中島大輔

**10：35** 臨床研究（一般演題 1）（発表 5 分 質疑 2 分）

座長 大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学  
海渡貴司

6) びまん性特発性骨増殖症を合併した腰部脊柱管狭窄症患者におけるロコモおよび運動機能評価

金沢大学整形外科  
清水貴樹、加藤仁志、村上英樹、出村 諭、新村和也、横川文彬  
黒川由貴、奥 規博、北川 亮、半田真人、土屋弘行

7) 地域一般住民における頸椎後縦靭帯骨化症の頸椎機能に関する縦断調査

弘前大学整形外科  
和田簡一郎

8) 若年発症の胸椎 **OPLL** 患者は高度な肥満と強い骨化傾向の特徴を持つ

北海道大学大学院医学研究院整形外科学教室  
遠藤 努、高畑雅彦、岩田 玲、山田勝久  
大西貴士、須藤英毅、岩崎倫政



9) 有限要素法を用いたびまん性特発性骨増殖症の骨折解析及びその展望

山口大学大学院整形外科学

西田周泰、今城靖明、鈴木秀典、船場真裕

10) 頰椎前方固定術前後の嚙下障害評価とリスクファクターの検討～嚙下内視鏡とスクリーニング質問シートを用いて～

山梨大学整形外科

大場哲郎

**11:15 基礎研究・治療開発研究 (発表7分 質疑3分)**

座長 慶應義塾大学整形外科

宮本健史

11) 治療開発班活動状況の概要

慶應義塾大学整形外科

松本守雄

12) ゲノム解析の現状

理化学研究所生命医科学研究センター骨関節疾患研究チーム

池川志郎

13) 脊柱靭帯骨化に於ける、間葉系幹細胞と血管新生の役割

弘前大学大学院医学研究科病態薬理学講座整形外科学講座

古川賢一、市川奈菜、工藤 整、浅利 亨

熊谷玄太郎、和田簡一郎、石橋恭之

14) ヒト脊柱靭帯骨化組織および遺伝性骨軟骨異常マウス (**ttw/ttw**) を用いた疾患関連遺伝子発現解析

福井大学整形外科

中嶋秀明、渡邊修司、本定和也、松峯昭彦

15) 後縦靭帯骨化症に対するメタボローム解析と病態解析

藤田医科大学脊椎・脊髄科

辻 崇

16) **ScxGFP iPS** 細胞を用いた腱・靭帯分化誘導系の構築

広島大学大学院医歯薬保健学研究科

宿南知佐

**12:15 ---食事休憩---** (弁当配布)

「脊柱靭帯骨化症研究班」の幹事会 **M&D タワー2F 共用講義室 2** (担当: 吉井)  
(幹事会には各分担施設より **1** 名はご参加ください)

患者会との懇話会 **保健衛生学 大学院特別講義室 2 (3号館 15F)** (担当: 湯浅)

**13:00 後の部: 臨床研究 (多施設研究 2) (発表7分 質疑2分)**

座長 浜松医科大学整形外科

松山幸弘

17) びまん性特発性骨増殖症に伴った脊椎損傷の調査 - 多施設研究 -

慶應義塾大学医学部整形外科学教室

岡田英次朗、松本守雄

18) 後縦靭帯骨化症における脊髄モニタリングから見た術中対応策

浜松医科大学整形外科

吉田 剛

1 9 ) 頸椎後縦靱帯骨化症 **AMED** 多施設研究

東京医科歯科大学整形外科  
吉井俊貴

2 0 ) 胸椎黄色靱帯骨化症多施設前向き研究 - 中間報告 -

名古屋大学整形外科学  
安藤 圭

2 1 ) 脳 **rs-fMRI** を用いた頸髄症の予後予測 - 追加解析結果 (**ALFF** による予後予測) と多施設研究の進捗報告 -

大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学  
海渡貴司、武中章太、牧野孝洋、坂井勇介

**13 : 50** 臨床研究 (一般演題 2) (発表 5 分 質疑 2 分)

座長 名古屋大学整形外科学  
安藤 圭

2 2 ) 頸椎後縦靱帯骨化症患者の術後成績と歩行改善に関連する因子の検討

久留米大学整形外科教室  
島崎孝裕

2 3 ) 頸椎 **OPLL** に対する非除圧前方固定を併用した椎弓形成術 ~ 術後 2 年成績 ~

大阪労災病院整形外科  
長本行隆、岩崎幹季

2 4 ) 頸部項靱帯骨化に関する検討

岡山大学大学院整形外科学  
瀧川朋亨、村岡聡介、塩崎泰之、三澤治夫、田中雅人

2 5 ) 脊柱靱帯骨化症の骨化進展と骨代謝動態の解析

新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院整形外科  
勝見敬一

2 6 ) **O-arm** ナビゲーション支援による頸椎後縦靱帯骨化症に対する前方骨化浮上術

済生会川口総合病院整形外科  
坂井顕一郎

2 7 ) 保存加療を行った頸椎 **OPLL** の画像所見

千葉大学大学院医学研究院整形外科学  
古矢丈雄、牧 聡、北村充広、志賀康浩、稲毛一秀、折田純久、大鳥精司  
筑波大学医学医療系整形外科  
國府田正雄、山崎正志

2 8 ) 胸椎 **OPLL** に対する手術成績の検討 - 後方侵入前方除圧術と後方除圧の比較 -

東北大学整形外科  
衛藤俊光

**14 : 45** 臨床研究 (一般演題 3) (発表 5 分 質疑 2 分)

座長 慶應義塾大学整形外科学  
名越慈人

2 9 ) 全脊椎 **CT** 矢状断を用いた強直性脊椎の有病率調査 - 当院に搬送された救急患者調査から -

東海大学医学部外科学系整形外科学  
田中真弘

3 0 ) 骨増殖病態の重症度と終末糖化産物(**AGEs**)の血中濃度は相関する ; 大規模住民コホートの調査結果より

和歌山県立医科大学整形外科学  
長田圭司、橋爪 洋、村木重之、籠谷良平、岡田基弘  
高見正成、岩崎 博、筒井俊二、南出晃人、湯川泰紹  
吉田宗人、吉村典子、山田 宏

3 1 ) 全脊椎 **CT** 大規模多施設研究による重度頸椎 **OPLL** 症例の特徴 - 厚労科研 脊柱靱帯骨化症研究  
班・**JOSL study** -

滋賀医科大学整形外科  
森 幹士

3 2 ) 頸椎前縦靱帯骨化症の骨化形態と嚥下困難の検討

東京医科大学整形外科学分野

村田寿馬、西村浩輔、遠藤健司、粟飯原孝人、鈴木秀和  
松岡佑嗣、高松太郎、日下部拓哉、前川麻人、山本謙吾

3 3 ) 胸椎後縦靱帯骨化症術後 **HAL** リハビリテーションは重症例に有効である

筑波大学医学医療系整形外科  
長島克弥

3 4 ) 有限要素法を用いた **OPLL** に対する後方固定術後の骨化層の応力分布変化および骨化伸展機構プ  
ログラミングに向けて

京都大学大学院医学研究科整形外科  
清水 優

3 5 ) 頸椎後縦靱帯骨化症の罹患率及びリスク因子の検討

東京大学医学部整形外科  
相馬一仁

**15 : 40** 閉会の辞

**15 : 45** 分科会 (スモールミーティング)

- ・ 頸椎 + 胸椎 **Database + OYL Database**-----
- ・ 全脊 **CT**-----
- ・ **rs-fMRI** -----
- ・ **DISH** 脊椎損傷-----
- ・ 転倒-----
- ・ **DTT**-----

共用講義室 **2** ( **M&D** タワー **2F** )

”

”

共用講義室 **1** ( **M&D** タワー **2F** )

”

整形外科研修室 ( **M&D** タワー **11F** )

2019 年度第 1 回班会議 (予定)

2019 年 7 月 6 日 (土) 於：東京医科歯科大学

厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業  
【脊柱靱帯骨化症に関する調査研究】 令和元年度第1回班会議

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業  
【後縦靱帯骨化症患者レジストリの構築】  
【後縦靱帯骨化症に対する骨化制御機構の解明と治療法開発に関する研究】  
令和元年度第1回合同班会議

令和元年7月6日(土)  
堂

於：東京医科歯科大学 M&D タワー2F 鈴木章夫記念講

8:30 基礎班ミーティング 東京医科歯科大学 3号館2F 医学科講義室1

(敬称略)

10:00 開会の辞 脊柱靱帯骨化症に関する調査研究班 研究代表者 大川 淳

10:05 ご挨拶 厚生労働省難病対策課  
ご挨拶 国立保健医療科学院 研究事業推進官 武村 真治

ご挨拶 AMED 戦略推進部 難病研究課 調査役 中島 唯善  
ご挨拶 全国脊柱靱帯骨化症患者家族連絡協議会 会長 増田 靖子

10:20 多施設臨床研究報告1(発表7分、質疑3分)

座長 筑波大学 國府田 正雄

1) 半自動解析ソフトウェア：SCT を用いた OPLL-DTT 評価 -多施設前向き研究-

慶應義塾大学  
中島 大輔

2) 頸椎 OPLL 患者立脚型データによる痛みと行動制限の実際と全脊柱 CT 画像の前向き評価

東京医科歯科大学  
平井 高志

3) 胸椎後縦靱帯骨化症に対する脊髄モニタリング多施設研究

浜松医科大学  
吉田 剛

4) 頸髄症患者における術後脳局所活動の可塑性と予後予測

大阪大学  
武中 章太, 牧野 孝洋, 坂井 勇介, 海渡 貴司

5) FOP-ラパマイシン治験の進捗(AMED 研究)と患者レジストリの構築

東京大学  
芳賀 信彦

11:20 基礎研究・治療開発研究

脊柱靱帯骨化症、治療開発研究 今後の展望

慶應義塾大学  
松本 守雄

11:25 基礎講演

座長 理化学研究所 池川 志郎

**12:10 ---食事休憩---** (弁当配布)

「脊柱靱帯骨化症研究班」幹事会 3号館 3F 医学科講義室 2 (担当:吉井)  
(幹事会には各分担施設より1名ご参加ください)

患者会との懇話会 --- 3号館 6F 大学院特別講義室 (担当:湯浅・加藤)

**13:00 臨床講演**

座長 慶應義塾大学 松本 守雄

班会議 5年間のまとめ

東京医科歯科大学  
大川 淳

**13:35 多施設臨床研究報告 2 (発表7分、質疑3分)**

座長 自治医科大学 木村 敦

6) 圧迫性頸髄症手術前後の転倒による症状悪化に関する多施設前向き研究

自治医科大学  
木村 敦

7) 胸椎黄色靱帯骨化症多施設研究

名古屋大学  
安藤 圭, 今釜 史郎, 小林 和克, 町野 正明  
両角 正義, 神原 俊輔, 井上 太郎

8) びまん性特発性骨増殖症に伴った脊椎損傷の調査 - 多施設研究 -

慶應義塾大学  
岡田 英次郎, 松本 守雄

9) 頸椎後縦靱帯骨化症レジストリ -AMED 研究-

東京医科歯科大学  
吉井 俊貴

14:20 閉会の辞

14:30 各分科会 (スモールミーティング)

- ・ 頸椎 + OYL Database ----- 共用講義室 1 (M&D タワー2F)
- ・ 全脊 CT ----- "
- ・ rs-fMRI ----- "
- ・ 転倒 ----- 医学科講義室 1 (3号館 2F)
- ・ DISH 脊椎損傷 ----- "
- ・ DTT ----- 整形外科研修室 (M&D タワー11F)

**令和元年度第2回班会議(予定)**  
**令和元年 11月30日(土)**

**厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業**  
**【脊柱靭帯骨化症に関する調査研究】**

**国立研究開発法人 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業**  
**【後縦靭帯骨化症患者レジストリの構築】**  
**【後縦靭帯骨化症に対する骨化制御機構の解明と治療法開発に関する研究】**  
**令和元年度第2回合同班会議**

令和元年 11 月 30 日（土） 於：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター1F Room C

9:00～ 「治療法開発研究班」ミーティング 1F Room A

（敬称略）

**10:30**

開会の辞	脊柱靭帯骨化症に関する調査研究班	研究代表者	大川 淳
ご挨拶	厚生労働省健康局難病調査課	課長補佐	谷口 倫子
ご挨拶	国立保健医療科学院	研究事業推進官	武村 真治
ご挨拶	全国脊柱靭帯骨化症患者家族連絡協議会	会長	増田 靖子

**10:45** 午前の部：臨床研究（多施設研究1）（発表8分 質疑2分）

座長 富山大学 川口 善治

- 1) 脊柱管狭窄を伴う非骨傷性頸髄損傷に対する早期手術と待機治療のランダム化比較試験  
**OSCIS study**

群馬大学整形外科  
筑田 博隆

- 2) **SCT** を用いた **OPLL-DTT** 評価 - 多施設前向き研究 -

慶應義塾大学整形外科  
中島 大輔、中村 雅也

- 3) びまん性特発性骨増殖症に伴った脊椎損傷の調査 - 多施設研究 -

慶應義塾大学整形外科  
岡田英次朗、松本 守雄

- 4) 進行性骨化性線維異形成症の多施設共同研究

東京大学医学部附属病院リハビリテーション科  
芳賀 信彦

- 5) 進行性骨化性線維異形成症に対する治療薬の開発研究

埼玉医科大学ゲノム医学研究センター  
片桐 岳信

**11:35** 基礎研究・治療開発研究

座長 理化学研究所生命医科学研究センター 池川 志郎

- ・治療開発班活動のまとめ

慶應義塾大学整形外科  
松本 守雄

- 特別講演 -

・ **FGF23** 関連低リン血症性くる病における靭帯石灰化

東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科  
伊東 伸朗

・ 3年間の総括と今後の展望

熊本大学整形外科  
宮本 健史

**12:40** ---**食事休憩**--- (弁当配布)

「脊柱靭帯骨化症研究班」の幹事会 **Room A** (担当: 吉井)  
(幹事会には各分担施設より **1** 名はご参加ください)

患者懇話会 **Room D** (担当: 湯浅)

**13:50** 午後の部: 臨床研究 (多施設研究 **2**) (発表 **8** 分 質疑 **2** 分)

座長 浜松医科大学 松山 幸弘

6) 圧迫性頸髄症患者の転倒による症状悪化に関する研究の最終報告

自治医科大学整形外科  
木村 敦

7) 大規模多施設前向き研究による頸椎 **OPLL** 患者の臨床症状と画像所見との検討

東京医科歯科大学 平井 高志  
富山大学 川口 善治

8) 脳 **rs-fMRI** を用いた頸髄症の新規バイオマーカー探索 - 多施設研究の進捗報告 -

大阪大学整形外科  
武中 章太、牧野 孝洋、坂井 勇介、海渡 貴司

9) 頸椎後縦靭帯骨化症レジストリ - AMED 研究 -

東京医科歯科大学整形外科  
吉井 俊貴

10) 胸椎後縦靭帯骨化症、黄色靭帯骨化症前向き多施設研究

名古屋大学整形外科  
安藤 圭、今釜 史郎、小林 和克、中島 宏彰、町野 正明  
伊藤 定之、神原 俊輔、両角 正義、井上 太郎

11) 後縦靭帯骨化症に対する多施設前向き脊髄モニタリング研究

浜松医科大学整形外科学  
吉田 剛

**15:00** 指定講演（発表 8分 質疑 2分）

座長 筑波大学 國府田正雄  
金沢大学 加藤 仁志

1 2 ) 果樹栽培中の頸髄損傷に関する臨床および疫学的検討

弘前大学整形外科  
和田簡一郎

1 3 ) 胸椎 **OPLL** に対する後側方進入脊髄前方除圧術

金沢大学整形外科  
加藤仁志、出村 諭、新村 和也、米澤 則隆、奥 規博  
北川 亮、半田 真人、安念 遼平、土屋 弘行  
名古屋市立大学整形外科 村上 英樹

1 4 ) 頸椎前縦靭帯骨化症の骨化形態と嚙下困難の検討

東京医科大学  
村田 寿馬

1 5 ) **O-arm** ナビゲーション支援による **OPLL** 前方手術とその応用

済生会川口総合病院  
坂井顕一郎

1 6 ) 強直性脊椎骨増殖症を伴う頸椎骨折の特徴と治療成績について - 術後死亡率に着目して -

東海大学医学部外科学系整形外科  
田中 真弘、加藤 裕幸、酒井 大輔、檜山 明彦、佐藤 正人、渡辺 雅彦

1 7 ) 肥満による胸椎後縦靭帯骨化症の進展機序

- 新たな治療ターゲットとしての炎症性アディポカイン -

北海道大学整形外科  
遠藤 努、高畑 雅彦、小池 良直

1 8 ) 有限要素法を用いた頸椎後縦靭帯骨化症の解析 - 頸椎と頸髄の同時シミュレーション -

山口大学医学部附属病院整形外科  
西田 周泰、今城 靖明、鈴木 秀典、船場 真裕、坂井 孝司

1 9 ) 骨化巣の 3次元画像解析と全脊柱 **CT** 研究による骨化進展と頸椎機能解析

新潟中央病院 脊椎・脊髄外科センター/新潟大学医歯学総合病院  
勝見 敬一

2 0 ) 後縦靭帯骨化症への人工知能の応用

千葉大学大学院医学研究院整形外科  
牧 聡

2 1 ) 胸椎後縦靭帯骨化症に伴う重度脊髄障害に対する **HAL** を用いた機能再生治療

筑波大学整形外科  
安部 哲哉

**16:40** 閉会の辞